

特集　来世紀に引き継ぐ
－わざ、もの、こころ－

2000 9

建築と社会

Architecture and Society

日本建築協会

模型とCGが創る世界。

MODEL **C**OMPUTER **P**RESENTATION

あらゆる分野の模型企画・制作をはじめ
模型・3DCG・実写の様々な組合わせによる
高精度のプレゼンテーションツールを提供します。

- 模型・CG・実写の合成シミュレーション
- CGアニメーション
- ビデオパッケージ制作



株式会社 ヤマネ
〒561-0832 大阪府豊中市庄内西町４-３-11 TEL(06)6332-0157 FAX(06)6332-7086
ＵＲＬ：http//www2.osk.3web.ne.jp/~yyamane E-mail：yyamane@osk2.3web.ne.jp

郵便はがき

料金受取人払

大阪中央局
承認
3175

差出有効期間
平成12年9月
22日まで

530-8790

751

大阪市北区
梅田1-1-3-2100

社団法人 日本建築協会
御中

平成12年度臨時総会
（平成12年9月27日［水］17時開催に）

出　席・欠　席

該当するものを○で囲んで下さい。
ご返信は9月22日（金）までにお願いします。

※ご欠席の場合は委任状を必ずご提出願います。

委　　任　　状

社団法人日本建築協会臨時総会における議案の議決に関する権限を下記の者に委任します。

議　長　　又は、　　出席正会員

※　○で囲んで下さい。

平成12年　　月　　日

正会員
住所＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

会告

平成12年度 臨時総会開催
―出欠の返事は綴じ込みハガキで!

平成12年度臨時総会を右記のとおり開催いたしますのでご出席下さるようご案内申し上げます。
出欠のご回答は、本号に綴じ込みの「はがき」にてお知らせ下さるようお願いします。

と　き　平成12年9月27日(水)
　　午後5時から
ところ　社団法人日本建築協会
　　大会議室
　　大阪市北区梅田1-1-3-2100
　　大阪駅前第3ビル21階

議　案　定款変更(案)の議決承認の件
　　(議案の詳細は、本号巻末69pに掲載)

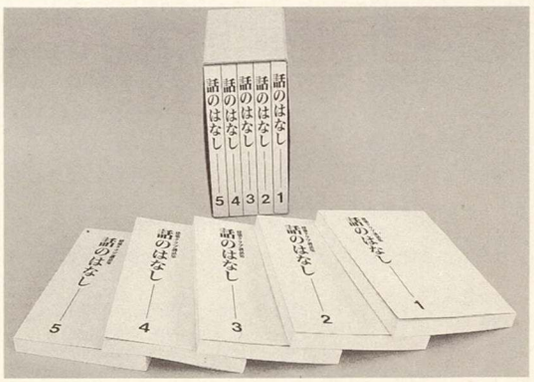
第47回青年技術者選考委員の委員交代のお知らせ

「建築と社会」誌12月号「第47回青年技術者」特集のため、青年技術者を広く募集中ですが、青年技術者選考委員会委員の中で施工部門の委員に交代がありました。
藤尾吉秀氏に代わり、大成建設関西支店建築部技術室長・林　一彦氏が選考委員に就任します。
第47回青年技術者選考委員会は、以下のメンバーとなります。

宮田照久
　昭和設計常任顧問
北浦正一
　竹中工務店開発計画本部部長
大西　晃
　昭和設計常務取締役
三輪康一
　神戸大学助教授・工学部建設学科
橋本健治
　坂倉建築研究所執行役員
近藤一雄
　東畑建築事務所構造部長
甲津功夫
　大阪工業大学教授・建築学科
大野修二
　清水建設大阪支店設備設計部長
栗山知広
　日建設計設備設計室長
水落和則
　大林組本店エンジニアリング本部大阪コンサルタント部部長
林　一彦
　大成建設関西支店建築部技術室長

講演記録集「話のはなし」残部頒布します!

昭和47年6月に発足した「建築クラブ」(日本建築協会会員有志の集まり)は、毎月1回、大阪市内のホテルに学者やジャーナリストをはじめ政界・経済界・文芸界・スポーツ・芸能界など広い分野から講師をお招きして、お話を聞く朝食会を開いております。
1997年、この朝食会の第300回を記念して、講演速記録を集約し、最終的に118回分を5冊1セット(1冊平均約320ページ)の本に編集いたしました「話のはなし」の講話の内容はとても多彩で、「おもしろい話」「貴重なはなし」「裏ばなし」などがいっぱい詰まっています。
残部を建築クラブの格別のご好意により、1セット・5,000円(消費税別途)



B6判　5分冊

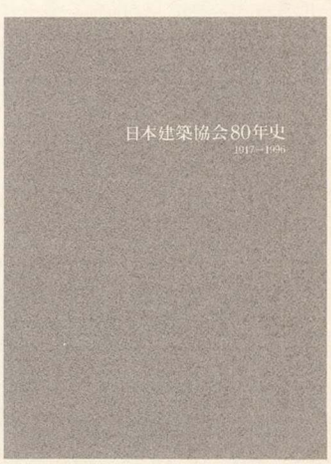
でおわけできることになりました。ご希望のかたは電話またはFAXでお申し込み下さい。

申込先：日本建築協会事務局
　　TEL06-6348-0635
　　FAX06-6348-0634

「日本建築協会80年史1917-1996」本会図書室にてご覧下さい!

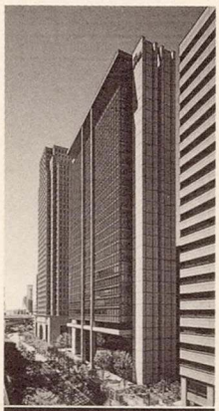
平成9年度から編纂を進め、昨年7月末に刊行された80周年記念事業の「日本建築協会80年史」は、1年たって、外国の大学図書館、日本国内の大学や公立図書館からの引き合いが多く、献本を重ねて残り少なくなりました。
大正6年3月30日に関西建築協会として誕生した日本建築協会の80年の歴史を、主催してきた各種事業や委員会活動を通じて、また、本会設立者の片岡安、武田五一以降現在までの会員たちの社会活動を通して知ることができる記念誌として、A4判・240頁にまとめています。
とくに、協会草創期の大正・昭和初期の片岡安ら協会のメンバーと当時の大阪市長・関一との交流を物語る一文は、大阪の都市計画史、あるいは関西の建築人物誌ともなっています。
この「80年史」は非売品ですが、会員のみなさまが閲覧できるよう、本会図書室に備え付けて開架しております。どうぞご一読下さい。

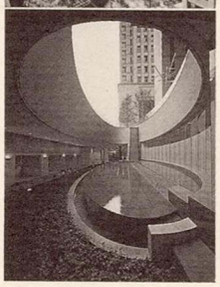
■執筆ワーキンググループ
坂本勝比古／安達英俊／石田潤一郎／植松清志／梅宮弘光／桐浴邦夫／酒井一光／橋寺知子／山形政昭／吉田高子／和田康由
■80年史編纂委員会
長谷部朔郎／安達英俊／近藤達夫／谷淳之介／十倉毅／原見昌志／和田康由／吉田悦二



A4判・240頁

話題建築を聞く
第30回
梅田ダイビル
（ガーデンシティタワーズ）





日　時　2000年**10**月**18**日(水)
18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　川島克也
日建設計設計室長
定　員　30人
＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
学生は半額
＊飲物付、税込
申　込　10月11日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：梅田ダイビル
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を10月12日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会情報小委員会
担当主査：大井昇二／大林組
上田淳一／野村建設工業

「梅田ダイビル」は、５社からなる投資家グループが約1.6haのJR貨物駅跡地を「建物提案方式」というかたちで入手し、100ｍを超えるオフィス２棟と約60ｍの病院とホテルの合計４棟を同時に建設するというプロジェクト「ガーデンシティタワーズ」の一画を占める超高層オフィスビルです。計画を始めた時には既に敷地東側のブロックでは、約100ｍのオフィスビル２棟と約60ｍのホテルの計画が進められており、最終的には約2.6haのスーパーブロックに、800%の容積を有する高層建物が７棟並び建つことになるという大阪市内でも他に例を見ない高密度な計画でした。
「超高密度な開発プログラムの中で、いかにして都市的で魅力あふれる歩行者環境を実現するか」ということを設計上の一大テーマとし、ブロックを南北に貫く広場空間、オフィスを大きく宙に持ち上げたピロティ空間、地下歩道「ガーデン・アヴェニュー」との接続、地下レベルでの通り抜け歩行者空間、水と緑によって演出したサンクンガーデンなど、立体的で都市的な歩行者環境をダイナミックな都市景観と共に創り出しました。
（川島克也）

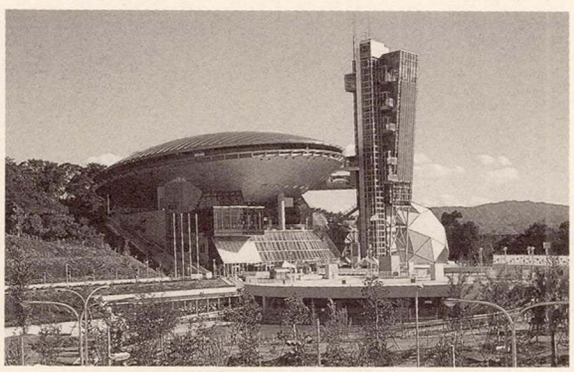


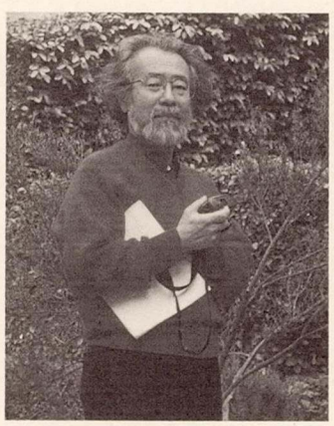
川島克也（かわしま　かつや）
1957年京都市生まれ
79　京都大学建築学科卒業
81　同大学院修士課程修了
日建設計入社
現在　設計室長
主な作品
神戸市新庁舎（1991神戸市建築文化賞他）
基町クレド（1997ひろしま建築文化賞他）
滋賀県立琵琶湖博物館（2000公共建築賞他）
神戸税関本関（2000BCS賞他）

所在地　大阪市北区梅田3-3
建築主　レールシティ西開発㈱
投資家　ダイビル㈱
設計監理　レールシティ西開発、日建設計
施　工　大林・鹿島・竹中・錢高JV
敷地面積　4,528.42㎡
建築面積　1,680.85㎡
延床面積　42,363.23㎡
構造規模　S・SRC、B3・23F・P3
最高高さ　120.80m
工　期　1997年10月～2000年５月

話題建築を聞く
第31回
大阪府立大型児童館
ビッグバン
交流広場

マンガ家で館長の松本零士氏が、「子どもと未来」のイメージで宇宙船が舞い降りたようなデザインと評し、展示計画の構想から具体化までを手掛け、開館後も子供達に評判がとても良い楽しい施設です。1992年基本構想委員会設置の時から坂倉建築研究所大阪事務所が担当し、傾斜地の建築だから内部の展示空間も立体的な構成に、自由に大胆に計画が進められました。
銀色の大きな円盤と傾いたガラスのタワー、正三角形と五角形による変形12面体でデザインした劇場、それらをガラスの面でつなぎ、閉鎖的な空間と全面ガラスの開放的な空間との対比をそれぞれの展示内容にも反映し、子どもにとっても意外性のある空間構成が意図されています。　（宮内　宏）





太田隆信（おおた　たかのぶ）
1934年台湾生まれ
58　坂倉準三建築研究所入所
69　坂倉準三建築研究所の発展に伴い坂倉建築研究所に改称
99　同研究所代表取締役

所在地　堺市茶山台1-9-1
建築主　大阪府
設　計　大阪府建築都市部公共建築室
坂倉建築研究所大阪事務所
監　理　大阪府建設監理協会
坂倉建築研究所大阪事務所
施　工　大成・三菱・森本JV
敷地面積　18,510.71㎡
建築面積　4,560.26㎡
延床面積　10,469.97㎡
構造規模　RC、一部S、B2・8F・P1
最高高さ　55.30m
工　期　1996年３月～1999年３月

日　時　2000年**10**月**27**日(金)
18:30—20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第３ビル21階
講　師　太田隆信
坂倉建築研究所大阪事務所長
定　員　30人
＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員 1,000円、一般 2,000円
学生は半額
＊飲物付・税込
申　込　10月20日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：ビッグバン
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を10月23日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会情報小委員会
担当主査：川村眞次／関西都市整備センター
宮内　宏／宮内商会

出版委員会企画
第23回<プロのノウハウ>講座

建物の汚れ―トラブル事例と解決策



企　画　(社)日本建築協会
編著者　「建物の汚れ」編集委員会
発行所　(株)学芸出版社
発行日　2000年6月30日
体　裁　B5判　168頁
定　価　本体3,500円+税

日　時　2000年10月24日(火)
18：00―20：00
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅第3ビル21階
講　師　大島雄太／「建物の汚れ」編集委員会委員・㈱竹中工務店大阪本店設計部主任・技術担当
定　員　30人
受講料　会員1,800円、一般2,000円
＊税込
テキスト　『建物の汚れ―トラブル事例と解決策』
＜特価3,400円　＊税込＞
＊当日持参される方は不要
申　込　本会事業課へハガキorFAXor電話でお願いします。
①催し名（「プロのノウハウ講座23」）
②氏名
③個人or団体会員・一般の別
④職場名or学校名
⑤受講票の送付先・電話番号をお知らせ下さい。
先着順で受講票を送付します。
申込先　〒530-0001
大阪市北区梅田1-1-3-2100
㈳日本建築協会事業課
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634



大島雄太氏（おおしま　ゆうた）
1947年　東京都生まれ
1971年　横浜国立大学工学部建築学科卒業。
同年　㈱竹中工務店入社、設計部及び設計本部にて、標準仕様、標準図等の作成及び現業支援業務に携わり、現在に至る

建物が汚れる原因はどこにあるのか。汚れないための対策はどうすればよいのか。再発防止策はあるのか。…
このような疑問に答えるために編纂されたのがこの一書です。
収録された事例は、関西でのプロジェクトにかかわってこられたゼネコン6社が、数年にわたって収集してきた資料をもとに編纂され、写真やイラスト、図表によってわかりやすく解説されています。また、外壁の汚れ、開口部の汚れ、床の汚れなど、「汚れ」の発生状況や原因などが部位別に整理されており、具体的な問題解決に直面しても、その糸口を手早く見つけ出せる内容となっています。
今回、当書の新刊発行にともない、当書編集委員会のメンバーとして尽力された大島雄太氏を講師にお招きし、建物に汚れが発生する原因や対策、再発防止のための解決策について、スライドを使いながら具体的に解説いただくことにしました。
設計者はもとより、施工者や建物のメンテナンスにたずさわる方々にはこの機会にぜひご参加いただき、「汚れ」に強い建物づくりの<ノウハウ>をつかんでいただきたいと思います。

設計者のための写真術
パートⅢ
設計に役立つ写真撮影会
会場:神戸ハーバーランド

好評だった前2回の講演会につづいて、いよいよ吉村講師の指導のもとに、実技にかかります。講師と同じ場所で一緒に写真を撮ってみましょう。ファインダーを覗かしてもらうのもテクニック開眼のための一つの方法ではないでしょうか。
多数のご参加をお待ちしています。

1999年9月、2000年3月の講演会で設計者としての建築写真の見方、撮り方、活用の仕方を、実例スライドを交えてお話ししました。
今回は、今までの講座の内容を踏まえて実地で建築の実務に役立つ写真の撮り方を皆様と一緒に学んでいきたいと思います。秋も深まる土曜日の午後、会場は、皆様にもなじみ深い神戸・ハーバーランドとしました。都市的なスケールからディテール空間まで、幅広くバラエティに富むロケーションです。海外旅行に出かけたときの撮影のシミュレーションや、夕暮れのシーンまで含めた、撮影のノウハウを体得するチャンスです。愛用のカメラと三脚持参でふるってご参加ください。

（吉村行雄）





吉村行雄（よしむら　ゆきお）
1946年大阪市生まれ
1971　武蔵野美術大学造形学部建築学科卒業
竹中工務店入社（本店設計部）
現在　本社広報 部長
一級建築士、建築写真家
受賞
1968　新建築住宅設計競技二位
1997　全国のカタログポスター展で写真集が通産省生活産業局長賞
写真活動
1971年より設計業務に携わる傍ら、建築写真撮影を行う。1984年より総本店広報のPR誌・社報等にて建築写真活動。国内各地で個展・グループ展、1998年にニューヨークで写真展を開催。

日　時　2000年10月28日(土)
午後2:00―5:00
会　場　神戸ハーバーランド
＊JR神戸駅前
講　師　吉村行雄
一級建築士、建築写真家
定　員　30人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員1,000円、一般2,000円
学生は半額
申　込　10月20日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
①催し名：写真撮影会
②氏名
③個人会員・団体会員・一般の別
④職場・学校名
⑤参加証郵送先
⑥連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を10月23日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
TEL.06-6348-0633
FAX.06-6348-0634
〒530-0001
主　催　㈳日本建築協会
事業委員会情報小委員会
担当主査：酒井重治

読者と織りなす

たて糸 よこ糸

「建築と社会」では、読者の声を誌面づくりに役立てるために、皆様の意見と、編集担当者の声を掲載していきます。

■6月号「スケルトン＆インフィル」特集で印象に残ったもの

□とくによいと思う作品

「ふれっくすコート吉田」

——SI住宅の最先進事例として、国際的にも高く評価できる。

□とくによいと思う記事

「スケルトンインフィルシステムの可能性」

——SI住宅の新しい方向が示されている。

（趙容準
韓国朝鮮大学教授／韓国住居学会副会長）

■良い作品の紹介にご協力を！

最近、土、日曜日に近畿地方の北部や、和歌山方面へ行く機会があり、地方の町に目新しい建物を見ることが多くあります。5月号にも木造校舎が作品作風に掲載されていましたが、レベルの高い作品が多く見受けられるように感じられます。ぜひ、今後とも良い作品をたくさん紹介していきたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願いします。

（編集委員　T·A）

■「gallery」取材後記

「gallery」欄に登場していただくため、取材とアイサツを兼ねてY.Sさんを訪れました。

初めてお会いするのでお互い、少々緊張しながらのスタートでしたが、作品を見ながらの打ち合わせは実にスムーズで、同時に相手がどんな方なのかということも、単に話を重ねる以上により良く理解できたような気がしました。個々の建物は場所も違い、形も異なるのですが、やはり建物というのは（創り手）の人となりがそのまま出てくるものだということを、改めて感じた一日でありました。

（編集委員　H·M）

■取材を通して素材の意外性を知る

誌面の打ち合わせのため、ガラスを扱う作家と会う。彼の言によると、その辺の土をバーナーで吹き、1600℃以上の熱を与えると溶けて柔らかな飴状になり、黒褐色のガラスが出来るという。土の成分の60%が、ガラスの主原料の二酸化ケイ素で構成されているからだそうだ。陶器や塗壁といったざっくりしたものと結びついていた土が、手の加え方で冷たく繊細なガラスにも変化するとは驚いた。この身近な素材には、もっと他の面があるに違いない。ますます魅力的である。

（編集委員　N·K）

切り取り線

「建築と社会」読者アンケート

「建築と社会」では、読者の方々のご意見を参考に、充実した誌面づくりをめざしております。今月号で、とくによいと思われた作品、記事、その他についてのご意見をFAXでご送付下さい。
なお、このご意見は、読者と選ぶ第1回『建築と社会賞』の1次選考に反映されます。

□とくによいと思われた作品

よいと思われた理由

□とくによいと思われた記事

よいと思われた理由

□その他、本誌についてのご意見や、取り上げてほしい内容などがありましたらご記入下さい。

2000年9月号

送付先：
㈳日本建築協会
「建築と社会」

FAX 06-6348-0634

お名前

□ご意見は、誌面に取り上げさせていただくことがありますが、その場合はイニシャルのみを掲載させていただきます。

勤務先　　TEL

建築と社会 9 2000
ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

1917年創刊　第81集／通巻942号

今月の表紙

表紙デザイン／笹村欽也
建築写真／河合止揚

●宇治電ビル
設計／長谷部竹腰建築事務所
施工／清水組
竣工／1937年4月
所在地／大阪市北区梅ヶ枝町

●次の時代を予感させる、細く軽やかなディテールと薄く柔らかな白色のタイルが全体を覆っている。レリーフ装飾の落とす影が、深みを創り出し、その印象を決定づける。このビル名の由来を知る人は、数少ないと思う。しかし昔より親しまれ、記憶に残る建物だからこそ、いまだにその名前を変えずにいるのだろう。　（笹村）

■特集予告
10月号／時間
11月号／私の空間作法
21世紀の高齢者の居住環境
12月号／第47回青年技術者

編集委員会（平成12年度）

■副会長
井上　豊
菜袋　公明
■編集理事
内田　直樹
小島　雄
佐野　吉彦
竹中　統一
畠山　祐治
広原　盛明
松村　慶三
◎宮田　照久
山田　修
■特集小委員会
□計画分科会
★計画系
伊縫　憲幸
梅田　善愛
梅村　宏尚
小浦　久子
※鈴木　克彦
田中　直人
紅谷　昇平
松田奈緒子
横関　真紀
吉村　英祐
★建築計画系
江副　敏史
菅野　忠司
小林　優子
佐藤不二男
桜井　則雄
※笹村　欽也
塚本　史郎
所　千夏
野田　隆史
服部　光宏
吉村　淳二
★インテリア・住宅系
※石川　佳子
石谷　彰敏
加藤　力
北浦かほる
小梶　吉隆
小島　保人
佐藤　勝紀
中村　孝之
中村　雅人
西田　和子
畑　康之
ペリー史子
□構造分科会
岩永　速典
※大氏　正嗣
金田　興熙
河野　隆史
木下　隆嗣
岸本　一蔵
佐治　明志
園田　隆一
田中　剛
田辺　太一
陶器　浩一
松村　和夫

□設備分科会
梶井　宏修
河津　隆之
近藤　国夫
※近藤　正一
田ノ畑好幸
西岡　道雄
野口　太郎
桝井　貴廣
村上幸三郎
谷津　和久
山根　敏和
□施工材料分科会
※植田　実
小椎八重猛
竹中　秀文
太刀川丈爾
十倉　毅
能美　敏男
増田　信久
□法令分科会
伊勢　照男
池口　和雄
衣笠　春幸
黒木　省二
※椎名　辰之
西　輝行
■作品作風小委員会
△赤木　隆
浅尾　宏
朝倉　一晃
居内　章夫
井上　雅祐
川上比奈子
倉洲奈千子
寺岡　宏治
中村　文紀
前川　治彦
増田　敬彦
増田　俊哉
山田　俊紀
吉田　健二
■会員企画小委員会
稲木　裕子
大谷由紀子
河崎　敦子
△高岡　伸一
髙田　光雄
髙橋　麗子
辰巳　清一
塚口　明洋
辻川ひとみ
福田　瑞穂
■広告企画小委員会
小幡　義明
加納伸太郎
勝　一弘
小山　昭
斉藤　治久
△武田　修示
千葉　耕作
平松　勉
福西　延招
前田　衛
渡邊　浩文

◎委員長　△副委員長　※幹事

印刷　2000年8月25日
発行　2000年9月1日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電話　06-6348 0635
振替口座　00910-9-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本データネット株式会社
定価　1200円〔本体価格1143円〕

CONTENTS

特集●　来世紀に引き継ぐ—わざ、もの、こころ—

［総論］　建築の精神を引き継ぐ●西村征一郎　18
［エッセー］　空間を構成する技師●岡田聿之　24
彼らの、高まりの時●佐野吉彦　25
茶色のタイル●本城邦彦　26
増田友也の建築的思惟●前田忠直　27
前川國男—今なお架空の対話は続いている—●松隈　洋　28
師—浦辺鎮太郎●森本正一　29
実測により古建築の心を学ぶ●吉村篤一　30
［座談会］　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ—若手建築家達の＜継＞の論理—」　31
●遠藤秀平／高砂正弘／長坂　大／本多友常

特別企画●　安田生命大阪ビル
［グラビア］　作品　54
［記事］　安田生命大阪ビル竣工にあたって●菅原　淳　59
計画●岡本　隆／大澤　智／阿波野昌幸／金　泰彦／稲田延彦　60
施工●林　一彦／守田　進／奥畑浩一郎　62
［建築概要］　断面図、平面図　65

会告　平成12年度臨時総会開催.第47回青年技術者選考委員の委員交代のお知らせ.講演記録集「話のはなし」残部頒布します！.「日本建築協会80年史1917〜1996」本会図書室にてご覧下さい！.話題建築を聞く㉚梅田ダイビル（ガーデンシティタワーズ）.話題建築を聞く㉛大阪府立大型児童館ビッグバン交流広場.＜プロのノウハウ＞講座㉓建物汚れ—トラブル事例と解決策.設計者のための写真術Ⅲ設計に役立つ写真撮影会.読者と織りなす“たて糸よこ糸”.　1

作品作風　梅田ダイビル　6
ふくやま産業交流館ビッグ・ローズ　10

gallery　庭を生かす家（横内敏人）●居内章夫　12
Sketch Book　各地にみる建築作品8点　14
建築の眼　ライトの創作の秘密（その2）●辻　正矩　京町家に見られる心置き●富山育子　高速道路と看板●遠松展弘　TDR●松岡昭吾　16
Book Station　短評4題●高岡伸一・辻川ひとみ・塚口明洋　37
W　建築家おすすめデートスポット—天神橋筋商店街（竹原義二）●高橋麗子　38
法令コーナー　地方分権と都市計画法の改正●浜野幸雄　40
構造の頁　石にプレストレスを導入する●大氏正嗣　42
設備の頁　SI集合住宅における設備●高橋紀行　44
基礎講座A　実例その5・はがきを読む●山田　修　46
基礎講座B　自動火災報知設備—3—●西尾　勇　47
information　ドコモモ20選in高崎.第16回睡眠環境シンポジウム.『知っておきたい今注目のPFI！』.子どもがかがやく21世紀の都市—自然をつなぐ、心をつなぐ—.「建築・設備総合管理技術者」講習会.医療福祉建築フォーラム.「福祉住環境コーディネーター試験対策講座」9月開講.ecobuild—すまい・建築・都市の環境展—.環境共生住宅に係る技術講習会.　48
投稿　昭和の名建築、駅前再開の中で保全・活用を！●柴田正己　49
月間の動き　平成12年6月分　50
資料　日本建築協会定款の変更について　69


Canon
imageRUNNER
iR3250

作品風作

設計・監理■
レールシティ西開発・日建設計

施工■
大林組・鹿島建設・竹中工務店・錢高組共同企業体

梅田ダイビル

「梅田ダイビル」は、5社からなる投資家グループが1.6haのJR貨物駅跡地を「建物提案方式」というかたちで入手し、100mを超えるオフィス2棟と約60mの病院・ホテルの合計4棟を同時に建設するというプロジェクト、「(仮称) ガーデンシティタワーズ」の一画を占める超高層オフィスビルである。

「超高密度な開発プログラムの中で、いかにして都市的で魅力あふれる歩行者環境を実現するか」ということを設計上の一大テーマとし、ブロックを南北に貫く広場空間、オフィスを大きく宙に持ち上げたピロティ空間、地下歩道「ガーデン・アヴェニュー」との接続、地下レベルでの通り抜け歩行者空間、水と緑によって演出したサンクンガーデンなど、立体的で都市的な歩行者環境をダイナミックな都市景観と共に創り出している。

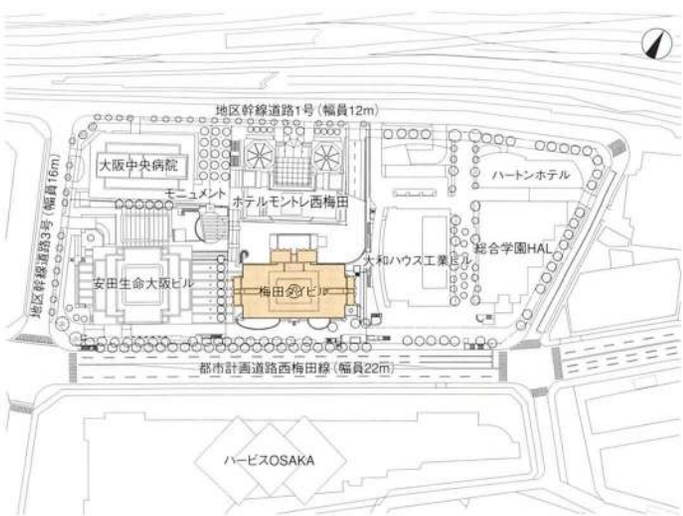
一方、スーパーフレーム構造のメリットを最大限に活かして、階高4mのなかで30cmのフリーアクセス床によるフリーアドレス床下空調と3mの天井高を両立させ、電動木製ブラインドとロールスクリーン併用のエアバリア方式の窓周りによって天井から床までの大きな窓を実現するなど、これからのゆとりあるオフィス環境づくりへの提案をおこなっている。 (川島克也／日建設計)



▲南面外観

▼1階ピロティーより玄関ホールを望む

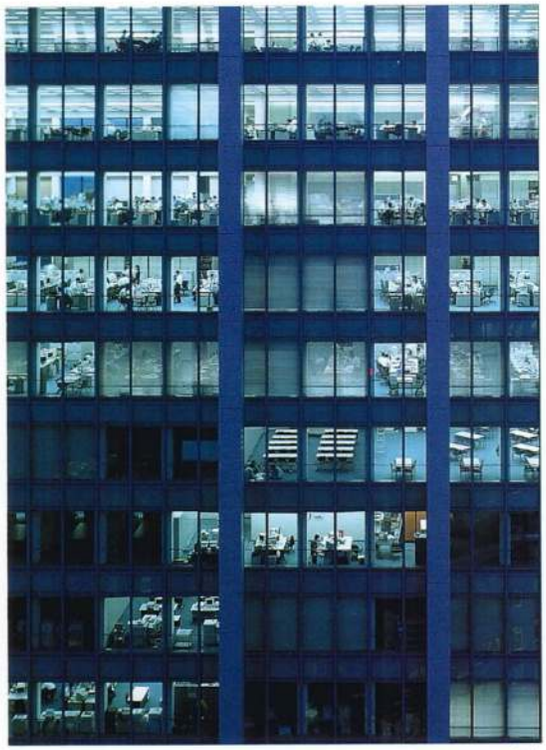




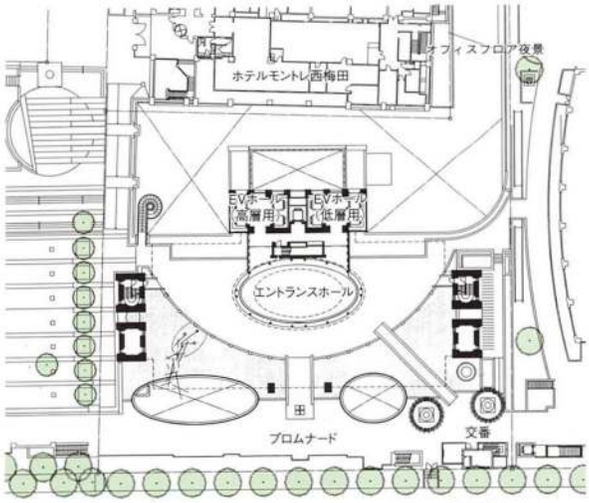
配置図 1：4000

所 在 地 ——大阪市北区梅田3丁目1002
敷地面積 ——4,528.42㎡
建築面積 ——1,680.85㎡
延床面積 ——42,363.23㎡
構造規模 ——SRC、S、B3F、23F、P3
工　　期 ——1997年10月～2000年5月
最 寄 駅 ——JR大阪駅、阪急・阪神・市営地下鉄梅田駅
撮　　影 ——東出清彦

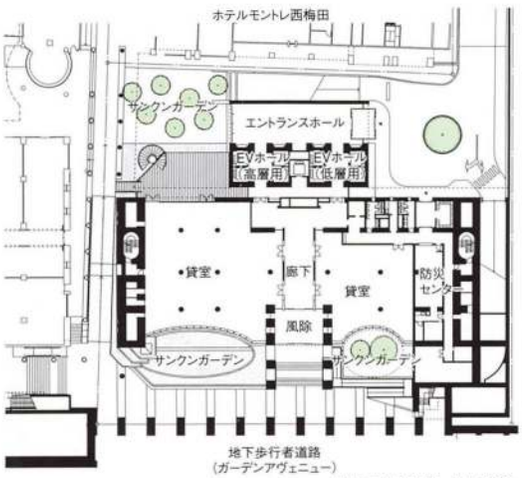




オフィスフロア夜景



1階平面図　1：1300



地下1階平面図　1：1300



地下1階サンクンガーデン



地下1階エントランスホール



作品風作

設計・監理■
広島県土木建築部都市局営繕課・日建設計

施工■
錢高組・安藤建設・三島産業共同企業体

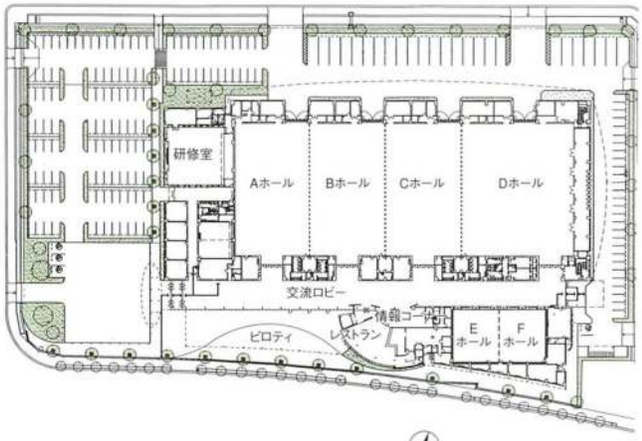

正面全景

ふくやま産業交流館
ビッグ・ローズ

福山は広島県東部・備後地域の中心であり、敷地は、大学や医療施設の整備がすすめられている福山市北部に位置している。産業交流館は、中・四国の産業振興と活性化をめざす新しい産業・情報・交流の拠点と位置付けされた施設である。

施設は、有効高さ12m以上、床荷重5t/㎡、4分割可能で、スポーツ・レクリエーション利用もできる4,500㎡の本格的大空間・産業展示場を主に、レセプションホールともなる小展示室、セミナーや国際会議のできる研修室・会議室、関連情報の受発信基地・情報コーナー、このコーナーと連動できるレストランなどの機能よりなっている。これら全ての機能を、1階のフロアーで、また120mの光あふれる交流ロビーを中心にまとめ、使いやすくわかりやすい構成とした。更に、展示とスポーツ利用が同時並行可能なように、東西にエントランスを設け、ゾーン区分が明確にできる仕組みとしている。外観は、中国山地の山並みを象徴するステンレスのゆるやかな大屋根と、縦スリットで分割されたマッシブな割肌磁器タイルとコンクリート打ち放しの壁面、国道に面したスレンダーなFR鋼列柱のテラスで構成し、シンプルでダイナミックな景観をつくっている。

（中井　進・田中公康／日建設計）



1階平面図　1：2400

所在地 ——福山市御幸町大字上岩成字正戸476-5
敷地面積 ——20,789.18㎡
建築面積 ——11,266.50㎡
延床面積 ——11,319.92㎡
構造規模 ——SRC、S、2F
工　期 ——1998年10月～2000年2月
最寄駅 ——JR福山駅より北へ10km
撮　影 ——東出清彦


展示ホール大屋根見上げ


ホール入口トップライト


展示ホール（A～D 4,500㎡）


交流ロビー

gallery

庭を生かす家

設計
横内敏人

家の設計を依頼された時は、庭と家具も一緒に設計できるように必ずお願いしている。いくら頑張って良い家を設計しても、その外にある庭とその中にある家具とが家と調和していないと良い空間が生まれないからである。特にこの家のように敷地が広い場合、庭をどうするかは家での生活の豊かさを左右する大きな問題となる。朝から晩までの光の移り変わりや天候、季節の変化をいかに感じ取ることができるか。建築そのものの表現というよりは、いかにそれらの変化を室内空間に取り込むかが設計における最大の関心事である。極端な話、家は庭を観賞するための装置だと思ったりもするのである。



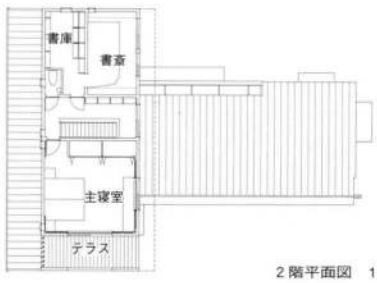


横内敏人（よこうちとしひと）
1954　山梨県甲府市生まれ
1978　東京芸術大学美術学部建築科卒業
1980　マサチューセッツ工科大学大学院修了
　　前川國男建築設計事務所を経て
1986　独立、現在に至る
現在　京都造形芸術大学
　　環境デザイン学科教授
　　横内敏人建築設計事務所主宰

撮　影—新建築写真部
企画編集—居内章夫（作品作風小委員会）



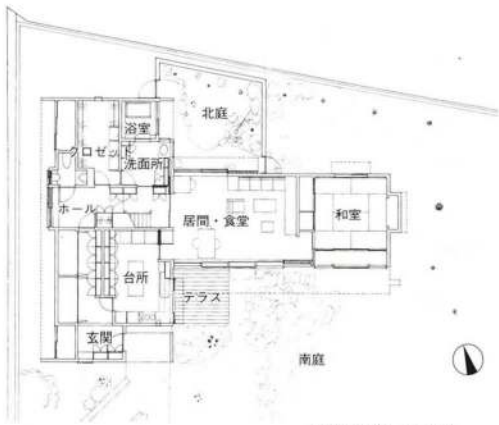




2階平面図　1：400



配置図　1：1400



1階平面図　1：400



2724

2724 特別養護老人ホーム　加寿苑

設　計：三座建築事務所
施　工：長谷工コーポレーション
a．大阪市淀川区加島１丁目550-1他６筆
b．3,265.14㎡
c．1,850.37㎡（既設デイサービス294.34含む）
d．4,136.68㎡（既設デイサービス610.79含む）
e．RC、3F
f．平成11年３月～平成12年２月

この建物は、21世紀に到来する超高齢化社会への対応と、地区の総合的なまちづくりの一環として建設計画が打出された。特別養護老人ホームは個室化やグループホームという新しい方向にあるとともに、2000年４月より実施された介護保険により施設間の競合になることが想定され、これに耐えうるように魅力のある施設をめざした。
「人権」「いきがい」「やすらぎ」をキーワードに、「住まい」として、利用者に生活をしていただけるように考慮した。施設の特徴は、個室を多くとり、また、４人居室と１人居室の組合せにより５つの居住ゾーンを設けグループホーム化を図った。立地条件として北側の保育所や東側のせせらぎの流れる公園との一体化を図り開放的な計画とした。子供の歓声や公園で遊ぶ親子連の姿は、入所者のよい刺激となるだろう。



2719

2719 海部古墳資料館

設　計：大分市役所建築課
施　工：塩地工務店
a. 大分市大字里字大塚646－１　他
b. 32,800.00㎡
c. 415.45㎡
d. 627.39㎡
e. RC＋S、１F、B１F
f. 平成10年10月～平成11年12月

この建物は、国指定史跡亀塚古墳の保存整備事業として亀塚古墳公園内に建設された施設です。古墳を中心に都市計画公園として景観、植物、動物等自然資源の保全を図ることを計画の目的とするなかで、はにわの船をイメージした外観となっています。規模は鉄骨鉄筋コンクリート造地上１階、地下１階建て約627㎡で、１階が展示室となります。地階は研修室、事務室です。展示室には亀塚古墳など市内の代表的な古墳の復原模型や出土品、さらに海部地方の各古墳から出土した副葬品のレプリカなど約150点以上の資料を展示するとともに世界や市内の文化財情報などがわかりやすく学習できるよう工夫されています。大分市東部の新しい魅力の観光スポットとして、広く市の内外からも多くの人々にご利用していただけるものと期待しています。



2720



2721

2720 財団法人　日本舞台芸術振興会本社ビル

設　計：新井組一級建築士事務所
施　工：新井組東京本店
a. 東京都目黒区目黒４丁目26番４号
b. 1,081.12m²
c. 900.00m²
d. 3,539.93m²
e. S（一部RC及SRC）、４F、B１F
f. 平成10年９月～平成11年７月

2721 平ヶ崎（今津）県営住宅

設　計：滋賀県建築設計監理事業協同組合
施　工：八田建設
a. 滋賀県高島郡今津町大字日置前477
b. 2,364.56m²
c. 997.88m²
d. 1,465.43m²
e. 枠組壁構造２F
f. 平成11年３月～平成11年12月



2724



2725

2724 北海道立総合体育センター（愛称　きたえーる）

設　計：久米設計・アトリエブンク・中原建築設計
施　工：地崎工業・岩倉建設・岩田建設・東急建設　他
a. 札幌市豊平区豊平５条11丁目
b. 40,000m²
c. 18,900m²
d. 33,000m²
e. S・RC・SRC・PC、３F、B１F
f. 平成８年10月～平成11年９月

2725 日吉駅交流センター

設　計：ジェイアール西日本コンサルタンツ
施　工：大鉄工業
a. 京都府船井郡日吉町字保野田小字市野１－４
b. 1,200m²
c. 190m²
d. 181m²
e. RC、１F
f. 平成11年３月～平成11年９月



2722



2723

2722 太平洋クラブ成田コースクラブハウス

設　計：鴻池組東京本店１級建築士事務所
施　工：鴻池組東京本店
a. 千葉県成田市川栗字道明塚106番地 他
b. 980,692.00m²
c. 3,285.97m²
d. 4,621.77m²
e. RC＋S、２F
f. 平成11年４月～平成11年９月

2723 中突堤前歩道橋エレベーター

設　計：神戸市港湾整備局、中央復建コンサルタンツ
施　工：池内工務店、三菱電機
a. 兵庫県神戸市中央区海岸通４丁目
c. 14.85 m²
d. 31.642m²
e. S
f. 平成11年７月～平成11年12月

凡例
a. 所在地
b. 敷地面積
c. 建築面積
d. 延床面積
e. 構造規模
f. 工期

ARCHITECT's EYE

ライトの創作の秘密（その2）

辻　正矩

F.Lライトの多作のもう一つの秘密は、いくつかの基本的なパターンを組み替え、形態操作することによって、多様なバリエーションをつくりだす点にある。

彼の住宅の機能図式を玄関（E）、居間（L）、食堂（D）、台所（K）の４つの主要な室の結びつき方で分類すると４つのタイプにまとめられるが、初期の作品によく見られるのは、玄関を入ると左右のいずれかに居間と台所があり、居間は食堂につながり、食堂は台所につながり、台所は玄関につながるという、E—L—D—Kが環状に連なるタイプである。ライト自邸、ウィンズロー邸、ウィリッツ邸など彼の代表的作品はこのタイプが多い。彼はこれらの限られた基本型からたくさんの変化型をつくり出している。

彼の住宅の中には、１つのプランを90度回転させたものや、左右を反転させた鏡対称のものなどウリ二つの平面構成をもつものがある。また、直線的な平面の形を半円形に変形したものもある（たとえばデヴィッド・ライト邸を曲げると半円形のロイド・ルイス邸に類似する）。これらは座標変換とよばれる幾何学的な形態操作によるものである。今日ならコンピュータを用いて、容易にこれらのバリエーションをつくりだすことができる。このコンピュータ・エイジにライトが生きていれば、膨大な数の建築作品をつくりだしていることだろう。

大阪工業大学建築学科教授

京町家に見られる心置き

冨山　育子

職業柄、境界線から道路や隣地にはみ出している建築物の一部は気になる。ところが、京都の都心の伝統的な木造家屋は、道路側に軒及び庇等、隣地側にけらば及びうだつ等が越境しているものが見受けられる。ツワモノとなると道路に出格子が…というものあったりして興味深い。

これらの建て方の慣習は、限られた敷地を有効に活用しながら陽射しや雨水を防ぎ、家屋の耐久性及び室内の居住性を高め、建築物の意匠を整え、道路側にあっては、軒下という半公共的な空間を形成し町並みに奥行きを持たせるなど、てんこ盛りの効果を期待するものであったと思われる。これは断じておおらかなのではなく、おたがいさまの精神の現れと見る。

また、プライバシーや相隣関係への配慮なら、側面に互い開口部を設けない、玄関は両隣りが隣接したり対面の家と直面しないように配置する、通り庭と居室の並びを交互に配列するなどの作法があげられる。

越境はもちろんNGだが、ご近所の平安のため、現代の建築計画でも参考にしたいことがたくさんある。

京都市都市計画局建築指導部審査課

高速道路と看板

遠松　展弘

先日、東京駅から高速バスにのって筑波研究学園都市へ出かける機会があった。東京駅を出て間もなく首都高速道路に入ったが渋滞もあり、久しぶりに東京の街並みをゆっくり愉しむことができた。兜町から隅田川沿いを抜けるコースで、ビルの谷間を高速道路が駆け抜ける光景は大阪市内の阪神高速と余り変わらないが大阪に比して看板の類が極端に少なく、さすが東京は都市景観の指導が行届いていると妙に感心した。途中でバブルの時代に話題となったビール会社の屋上に据えられたスタルク作の空飛ぶ金色のUNTIの真横を通り抜けた。その金色は褪せることなく、メンテナンスが行届いているのが伺える。金色のUNTIは明らかに高速道路を意識した看板モニュメントであるが、これぐらいの「いろどり」は都会の活力、賑わいを示すもので、あってもよいと思うのは看板に寛容な大阪人からか、もしスタルク作の但し書きがなければどういう評価を受けただろうか、許可されたのかどうかとも思う。東京は屋上看板もお金がかかるところのように見えた。もっとも所有者のビール会社にとってはその後の快進撃の守り神、「金運」の象徴なのかもしれない、道理でメンテナンスが良いはずだ。

高速バス終着の筑波で見た磯崎作の「筑波センタービル」はメンテナンスも十分でなく、入居者の勢いの違い、時代の移り変わりを感じさせ、好対照な印象を受けた。

日建設計取締役大阪本社副代表

TDR

松岡　昭吾

最近は日本でもリニューアルが見直され大きなマーケットになっています。アメリカは歴史が短いのですが古い建物の保存やリニューアルには大変力を入れています。例えばサンフランシスコでは築50年以上の建物を市が様々な観点から評価を行いランク付けをし、取り壊してもよい建物、歴史的建物として部分的なリニューアルしか認めないもの、完全に保存しなければならないもの等々に規制します。

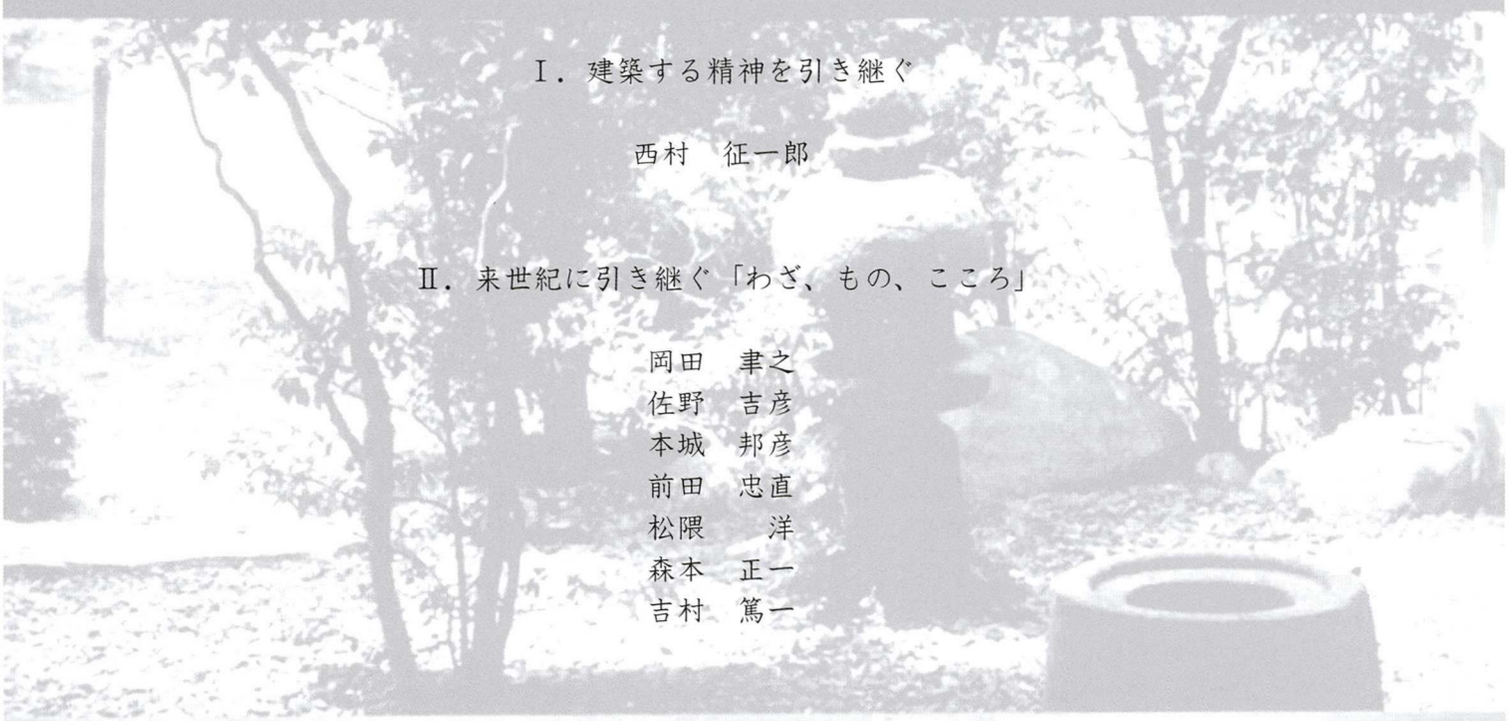
ここで歴史的建物として規制されると、新築や増改築でその土地の容積を使い切ることが出来なくなり、その結果資産価値は下がってしまいますし、都市の開発も進みません。そこで市はその土地にTDR（Transfer Development Rights）を与えます。これは日本で言う空中権にあたり、その土地の余剰容積を同地区内の他の敷地に売ることが出来る権利で、普通の土地のようにマーケットで売買されています。つまりTDRは歴史的な建物に指定された事による資産価値の低下を保障すると共に都市の開発を促進しているわけです。ＴＤＲの売買は同じ地区内の容積率のやり取りですから、都市計画的に見ても他地区とのアンバランスは起きません。歴史的建物の保存と地域の開発を両立させるなかなかうまいやり方だと思います。

鹿島建設㈱建築設計部長

建築の眼

特集

来世紀に引き継ぐ
～わざ、もの、こころ～



Ⅰ．建築する精神を引き継ぐ

西村　征一郎

Ⅱ．来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

岡田　聿之
佐野　吉彦
本城　邦彦
前田　忠直
松隈　　洋
森本　正一
吉村　篤一

Ⅲ．座談会：来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

―若手建築家たちの「継」の論理―

遠藤　秀平
高砂　正弘
長坂　　大

司会：本多　友常

企画：建築系分科会

建築する精神を引き継ぐ

西村征一郎
京都工芸繊維大学教授

村野藤吾の設計研究会

1995年、京都工芸繊維大学造形工学科に属する私の研究室は、日本建築家協会近畿支部を通じて、村野・森建築事務所の所有する図面・資料の整理・分類の作業を依頼された。背景となる諸事情を詮索するより、日本の著名な建築家の手による原図の流出の噂に加え、後述するような村野藤吾の建築への個人的な長年の想いで、とり合えずお受けする運びになった。宝塚の倉庫と心斎橋の事務所内の図面や写真パネル等、大小さまざまな資料の整理作業を、夏休みを利用し大教室で開始した。各資料の写真撮影、マイクロフィルム化への作業が続き、夏休み明けには、664点のCH焼４冊の製本として提出することができた。

一方、研究室では、せっかくのチャンスであるから、村野藤吾という建築家を少しでも理解しようとする自主ゼミを発足させた。建築に関する溢れるような情報の渦の中で育った学生が、80年近くも年上の村野藤吾を識ることは、情報不足の筆者の時代と異なり、意外に容易ではないのである。ゼミは作品集から著作集、手に入る諸々の関連記事の分析に及んだが、整理した図面と実物との照合もままならない。さらに複数の案からなる図面と建築雑誌、作品集に掲載されている図を比較し、その差異の持つ意味を解明するには、力不足は否めなく、ゼミは次第に空転していった。ところが、先の664点に加えて、村野事務所による図面の預託は、整理作業が全く追いつかないまま、どんどん進行していったのである。

1997年１月、幸いにも「松寿荘（1979）」の見学が可能になる。664点の図面中136点を占める作品で、村野藤吾の晩年の代表作とされ、スポンサー出光の迎賓館として最善を目指したものと言われる。村野本人も“私の全てがここにある”という。屋根の形を決定するに到る何重にも重なった線の入った図面と現実の照合。門の位置の変化、塀と屋根の高さの関係等々のエスキースの結果を実際に目にすることに興奮する。

その後、1999年９月現在、合計約37,000点に及ぶ膨大な図面－資料を受理し、現在も鋭意整理中であるが、あまりのボリュームに作業が追いつかない。整理には慎重、かつ十分な図面確認の能力を要する。このことを含め、又、社会、建築関係者にできるだけ早く貴重な資料を公開することを目標にして、1998年夏「村野藤吾の設計研究会（当時仮称）」を発足させ、建築界の御協力を仰ぐことになった。1999年11月には第１回の展覧会を開催し、カタログ（研究レポートを含む）の発刊に加え、シンポジウム（「村野藤吾の遺したもの」）も催すことができた。研究会は、現在（2000年７月）第12回を企画中であるが、展覧会、シンポジウムの企画を中心に、未確認なパース資料の特定、大阪そごう増改築計画の分析、関西大学の整備と設計、大ビル社宅の見学、村野作品にみる外部空間（庭園）についての講義、村野の協力者の証言（三浦模型他）、作品の現況調査と報告等々をテーマに継続中であり、年末には第２回の展覧会、シンポジウム、カタログの発刊を企画している。

村野の影響

思えば大学入学以来、建築を志して既に40年になる。我国の近代建築の歴史の後半を共にしてきたようなものだが、未だ志半ばである。村野先生風に言えば、未だ鼻垂れ小僧といったところであろうか。関西で建築を志してきた者にとって村野藤吾の存在は絶大なものであったと思う。もちろん、40年前の状況は、大学の図書館に２、３の洋書の建築雑誌、情報としてのコルビジェ以外、殆ど無かったと言ってよい。例えば、学園祭の出品建築模型にライトの落水荘を選んだのはよかったが、資料が手に入らない。わずかの図面と創造力を頼りに制作にはげむことになった。便所のブースの短辺を１mと仮定し、寸法を割出し、道場の窓ガラスをはずして石膏板を作るところから始めた記憶がある。しかし、すでに村野藤吾の「ドイツ文化研究所（1935）」は武田五一の京大病院と共に、東山通の市電の車窓の風景として印象に残っている。限られた情報の中で、実物から受けた強い印象は、後の建築的な感性に影響する。だから学生時代の前川國男のピロティと大庇の京都会館が、現在でも日本で一番好きな近代建築と断じてはばからない。同様に佐藤武夫の旭川市庁舎の外壁のレンガ色や、ライトの皇居前の帝国ホテルの光溢れる２階のラウンジ等も記憶に焼きついている。数年前、研究会をもつことになり、改めて村野

作品との出会いを考えてしまった。恐らく、一建築家の作品を見る機会をこれ程多く持つことはないであろう。できるだけ「プランタン（1954）」でお茶を飲んだし、「都ホテル（1939,1960）」に泳ぎに行った。「甲南女子大（1964）」のバザーにも闖入したし、「藤川画廊（1953）」もよくのぞいた。それでは、何に興味があったのか。単に知識のためだけでないことは間違いないが、どちらかと言えば、階段や手摺のディテールの美しさを真似ようとしていたと思う。甲南女子大の当時の見え隠れするアプローチの魅力もよく語り合った。それでも「大阪そごう百貨店（1935）」は興味がなかったし、今でも隣の大丸の方に魅力を感じる。又、仕事の参考に阿倍野の「村野事務所（1970）」の外壁タイル貼だけを見に行ったことがある。「宇部市民館（1937）」まで足を伸ばした。美しいエレベーションだったと思う。後に槇さんの豊田講堂を見た時、何故か「宇部」を思いだした。そしてなにより圧倒的な記憶が、やはり広島の「世界平和聖堂（1953）」と「日生劇場（1963）」である。

建築が人の感性を揺り動かすことができると確信したのは、恐らくこの２つによるものであろうか。私には「祈り」、「歓び」の具象化に思える。さらに具体的には、ホテルの設計に悩んでいる時には、村野さんに教えを乞う意味で、先の「都ホテル」「志摩観光ホテル（1969）」「新高輪プリンスホテル（1982）」等を度々訪れることになった。京都の風致、景観と都ホテルの塔屋のデザイン、雁行する客室廊下のヒューマンなスケールの志摩観、村野アールに満ちた新高輪の華麗さ、ホテルのデザイン、ホスピタリティの何たるかを学ぼうとした。大阪ロイヤルホテルの現場では、吉田五十八の美意識との差異、建築のもつ格調の意味についても、ある基準をいただいたようだ。一方、東京「千代田生命ビル（1966）」の建築群構成の自在さと端正なマリオンの美しさ、玄関庇をうける小柱群、塔屋のコールテン鋼の試みに眼を見張った。と同時に近代建築におけるオフィスビルのあり方の典型を見た思いで超高層時代の今も新鮮である。このように長い時を経て、村野作品に秘められた多くのエッセンスが、私のみならず、そこを訪れる多くの人々に刷り込まれていることだと思う。

研究会を始めて一原図や設計プロセスを識ると共に、村野晩年の小作品に出会うことになった。糸魚川の「谷村美術館（1983）」と小諸の「小山敬三美術館（1975）」、原村の「八ヶ岳美術館（1979）」である。谷村美術館は雑誌で拝見していたが、実物に接し、写真では味わえない興奮を久しぶりに覚えた。人気の無い糸魚川の駅から車で数分。谷村美術館は、個人的なヒューマンなスケールで迎えてくれた。エントランスから回廊状のアプローチは、恐らく俗界から展示空間を切り離す結界を意識させる仕掛けであろう。回廊から見る美術館本体は、建築雑誌の写真のようにスケールを度外視した仰々しさがなく、もちろん西域の風景云々の解説も空しく、むしろ「梅田換気塔（1963）」のデザインの系譜にあると思う。内部は澤田政廣による仏像の展示空間であるが、１体１体の仏像に固有の祈りの場の創造と、それらを結ぶ空間の有機的な連続性に魅了される。各仏像のスペースは、それぞれ異なった採光の方法が考えられ、彫刻としての像が光を受け闇を作る最適の状態が検討され尽くしているように見える。１つの像を見終えたその瞬間に次の空間が誘ってくれる。要するに、鑑賞者の期待が、それぞれ固有に空間演出された展示物と共に連続的に高まるような誘導であり、単なる動線計画ではない。さらにそこには、マネキンによるファッションの展示等にかけらも見えないような深い精神性が漂っている。谷村美術館の出口にあたるホールには、この建物の建設記録のコーナーが設けられている。施工図、関連の工事写真含め多数の貴重な資料がある。中でも、雪の現場での村野夫妻の葛藤の足跡は凄まじい。

図面の解釈

村野藤吾の建築設計図を見る機会が多くなり、今まで抱いてきた村野像に修正を余儀なくされている。当初の図面、資料整理の際に村野事務所のＴさんと親しくお話をすることがあった。最近入所する若者は、すぐ村野の具体的な設計手法を知識として知ろうとする。柱の面は○Ｒ、枠の見付は○cm、等々。でもこんなことで村野は理解できない。それは建築の置かれている状況に応じて全く異なり、その場に最適な解答を自分の感性で、納得いくまで徹底する姿勢だと言われたように記憶している。村野藤吾の図面の収集整理は、単に村野作品のカタログやデータベースづくりではない。これらの数多くの図面から何が読みとれるのか。その設計行為のプロセスに

含まれる諸々の知性、感性の痕跡を求めることができるのかが重要であって、雑誌に見る設計図と同様、設計意図の結末を表す図面だけなら、さしたる価値は無いものと考えている。先述した通り、学生時代以来、多くの村野作品を体験してきたが、そこに到ったプロセスの理解は乏しい。先の若者と同様、「村野さんならどうするか」という、いわば表層のマニュアル探しに明け暮れていたのかも知れない。1995年以来、図面を通して発見、あるいは確信するに到った私なりの思いを次の3点にしぼって述べてみたい。

●村野藤吾の建築に対する情熱あるいは執念は何であろうか

谷村美術館でも触れたように、90歳を超え、既に名声を得た大建築家が雪深い現場を何度も訪れている。これは常識的には異様な行為のように思えるが、私達関西の建築に携わる者の多くは、このドロドロした設計態度に少なからず影響を受けている。しかし組織事務所でなくても、通常の事務所運営では考えられない（ペイしない）。せいぜい建築設計を職能とする人々の目指すべき倫理規範と考える位であろう。「陰影礼讃」で建築的にも影響のある文豪谷崎の小論に「文章読本」がある。記憶違いを恐れずにいうと、日本の文学の系統には、源氏物語の紫式部の系と枕草子の清少納言の系があり、前者を「情」的、後者を「知」的な系とされる。これを私なりに建築の場合に転用するならば、さしずめ「情」的建築家、あるいは「知」的建築家ということになろう。もちろんこんな単純な分類が建築に許されることはないと思うが、経験的には、これら意識は「建築家」としてそれぞれにあり、その路線通り、あるいは意識的に偏向しようと試みているように見える。直観的に言えば、例えば前川國男は「情」的な建築家であったが、「知」的な理論で日本の近代建築のリーダーシップをとり、吉阪隆正は「情」的建築家で、その通りに活躍し、現在も影響を与え続けている。丹下健三は「知」的建築家で、きわめて理性的な判断に基づく設計態度であろう。そこで村野藤吾は「知」的な建築家であったと思う。しかし彼の指向は、あくまで「情」的、感性にうったえかける建築を試み続けたのではないだろうか。私はここに、ある種のコンプレックスにも似た、「情」的なものへの拘り、執念の原動力をみる。「様式」がある場合、「知」的なトレースは当然可能であるが、新たな創造には終着駅がない。階段の手摺の形状を決めるのに、縄を投げ続けさせたというエピソードがある。オリジナリティも偶然からと解することもできるが、それを取捨できる感性的判断が不可欠なことは言うまでもない。一方、できるだけ多くの時間を費やし、チャンスを持続することが、より良いものに結びつくはずだとする「知」的設計態度であると思う。

●2度と同型は造らない

村野藤吾の作品数を見ても、その膨大な数の作品に形の類似を見出すことは困難である。もちろん、形は異なっても、村野の建築には共通したある種の情感が漂っている。しかし、その具体的な手法の共通性は、一部のディテールや家具以外明瞭でなく、絵画や彫刻、陶芸等の作家に見る作品の固有の形が見うけられない。唯一、最近まで殆ど存在の知られなかった約100戸の住宅の平面には、明らかな共通性が見られるが、立面、断面図等が不明なので全体像の特徴は判じがたい。同形を造らないということは、前述の「知」的意志によることも考えられるが、建築が造られる唯一の環境に正解は1つしかないとする信念に基づくものに違いない。もちろん村野自身も作風の中にあらゆる可能性を求めていたであろうし、世界の建築情報からネタを仕込むこともありうる。現に関西大学のキャンパスには、どこかで見たような村野作品があるが、千代田生命塔屋のコールテン鋼の慎重な試用と同様、その場に最適な形を追求する作家の「持ち駒」が豊富であったと解釈する方が適切ではないだろうか。

●村野藤吾の和風とは

村野藤吾の作風を評価、特定することは、既述の内容を含め容易ではない。建築写真集は数多いが、写真のように、その解説は表層にとどまっていることが多い。建築素材自体は、ごく一般の市場品を使用しながら、独特の村野流にいたる設計上のポイントは何であろうか。設計過程の図面から読みとれることは（全容の解明に程遠

い現時点で)、(1) 平面でも、立面でも、形の上でシンメトリーでよいものを最後に少し崩す。(2) 素材を生で使わず、必ず何らかの手を加える。又は手の加わったものを使う。(3) 面取りを含め材の境界のディテールを、光の効果に配慮して曖昧にする。(4) 直射日光のようなストレートな採光は好まない。(5) 照明器具やドア把手、手摺等の極めて個性的な点景を建築空間に挿入する。(6) 基本的な建築形態のディテール諸寸法は極少を目指す。

創造された形態、要求された機能に基づく空間、手を加えられた素材が織りなす建築に、ときめきながらも、どこかで出会ったような懐かしさを覚えつつ、誘われているような感覚を覚える。村野の“根拠”であった自邸の「知」的な雰囲気は、建築家のみならず誰もが敬意を払うに相応しいものであったと記憶するが、その解明は困難である。あえて言えば、それは先の (1) ～ (6) が凝縮され、昇華したものであり、村野の作品の表層は、それぞれ固有のものでありながら、共通した情感に、洗練された「和風」を感じている。

建築設計教育との関わり

我国の大学改革の必要性が語られて久しく、各大学では諸々の試行が行われている。一方、大学における建築(家) 教育についても、UIA推奨基準をはじめとして、世界に共通する教育方針、教育レベルが検討され始めている。京都工芸繊維大学の建築コースでも、従来の伝統的な教育方法の踏襲の意義を含め、さらなる発展の可能性を模索している。中でも建築設計に関わる実習内容は、入学試験に図画を課していること、1回生から基礎実習を取り入れていることは長い伝統であり、現在も継承されている。その課題内容は、絵画や立体、グラフィック等の実習に加え、建築基礎として「模写 (実際に観察できる建物対象)」、「スケッチ (京都市内の歴史的建造物や近・現代建築で自分が感動するもの対象)」、「簡単な空間設計 (自分の巣をテーマ)」等である。さらに2回生以降、年間約6課題が、それぞれのテーマをもち、出題される。実習の基本体制は、10人以下の少人数のゼミ方式により、個人の自由な発想と専門領域の異なる教官を含む他者の評価の相剋を期待する。表現・伝達の方法は基本的に身体で設計を会得する意味で、できるだけ多くのスケッチ、図面を画き、模型を造ることにある。とりわけ学生個人によって“魅力がある”と感じる対象を「スケッチ」によって写しとる行為は、建築の発想を逆方向から体で理解する方法であると確信している。同様に、「模写」によって図面から設計意図を読み取ることが可能だと信じている。これは電子機器によるコピー文化の時代であるからこそ、写経のように、文字を1字1字祈りを込めて写しとる行為に例えられるような意義があるとも言えよう。

1899年学科開設以来、武田五一の建築教育思想がめんめんと継承されてきた。それは、1926年“建築家になるなら哲学を”の教えのもと京都高等工芸学校 (京都工芸繊維大学の前身) を卒業、ドイツ哲学を学んだ後、建築家として大成した白井晟一を引き合いに出すまでもなく、単なる建築技術や知識の学習にあるのではない。「知」に裏付けられた「感性」、「人間性」や「美」の習得に黙々とひたすら時間をかけ続ける“執念”の態度を学んでいくことではないか。この「知」と「情」の融合を目指す態度こそ、地球環境をはじめ、国際性と地域性、公共と個人等々の諸問題をかかえる21世紀の世界が求める建築 (家) 教育の基本理念のベースに欠かすことができないと思われる。

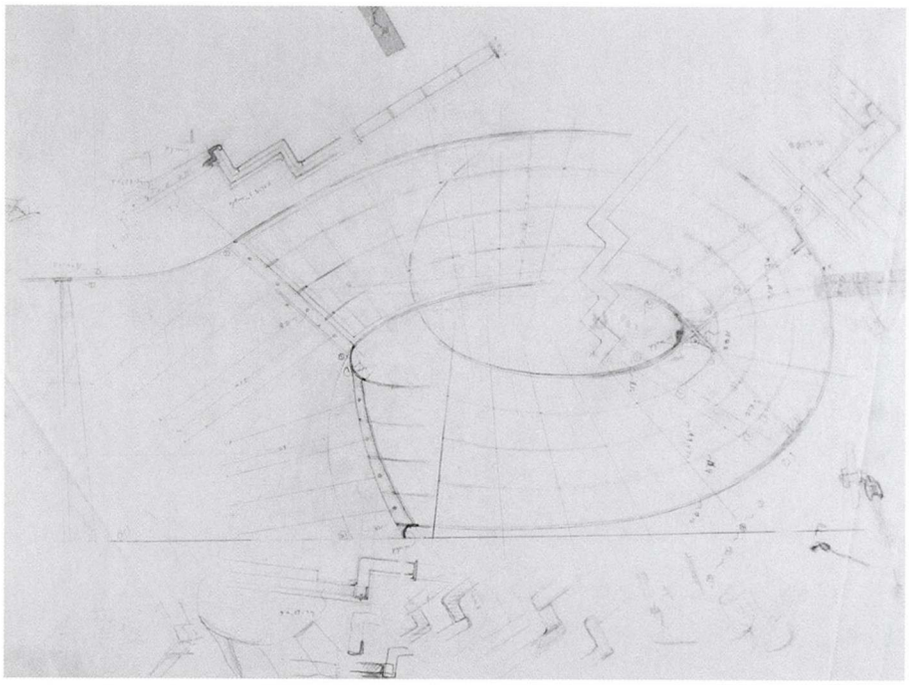
このような意味で、村野藤吾の設計図は「知」と「情」の織りなす設計のいわば“バイブル”である。“バイブル”の解釈は自由であり、先の個人的考察のように、自分の建築的悩みの一端が、これにより救われるかもしれないし、新たな発見に大いに勇気づけられることも考えられる。

村野藤吾の設計図に学ぶ諸々は、個人や教育を通じ継承され明日の世界に発展されていくに違いない。

(この小稿は、1999年11月発行の「村野藤吾の建築設計図展カタログ」pp.4 ～ 6 に加筆・修正したものである)

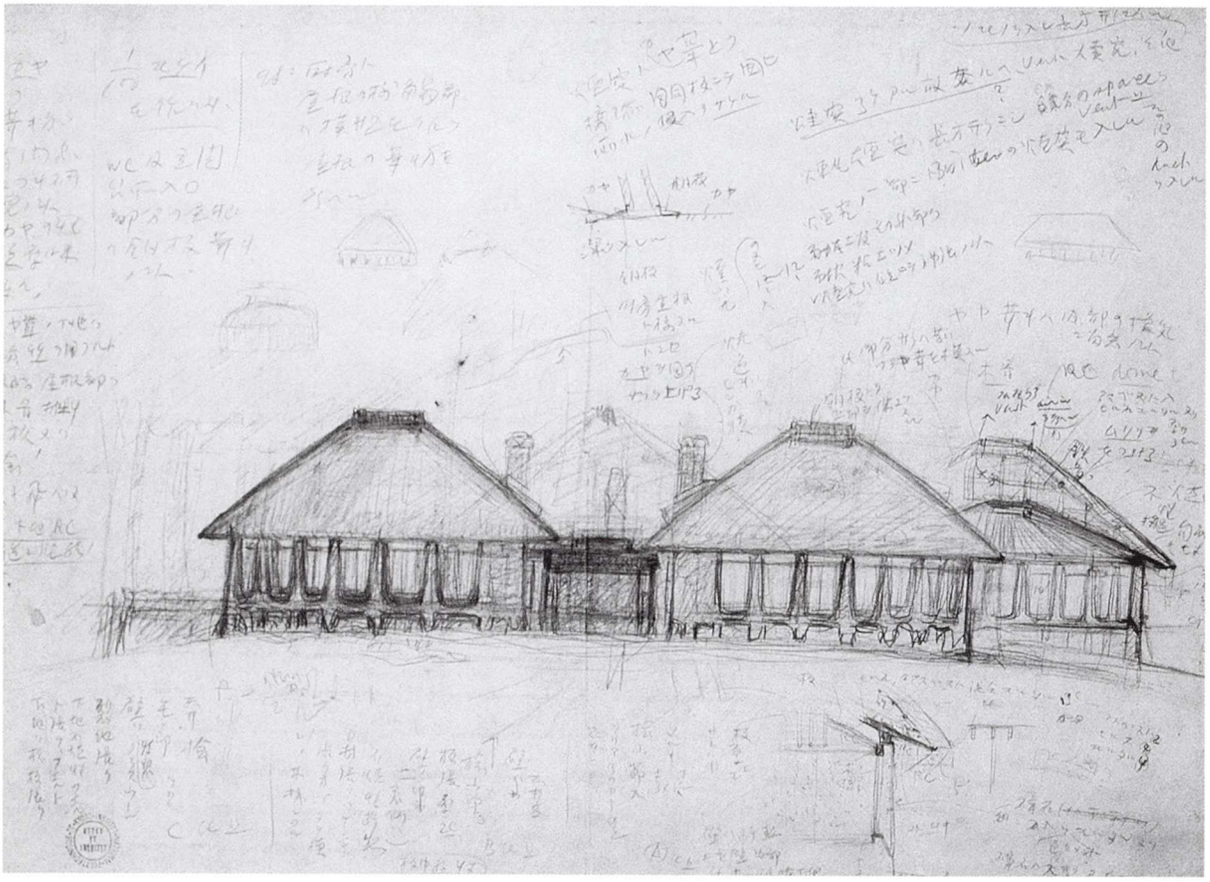
(にしむら　せいいちろう)

■（大阪・心斎橋）プランタン　1956



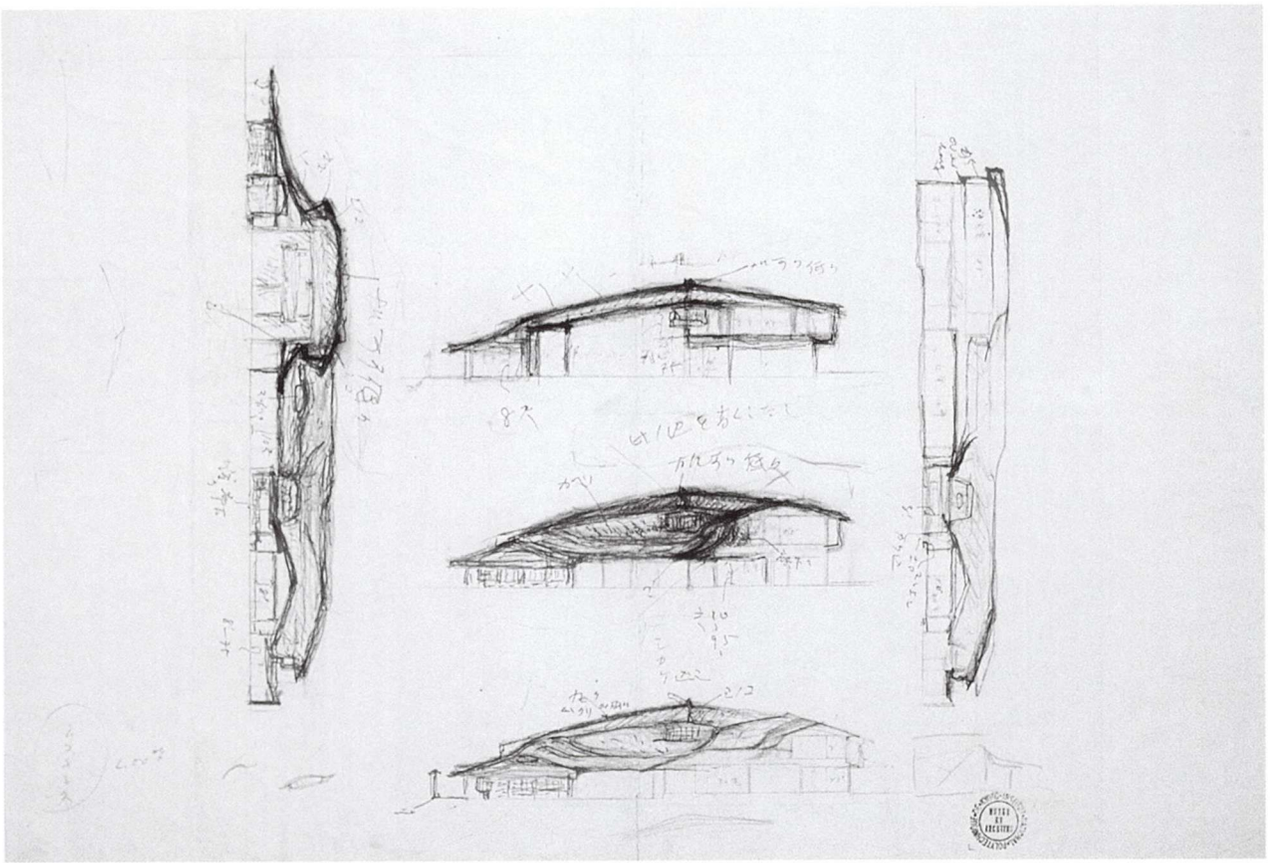
S.T.［階段部分エスキース］　1/10　PC/CR.CCR（R.B）　s.a.　424×591mm　（II-018-B-10）

■箱根樹木園休憩所　1971



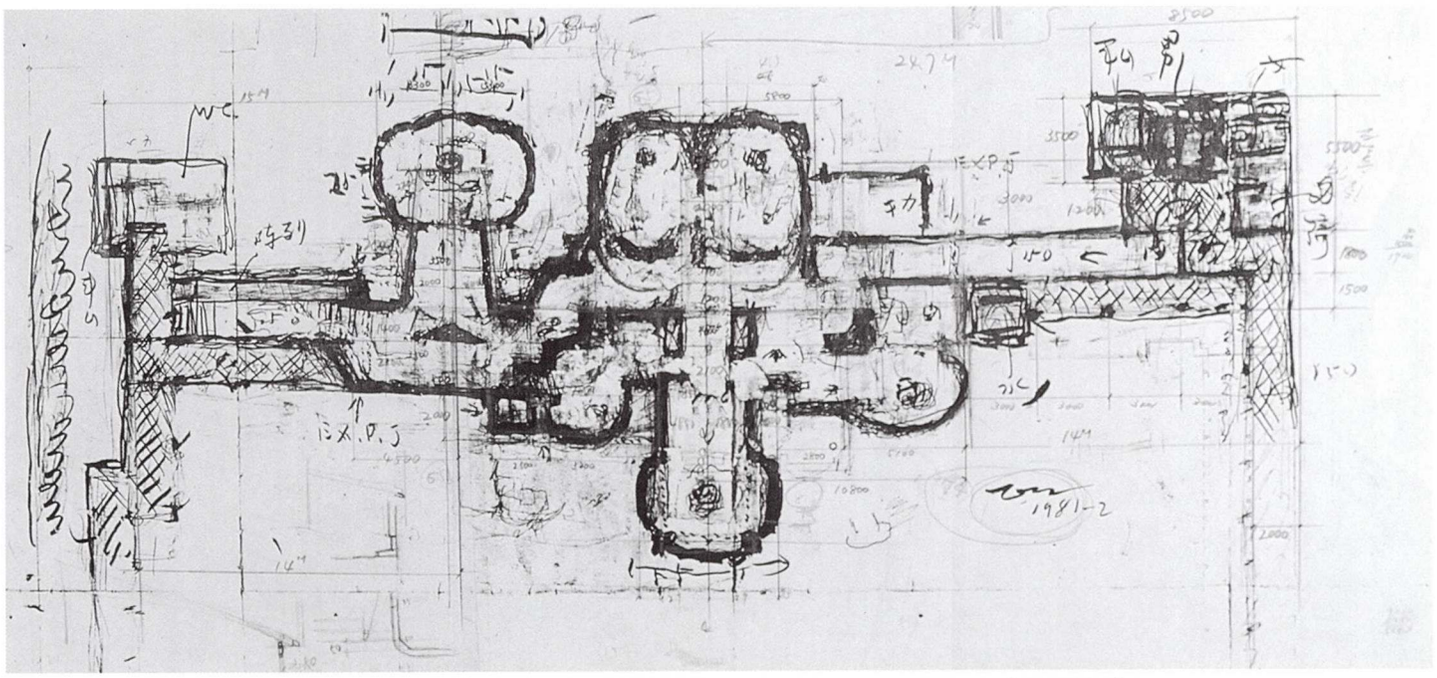
立面図草案　1/100　BP/CR　s.a.　420×593mm　（AN.4894-3/(61)）

■松寿荘　1979



断面・検討図　1/200　s.a.　425×595mm　(AN.4898-11/(69))

■谷村美術館(澤田政廣作品展示館)　1983



ドローイングによる指示図　Phc/CCR(R.O.G)　1981.02.＊＊　1.297×633mm　(II-011-E-01)

※図版は、1999年11月発行の「村野藤吾建築設計製図展カタログ」による。

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

空間を構成する技師

岡田圭之
東畑建築事務所常務取締役大阪事務所長

オーケストラのコンダクター

我が東畑建築事務所の創設者をどうよべばよいか。通常、創設者は偉い建築家先生である。

約40年前、雑誌「新建築」誌上、我が東畑先生と村松貞次郎氏との対談で、先生曰く「私はオーケストラのコンダクターである。私はバイオリンも弾かない。しかしオーケストラの演奏は、それぞれの指揮者のカラーを的確に反映するではないか。私より優れたデザイナーも構造家も所員の中にいる。私はこれをコンダクトして、より高次の意味で私のカラーを発揮し、建築を構成するのだ。私は所員に私を先生とよばせない。私は指揮はするが教えてはいないからだ」と、音楽指揮者にたとえて自らの設計組織を語られた。その意のあるところ、我々所員は先生とよべないのだ。

また、それとは別だが、設計事務所駆け出しの若造が、外で「先生、先生」と言われて偉くなったような気になる、そんな営業上の言葉「先生」を否定し、身の程知らずの驕り、倫理感の欠如を厳しく戒められた。昨今はやりの国家公務員倫理法ではないが、「利害関係者」とのコーヒー一杯でも「先生に破門される…」と、陰では所員は皆、先生とよんでいたのである。

表向き「先生」がダメならと、先の指揮者論に引っ掛けて本物の指揮者、大フィル長老の「親方」も何か変。西欧では、主語無くして語れるのは神のみであるという。それに倣って以下主語抜きで進める。

東畑謙三語録

確かに、私達所員は、建築設計はなどと，正面切っての教えは受けなかった。

「建築は自分で勉強するもの。人に教えてもらうものではない」「何時も他人より一歩先んずべし」と所員の自発的成長を促し、各人の力量を見抜いたうえで、それなりに仕事を任せて「とりあえずやってみろ」である。自分の大きな傘の中に入っている限り自由に動き回れという度量の大きさがあった。

所員の図面を前にして、或いは、日頃の何気ない会話。まずスケールアウトを評して「鰻の寝床、槍持ちの雪隠」に始まり、「ワイシャツは袖口からほんの少し出ているので気品がある」「人間の手はピン角を造らない」「鮨をのせるには丸い皿。四角い豆腐には乗らない」「最高の技術者たるものは時間を言わない。一日なら一日、１時間しか無ければ１時間で仕上げる方法を考える」「魚は頭から腐る。組織もまた然り」。いろいろな断片的語録、それらは設計のヒントから倫理問題までを含んだ鋭いエピグラムとなって、所員各々の心の中に今も生きつづけている。

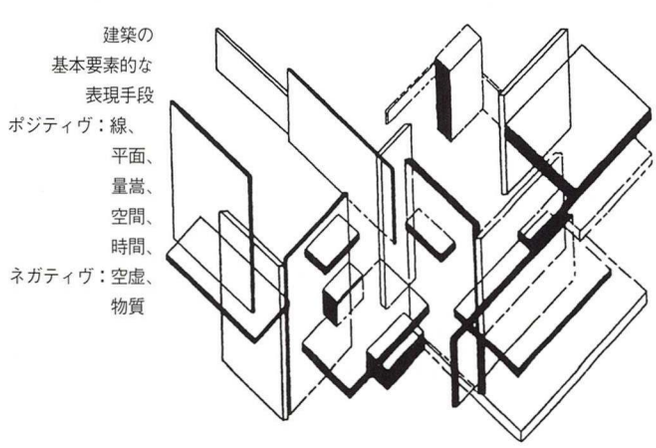
「論より証拠」の技師たらん

昭和初期、大学院生時代にヨーロッパモダニズムの一派　デ・スティルグループの論客T.V.ドゥースブルフの著作「新しい造形芸術の基礎概念」に出会い、大いに刺激を受ける。建築の構成論を述べたこの書の翻訳を手がけ、文中、頻繁に出てくる単語を京都学派の高名な哲学者、義兄三木清の助言をえて「空間」「構成」と訳する。今日、建築に関わる者すべてが、何気なく使い重宝している二つの日本語の起源であるという。だが、哲学者から見れば建築家の片手間の建築論など論にあらず、理屈でなく工学技術に沿った実践こそ大切、と三木清に忠告され、論に深入りすることなく「論より証拠」の技師たらんとする。

「建築家といい芸術家といい、周囲の人がつける名前であって、その人はそんな気持ちでやっていないと思う。我々は建築家というより、ある一つのことを構成する技師である」。建築を要素に分解し，機能の要求に応じて合理的な立体を構成することがまず第一、言い換えれば、客観的に顧客満足度を高めること。それが今も、我が事務所のありようの脈々たる底流となっているのである。

今日、嘗てのヨーロッパモダニズム思潮は歴史の彼方にある。ドゥースブルフの全容も知らない。だが、そのアイソメ図を見ると、それがデ・スティルやバウハウスの建築家に影響を与えたように、我が親方の若き日の入れ込みようが、サブリミナル効果の如く、今も我々所員の図面に翳を落してないかと、親方への懐かしさを込めて私は想う。

（おかだ　のぶゆき）



T.v. ドゥースブルフのドローイング
（『新しい造形芸術の基礎概念』宮島久雄訳　中央公論美術出版刊より）

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

彼らの、高まりの時

佐野吉彦
安井建築設計事務所取締役社長

PSFSビルとガスビル

フィラデルフィアの中心にいまも建つ、PSFSビル（旧・フィラデルフィア貯蓄銀行）は、国際様式の傑作である。竣工は1930年、設計はハウ＆レスケース。ヨーロッパに水源を持つ国際様式は、大西洋を渡り、この高層ビルでアールデコと溶けあってその極みに達した。ただ一度限りの、インテレクチュアルなデザイン。その後に登場するミースやSOMの、工業製品ともいうべきスタイルにはない、粋な香りがある。

同じことが、1933年の大阪で起こった。ガスビルという個性的な作品には、漂う匂いがPSFSビルと共通するものがある。たしかに足元は似ているが、真似たものではないことはわかる。設計者・安井武雄（1884～1955）は、実際にはこのPSFSビルを見てはいないのだが、ガスビルとの間には、同じ時代の精神が共有されている。商都大阪には新しい風が吹いていた。まさに新しい産業が興り、繁栄に向かうシチュエーションにあったのだ。

安井武雄のこの時期の仕事、夙川の自邸（1931年）や東京・京橋の味の素ビル（1929年）、芦屋の山口吉郎兵衛邸（現・滴翠美術館、1933年）は、いずれも国際様式の影響を受けたものだ。デザインにはその土地のコンテクストが巧みに織り込まれているが、決して地域主義的にはなっていない。発注者にも退嬰的・懐古的な趣向はなく、前向きの時代の精神にあふれていた。安井武雄はこの時期、恵まれていた。彼が開いた事務所の仕事は、あらゆる面でとりまく環境と共振した状態にあったと言える。

設計のための組織がそのビジネススタイルを確立するには、一度はこうした理想的な時期を経なければならない、と思う。理想的な顧客と、理想的な人材と。創業期はどのビジネスにとっても重要だが、設計事務所としての型をつくるには高まりの時期が必要なのだ。戦時から戦後にかけての安井武雄は、残念ながら時代と共振したわけではなかった。しかし、顧客や社会との関係性は確実に保たれた。スタイルは確立されていたからである。それが継承するための礎となったことは間違いない。

佐野正一（1921～）の時代になってからのひとつの高揚期は、1969年竣工の大阪国際空港ターミナルに取り組んだ時期と言えるだろう。大阪万博を目前にした、経済の好況。交通システムの急速な変化。駅施設の豊富な経験を持っていた佐野正一が総力を挙げて、全く新しい建築分野を切り開いたことが、次なる時代の高まりを示すことになった。佐野正一のデザインは安井武雄のそれと同じではないが、地域主義的でないことは共通している。しかし、何と言っても注目すべき点は、都市や時代が求める精神を設計の中にうまく宿すことに成功した点である。佐野正一はあらたなテーマと組織整備によって、安井武雄の流儀と軌跡を継承したのである。

状況を切り開く勇気

一般的に言えば、建築家がどの方向へ行くか、どの仕事がきっかけでチャンスをつかむことになるかは偶然に支配されることが多い。逆に言えば、その幸運をいかにうまく利用し、成果に結びつけるかというところに建築設計を続けることの妙がある。どんな小さなプロジェクトから、次の時代の高まりが生まれるかはわからない。われわれはそれを探しつづけるしかないのだ。このプロジェクトが時代と組織を変えるはずだという、その確信が得られたとき。それが新しい組織のビジネススタイルとして確立されるときである。

先達のことを、安井建築設計事務所の所員は、単なる権威としては見ていない。むしろ安井武雄や佐野正一が持っていた「状況を切り開く勇気」におおいなる尊敬の念を抱いている。彼らがつくった組織を次の時代に継承してゆけるかどうかは、継承する者が、その組織が持つ可能性を信じられるかどうかにかかっている。

（さの　よしひこ）

※「継承」をめぐっての文献案内

安井武雄については、建築史家の研究に加え、さまざまな切り口から紹介がなされている。安井武雄の全体像を描いた著作＜＃１＞をはじめ、近代建築運動のなかに位置づけたもの＜＃２＞、関西の建築活動のなかに位置づけたもの＜＃６＞・＜＃10＞などがある。ガスビル完成時の大阪の熱気を紹介しているのは＜＃５＞である（p84～86）。

＜＃７＞にはPSFSビルに関する著述（p290）がある一方で、安井武雄邸が完成した時代に関しても触れている。＜＃10＞では阪神間に花開いたモダニズムの総体が紹介されているが、＜＃８＞・＜＃９＞には、夙川に育った文学者から見たモダニズム建築の時代が語られ、興味深い。

＜＃３＞と＜＃４＞は、安井武雄の精神を佐野正一がどう受け継いだかを建築史家が切り出したものである。佐野正一自身も石田潤一郎や藤森照信らとの対話のなかで継承について語っている＜＃５＞・＜＃11＞。

＃１　自由様式への道―建築家安井武雄―：山口　廣、南洋堂出版　1984
＃２　日本の近代建築　藤森照信、岩波新書　1993
＃３　安井武雄75周年序説：山口　廣、建築画報282＜安井建築設計事務所の75年＞所載、建築画報社　2000
＃４　継承される「折衷」精神の諸相：米山　勇、新建築臨時増刊号＜世紀をつなぐ―安井建築設計事務所―＞所載、新建築社　2000
＃５　関西の建築：石田潤一郎＋佐野正一、日刊建設工業新聞社　1999
＃６　関西の近代建築：石田潤一郎、中公美術出版　1996
＃７　近代建築のコンテキスト：北村隆夫、彰国社　1999
＃８　遠い朝の本たち：須賀敦子、筑摩書房　1998
＃９　阪神間の文化と須賀敦子：中井久夫、須賀敦子全集第4巻所載、河出書房新社　2000
＃10　阪神間モダニズム：共著、淡交社　1997
＃11　建築界における普遍性と地域性：藤森照信＋佐野正一、建設通信新聞＜安井建築設計事務所特集号＞所載、建設通信新聞社　1999．11．25．

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

茶色のタイル

本城邦彦
竹中工務店取締役

デザイン会議

新入社員の私はその日、課長をはじめとする課の先輩たちの顔を見て、何ごとが起きるのかと緊張した。しばらくして、その日が私の所属するチームで設計が進められているオフィスビルのデザイン会議が開催されることを知った。設計図、模型など部長席へと運び、末席に待機していた。新入社員は「えらい仰々しい会議やなぁ。承認もらうだけと言うとったのになぁ」とぼんやりと考えていた。

部長の岩本博行さんに対して、課長が説明を始めた。厳しい質問が飛び、先輩たちがしどろもどろになりはじめた頃になって、やっと、「こりゃ、えらい会議やなぁ」と思いはじめていた。大学を出たからといっても、建築に対する知識は乏しいうえに実務としての設計の手順など判っていない私にとっては設計の内容が検討されていく過程は驚きの連続であり、検討不足の所が見事に指摘されていく様を見て、プロの世界の厳しさを感じた日となりました。

その日のデザイン会議で岩本が叫んだかどうかは記憶にはありませんが、デザイン会議の席上、岩本博行さんは、

自分の基準に合わないことが提出されると、「アホ！」
なおも説明をすると、「そんなん屁理屈ちゃ！」
さらに一段と踏み込んで説明を重ねると「できへんもんは、言うとおりにせえ。できへんもんが建築つくると街が無茶苦茶になる」と、よく叫んだ。

会議が終わって、チームの先輩が「岩本さんのデザイン会議を通すのは、建築主を説得するより難しいんやで」と、疲れ切って話し出したのでさらに驚いた。その時は、「こりゃぁたいへんなところへ入社したなぁ」と、新入社員は少々暗い気持ちとなりました。しかし、この設計を世に出すまでに費やされるエネルギーこそが設計の質を保ち続ける力であることを、新入社員が気付くには余り時間を要しないことでした。

「なぜ茶色のタイルか」

今、私の手元に、「なぜ茶色のタイルか」という岩本博行の一文があります。岩本さんが常務として在籍された頃、私は設計部の最前線のメンバーとして多くのタイル貼りの建築を手がけていました。西宮市のM学院や三宮のM倉庫のオフィスビルなどがそれです。「おまえタイル好きか。好きならこれをよう読め」と言われて手渡された一文です。この中には岩本博行さんがいつも話していた「日本の風景、色、材料、そしてその調和」について書かれています。世の中から、茶色のタイルが「竹中調」と呼ばれた頃の岩本博行さんの建築への思いが平易な文で書かれています。

M倉庫のオーナーから、三宮駅前地区から少し離れたところに新しくオフィス群の設計の依頼を受けました。三宮駅前地区で4棟の茶色のタイル群（残念なことに先の震災で1棟を残すのみとなりました）が既に完成しており、今回の計画は茶色のタイルではないものの提案が求められました。しかしこのオーナーから、「茶色以外の色を使うことを岩本のじいさんの了解をもらってこい」と言われました。私はおそるおそる説明に上がりましたところ、岩本さんは一言、「わしゃ、毒食わば皿までやで。そう答えて来い」でした。その時、思い出したのが以前手渡されていた「なぜ茶色のタイルか」という一文です。これを持って建築主のところへ参上しましたところ、「じいさんは、建築は美しくなければならぬと言っているではないか。おまえ、じいさんに負けんええ色のタイルを焼けばええんや。この文の中から、新しいビルにふさわしいタイルの色を決めよう」。このビルのタイルの見本焼きができたとき、見てもらったところ、「ものに思いを込めて、おまえの腑に落ちるところであれば、それでええんや」が岩本博行さんの答えでありました。

ものに思いを込めるとは、「時代性」「文化性」「公共性」…など多くの知識を必要とします。「組織に属するとか、アトリエに属するとか、が問題ではなく、建築の設計に従事するものは、社会的倫理において考えねばならない」とも岩本さんは語っています。

竹中工務店設計部にとって、岩本時代は表層的なデザイン面ではなく、建築に取り組む姿勢と大きな組織を束ねていく上で共通の思想の共有が重要であることをメンバーに示したことで貴重な時代であり、私にとっては、その後の設計活動で重要なキーワードとなる「ものに思いを込める」「腑に落ちる」の二つを教わった時代でありました。

（ほんじょう　くにひこ）

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

増田友也の建築的思惟

前田忠直
京都大学講師

「京都大学総合体育館」の前庭

夏の盛りに，京大西部構内の「京都大学総合体育館」を訪ねた。増田友也（1914～1981）の指導のもと，私が大学院生のときに設計スタッフとして参加した作品である。平静な古典的統合が，上下に重ねられた主・副体育室と，包囲する低層諸要素（南側の部室群，西側のロッカー室群，北側の通路，東側の階段群）との関わり合いのうちに具体化されている。着工後に正面階段が改変されたことが想起される。階段は3つに分割され，石庭が組み込まれたのである。2つの石庭は，対比的に，この作品のもつ垂直的・水平的モチーフを示しているかに見える。庭を内包し伸び拡がる正面階段群は，主体育室の基壇を構成し，内部と外部とを繋ぐ。空間とは，両手を拡げたときの脇のあたりの拡がりである，と増田は説いた。基壇と庭によるこの空間の構成には，長い前史がある。

1967年，大学院に進学した私は，増田研究室アトリエに入る。増田の作品はその頃、すでに独自のスタイルを獲得していたといえる。1957～81年の24年間に84作品（実施案61作品，計画案23作品）の設計が遂行されている（「著作・作品目録」による）。主な作品を列記すれば以下のようになる。「南淡町庁舎」（1957）「京都市蹴上浄水場」「尾道市庁舎」（1958）「京都大学工学部電気工学教室他」（1959）「洲本市庁舎」（1961）「鳴門市庁舎」「衣笠山の家」（1962）「東山会館」（1963，とり壊し1988）「智積院信徒会館」「計画案・京大会館」（1964～69）「計画案・万博計画」（1966）「京都大学工学部本部棟」（1972）「京都大学総合体育館」（1972）「鳴門市老人福祉センター」（1977）「鳴門市文化会館」（1981）。

先の「京都大学総合体育館」は，「京大会館」の縮小案である。体育施設のみが実現されたのである。「京大会館」の全体計画の詳細については書くスペースがないが，その配置は，中央に置かれた体育館と音楽ホールを学生と教職員のための諸施設が，大小の庭を含みつつ包囲するものであり，周囲諸室の屋上庭園は，レベル差のある本部構内とブリッジによって結ばれていた。屋上庭園は，広大なエントランスの庭と見なされる。現存する「総合体育館」の基壇と庭のモチーフは，この原案に由来する。

空間構成の基底にあるもの

壁による「隔離」と庇による「開放」，さらに内部を際立たせる中庭のモチーフは，増田における空間の構成手法である。空間を囲う壁の造形は多様である。それは日除けルーバーとなり，遺作「鳴門市文化会館」では簡素な等間隔ルーバーへとモディファイされる。

増田の思索の方法的独自性は，上記の空間の構成が，道具性（日常性）を徹底的に洗い直し，硬質なフォーム（非日常性）に至るというプロセスを辿るなかで遂行されていることにある。約言すれば，明澄な空間の構成は二つの動機に基づく。ひとつは道具性への配慮であり，ひとつは場所性への配慮である。増田が説いた，「松の事は松に習へ，竹の事は竹に習へ」という芭蕉の言は，予断と偏見を排除し，逆説的に強靱な表現に至るという方法的ラディカリズムを意味するものである。

「言葉（ロゴス）」が消えた時代に

建築論の理論的研究は，上で述べた実践的研究と別の事柄ではない。つまり，理論的研究においてもまた，事実的・実証的な手続きのなかで想像力が躍動するのである。一種の現象学的実証主義の方法である。増田の教えは，あれこれの個別的なデザインの手法にあるのではなく，研究の途上に垣間見える方法論的な主題、つまり「建築的思惟」を示すことにあった。

拙著『ルイス・カーン研究』の試みは，カーンの思索のなかに，増田のいう「建築的思惟」の構造を読み取る作業であった。カーンと増田の思索は，1960年代の後半に，同じ地平に至り得たと私は考えている。ともにル・コルビュジエと優れた古典主義者（一者はエコール・デ・ボザール出身の教師，ポール・クレ，一者は森田慶一）とを師として畏敬しつつ，建築の起源を問い，存在論的建築を立ち上げたのである。20年前，新しい全体性へ向けて，困難な道を歩んでいた増田は，安易な道がもてはやされる軽佻浮薄な世相のなかで「素人の時代」を予告していた。建築の「言葉（ロゴス）」が消え去り，空洞化は大学の内外において進んでいる。「それにもかかわらず（trotzdem）」（アドルフ・ロース），増田によって開示された建築の思索は，類い稀な建築的現象として，その声を聞こうとする者には聞こえる仕方で，語り続けているのである。　（まえだ　ただなお）

参考文献
1）「京大会館」「京都大学総合体育館」については，『現代日本建築家全集14』三一書房，1972年。
2）「東山会館」については，田中喬，「京都　東山会館を訪ねて――私記から――保存について思う」，『建築術の実践　京都の場合』所収，ナカニシヤ出版，1989年。
3）増田友也の建築論については，『増田友也著作集』全五巻、ナカニシヤ出版、1999年。「空間」については，「壁と私と空間と――建築家にとって空間とは何か――」第一巻所収。
4）増田友也の建築論の概観については，拙稿，「建築以前への問い――増田友也の思索の方法について」，『1999年度日本建築学大会，建築歴史・意匠部門研究協議会資料』所収。
5）ルイス・カーンの思索と増田友也の思索との関わり合いについては，拙著『ルイス・カーン研究――建築へのオデュッセイア』，第1章第4節，鹿島出版会，1994年。
6）増田友也の現代建築への発言については，『日経アーキテクチュア』1978年4月17日号，巻頭インタヴュー。

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

前川國男——今なお架空の対話は続いている

松隈　洋
京都工芸繊維大学助教授

建築教育への疑問

「現在のマスプロ化して技術教育に偏重した大学では、ものごとを総合的にとらえ高い見識と判断力が必要とされる建築家を育てることはむずかしいのではないだろうか。」

今から20年以上も前の1977年12月25日、通っていた大学の講演会で、72歳の前川國男は、こう大学の建築教育への疑問を投げかけた。はじめてその姿に触れた瞬間である。当時、巨大化して生活から遊離する建築への不信感と大学への違和感をつのらせていた生意気盛りの二十歳の学生にとって、建築界の真っただ中にいる現役の建築家がこうした言葉を発すること自体、衝撃だった。建築の世界にもこんなことを考えている人がいる、と救われる思いがしたからである。そこに、折しも、同じ年の設計課題で接していた「京都会館」（1960年竣工）の骨太で伸びやかな空間が重なった。以来、雑誌などを通して意識的にトレースするようになり、こうして、大学卒業後、1986年6月26日に81歳で亡くなるまでの6年間、短い時間ながら前川國男の下で学ぶ機会が与えられることになった。

そうはいっても、若輩者に何ができるのだろう。入所早々から、戦前派を含むベテラン所員のチームに放り込まれて、右往左往することの方が多かった。けれども、前川は、新米の席にもわけ隔てなく足を運んで熱心にスケッチを重ね、こと設計のアイデアについては経験の浅い深いを問わず公平に選び取り、時に拙いわが案でも採用された。うれしかった。

製図室での前川國男

製図室の前川の姿として印象に残っているのは、所員から自由に設計案を出させながらも、なぜそうなるのか、と必ずその根拠を論理的に説明させる理詰めのプロセスの厳しさと、ポイントを押さえた的確な指示とスケッチによって、案自体がいつの間にか前川自身の建築に練り上げられていく、そのしなやかで強靭なリーダー・シップの発揮の仕方だった。そして、もっとも年長の前川が、所員の誰よりもやわらかな思考力で、乗り越えるべきテーマに取り組みつつ、ものごとの根本へと突き進んでいる、その事実に何より驚かされ、建築家の生きざまを見せつけられる思いがした。

しかし、当時、前川の方法について深く理解していたとはとても言えない。その存在の意味の大きさを思い知らされるようになったのは、前川亡き後、かなりの時間が経ってからであり、次のような偶然重なったいくつかの出来事によって、ようやく、曲がりなりにも前川の建築と向き合う場所へと導かれていったのだと思う。それは、また、前川という大きな存在に、どこかでいつも庇護されて生かされてあることを強く意識する過程でもあった。

時代と真摯に向き合うこと

まず、没後すぐに企画開催された追悼展の手伝いで、所長室に眠っていた前川の古いスケッチ・ブックを新たに発見し、「日本相互銀行本店」（1952年竣工）、「神奈川県立音楽堂・図書館」（1954年竣工）といった戦後すぐの重要な作品に触れられたこと。（この際、「京都会館」のエスキスも見つけ一人感激する。）同時に、展示計画の中で、前川を相対化して振り返る視点を与えられたこと。また、前川國男の建築を特集する雑誌（『SD』1992年4月号「前川國男の遺した空間」）の編集に協力し、年表の作成と資料の収集を通して、前川の設計方法論を言葉に置き換えて論じるための手がかりが与えられたこと。さらに、前川の残した文章を編む形で出版された文集（『建築の前夜－前川國男文集』而立書房1996年刊）の企画、編集に参加し、片っ端から文章を収集して読み込む、という作業をする中から、いかに前川が時代と真摯に向き合い続けたかを自分なりに理解することができたこと。

けれども、こうした経験以上に大きかったのは、その間にわかに浮上した「神奈川県立音楽堂・図書館」や、「晴海高層アパート」（1958年竣工、1997年解体）の取り壊し保存問題との遭遇だった。それは、あらためて前川國男の建築思想との対面を切実な形で要請したからである。また、その渦中で知遇を得た故・浜口隆一氏や事務所OB、前川に共感を寄せる方々からも多くを学ばせていただいた。

こうして、気がついてみると、数年前から、前川について文章を書く機会が巡ってくるようになった。残念ながら、それは、今目の前に前川がいたらどれほどたくさんのことが聞き出せただろうに、と思いつつの架空の対話のようなものにすぎない。しかし、前川の長い建築活動とその作品がもつ現代への意味についてわずかながらも知るものとして、願わくば、前川國男の全体像を、いつの日か、だれもが手にできる言葉に変換したいと思う。

前川國男にはじめて接して早くも20数年の月日が流れた。今春から大学に移り、冒頭に挙げた前川の言葉を胸に、奇しくもその当時の自分と同じ年齢の学生たちに、前川のことを話始めている。

（まつくま　ひろし）

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

師——浦辺鎭太郎

森本正一
浦辺設計取締役副所長

浦辺先生からは、講師として来られていた大学時代の工場計画の講義に始まり、入社以来20数年、先生の亡くなる直前まで教えを受けたことになる。自分へのこだわりをすて、裸になることを求められる教育方式で、その重圧に耐えがたく、苦痛の毎日であったが、建築の作り方の最初から最後までを詳細に教えていただいた。

地方建築家

先生は自らを地方建築家と称していた。クラレ時代、尊敬する大原社長がヨーロッパ視察から帰国し、倉敷はドイツ中世の美しい街の一つであるローテンブルグに負けない、との話を聞き出身である倉敷の街への自信をますます深め、地方の個性の方が移入文化である中央よりも世界に通用すると思う様になったようである。発想の原点はいつの場合も「倉敷」であり、「この世界通用するか？」との問いが全ての作の評価基準となっていた。

一対一

先生は会議を好まれなかった。記憶にある限り、設計やその他事務所内の色々な事に関して、会議で決めたことがない。常に一対一であり、先生を訪問されるメーカーやゼネコンの数人の方々がそれぞれの肩書きの名刺を出されるのに対し、僕の方は一人だから一人でいらっしゃいと直言されることもしばしばであった。組織では大会社にかなわないが一対一の勝負なら大組織にも決して負けないとの自負があった。

設計を進めるについても一対一で所員の一人を前において、これを手足として進めるのが常であった。設計の打合せはいつも先生の書かれた細密画の様にこまかく書かれたスケッチを前において始まる。図のまわりは計算をした痕跡のこまかい数字でびっしりと埋められている。御自分の納得されていない部分について、どうかと問われてぐずぐずしていると、すかさず、書いてみィとくる。くどくどと理由を述べたりプロセスを述べるのを大変嫌われた。問われてすぐに書けないものは本物でない、が口ぐせであった。こうしてすごい重圧の中で先生との一対一の一日が始まり夕方には一応の結果を出して、これをスケッチにまとめておく様に言われて帰られる。何とかまとめ、翌日を待って、先生に出し説明しようとすると、カバンの中から新しいアイデアによるスケッチが出てくることもしばしばであった。また重圧の中での一日が始まる。こうして自分で納得の行く案が出来るまで寸暇を惜しんでこの作業が続いた。

Something New

尊敬する村野先生から聞いた言葉だと言われていたが、設計の中に何か新しいものがないと納得されなかった。設計のアイデアのみでなく、ディテールや材料、工法等、マンネリズム＝自分で自分のまねをすること、を大変嫌われ、自戒と共に我々所員に対してもきびしく、新しさを要求された。一見同じ様にみえる作でもどこかに新要素が入っている。

クラシキ．モデュール

これも村野先生から聞いた言葉として、建築家は数学と文学の両方に通じていなければいけない、と言われていた。文学はもちろん豊かな感性に通じると思われるが設計活動において、ともすれば相矛盾する条件が少なくない。これらをまとめるには数学だけではだめで文学との合体化の才能を必要とすると思われる。数学の方は構造、設備はもちろん、設計とは空間を数量化することであるから数学的素養は欠かせない。先生との設計でのやりとりは必ず具体的寸法を述べる事が求められた。約１m、約30cmではだめで960mm、365mmと言わねばならない。この数量の元になったのが、クラシキ．モデュールという数列で、コルビュジエのモデュロールにならって先生が考案した、日本古来の生活寸法である、タタミの寸法、960と1920を基にしたフェボナッチ級数である。これは当事務所で寸法を論じたり、定めたりする際の共通言語として今でも生きている。

不易流行

昭和60年、事務所での表から一歩引いて、相談役となられてからの先生は芭蕉の研究に打ち込んでおられた。芭蕉についてのその道の研究者の本も読んではいられたが、我々に話してくれる芭蕉は文学的世界から少しはなれた浦辺流の芭蕉論であった。その中の一つに不易流行がある。これは芭蕉自身による解釈がなく、弟子や学者によるいろいろな解釈がある様であるが、先生はこれを、変らないもの＝不易、変わるもの＝流行とする平易な解に不満で、「不易が流行する」と言っておられた。不易（＝作家精神）が流行する＝新しい形となって表われる。即ち不変的な価値を持った作家の精神はいつの時代にも適用するが、それが表われる時はいつも新しい形と合体して表れる。浦辺流の建築論をこの短い言葉に凝縮していた様に思う。

（もりもと　しょういち）

エッセー　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

実測により古建築の心を学ぶ

吉村篤一
建築家・奈良女子大学教授

奈良女子大学へ赴任して早や2年半になろうとしている。京都、大阪、奈良を往き来しているので、ゆっくりと奈良の古建築を見る機会は少ないが、奈良の古建築は建築そのものが力強く豪壮であるのに対し、京都の古建築は繊細で庭との関係において優れているものが多い。この建築と庭との関係をつぶさに研究したのが、西澤文隆氏であることは今さらいうまでもないが、私は今から30年以上前に、西澤さんのお供をして、京都の古建築の実測に参加していた。当時の坂倉大阪事務所では、20代後半のまだ独身で大して趣味もない建築家の卵たちが数人いて、日曜日になると西澤さんのお供をして実測に参加することが多かったようだ。当時は皆それほど古建築に興味を持っていたわけではないが、桂離宮や仙洞御所、大徳寺真珠庵など、普段は拝観不可能な名建築を見ることができ、しかも写真は撮り放題という魅力にひかれて、いつも数名が参加していた。そして夜は夕飯を御馳走になって帰る、というのが通例になっていた。それはともかくとして、私は実測後はきたないスケッチやわかりにくい図面を西澤さんに渡すだけで、あとはほとんど図面作成のお手伝いはしていなかったが、数年前に実施された「西澤文隆ライフワーク展」では、その実測のあと長年かけてまとめられ膨大な図面を見ることができ、[*1] 思わずその場に立ち尽くしてしまったことを覚えている。

透ける

この実測で一番身についたことは、西澤さんのよくいわれる“透ける”ということであろう。建築空間を理解するには、実際にその場に身を置いてみないとわからない。いくら図面や写真を見て分かったつもりでも、身体で感じるところまでは行かない。そういった意味で、この実測に参加したことにより、私の身体の中に日本建築の特質が自ずと身についていったのかもしれないと思っている。西澤さんは、日本建築の特質としての自然とのかかわり—内部空間と外部空間の関係—を身を呈して実証したのである。実際に西澤さんが実測されたもののうち、私の参加したものは十分の一にも満たないかもしれないし、もっと多く参加した諸兄がおられるので、おこがましいかもしれないが、建築とは人間と自然とがいかに関わっていくかということの表現である、と思うようになったのは、やはりこの実測に参加できたことによるのだろうという気がする。京都の古建築では前出のものの他、妙心寺や大徳寺の塔頭、京都御所など、建築と庭園の関係が濃密なものを多く見たように思う。当時西澤さんがよく口にしていたが永い間実際に体験できなかった、京都以外の圓城寺光浄院客殿、油日神社、春日大社若宮なども数年前漸く見学することがき、その特質を体験することができた。[*2]

「エローラ」と「カジュラホ」

西澤さんはつねに現代建築は、わが国の伝統的な建築空間を理解した上で、現代のやり方—作法—によって取り組むべきだと、いつも言っておられた。これは古建築の空間構成を如何に現代的意味として理解し、リファインしていくことに尽きるであろう。伝統的な形やディテールをそのまま使ったのでは現代建築とは言えない、というのが西澤さんの現代建築を創るときの姿勢であったようだし、私もまったくそのとおりだと思っている。これはなにもわが国の古建築に限ったことではない。当時、西澤さんはインド旅行から帰ってくると「エローラはいいですよ」とか、「カジュラホはすごいですね」とか言っておられた。私にはなにか呪文のように聞こえた、この「エローラ」と「カジュラホ」が脳裏に焼きついていた。そして西澤さんが亡くなって数年後、私も漸くインド旅行が実現し、「エローラ」と「カジュラホ」を体験することができ、呪文の謎が解けた思いがしたのである。インドにはこれ以外にもやはり呪文のような「ファテプールシクリ」とか「ジャイプールのジャンタルマンタル」「グワリオール」など魅力的な空間が数多くある。私がこのように世界の魅力的な建築空間—とくにヴァナキュラーなもの—を見て歩くようになったのも、じつは西澤さんの影響なのかもしれない。

私は西澤さんのもとに居たときは、あまり事務所の役に立たず、かえって足手まといであったような気がするが、歳をとるにつれて、西澤さんの建築に対する姿勢が理解できるようになったのは、やはり実測に参加したときの空間体験が影響している、と思えてならない。

（よしむら　とくいち）

＊1『建築と庭—西澤文隆「実測図」集』（建築資料出版社）1997
＊2『地模様としての建築』描著（学芸出版社）1998



東九条の家　設計　建築環境研究所／吉村篤一〈撮影　大島勝寛〉

来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」

――若手建築家たちの＜継＞の論理――

出席者　遠藤　秀平（遠藤秀平建築研究所）
（50音順）髙砂　正弘（高砂建築事務所）
長坂　大（京都工芸繊維大学助手）
司　会　本多　友常（和歌山大学教授）

日　時　2000年7月17日（月）PM7：30～9：00
場　所　日本建築協会会議室

受け継いだもの

本多　来世紀に引き継ぐ「わざ、もの、こころ」というテーマで、今活躍しておられる3人の建築家の方にお集まりいただきました。それぞれ師と仰ぐ方がおられ、いずれも前のものを引き継ぎながら、継承していくということと、それを打ち破っていくということの中で建築を考えておられますが、これは大きく見ると20世紀に対する時代認識にもつながると思います。まず、皆さんがどういうことを受け継いできたかをお聞きしたいと思います。

遠藤　僕の場合は、石井修先生の事務所でしか経験をしていませんが、設計の方法とか概念などではなく、設計に対する姿勢であるとか、取り組みに影響をうけたと思っています。また、その経験が自分の建築への思いの中での重要な指標になっており、価値基準の一つになっていると考えています。

いわゆるデザイン的な「わざ」、あるいは素材などの「もの」として何かを引き継いでいる部分は少ないのではないかと思っています。それより「こころ」に近いかもしれませんが、敷地への対し方とか、あるいはクライアントへの接し方とか、自分の立つ位置というようなあまり意識的でないことに影響を受けたような気がします。

髙砂　私は学校を卒業してすぐ瀧光夫先生の事務所に勤め、10年ほど一緒に仕事をさせていただきました。それゆえ私が建築と接する基本になっているほとんどすべては、その時に学んだことだと思います。それは今日のテーマ「わざ、もの、こころ」すべてのことを含めてです。それ以外にも少し大袈裟かもしれませんが、社会における生き方のようなことも教えていただきました。

ご存じのとおり、先生は建築に緑を取り入れ、自然に対してどのような建築をつくれば良いかということを考え続けられておられます。今日のように環境のことが声高に叫ばれるようになる前からです。最近の雑誌などを見ていますと、自然と切り離して建築を考え、軽さや透明性を求めたものが幅を利かせています。都市など自然が少ないところでは良いかもしれませんが、豊かな自然があるところでは首を傾げたくなります。そうした環境と建築との折り合いの付け方も勉強させていただきました。

長坂　僕は大学卒業後、坂倉事務所出身の方の事務所で3年弱働いて、その後、学生時代から興味のあった「集落」の研究者である原廣司さんの事務所アトリエ・ファイに入り約4年半仕事をしました。すでに設計から現場監理等に至る実務の一例を、短期とは言え経験していたので、いきなり就職するよりも、現実の世界の原さんの設計姿勢の特徴についてよく見えたのではないかと思っています。

ここでは、彼の初期の著作のタイトル「建築に何が可能か」という言葉そのままに、建築というものの可能性について、その構えの広さを学ばせていただいたことが大きいように思います。もちろん、それを僕自身実現できるかどうかは次の問題ですが。

「禁じ手」

本多　3方とも師と仰ぐ方を非常に尊敬しておられますが、先生方の物事への接し方や、建築への考え方を学んだこととは別に、皆さんが作家としてかなり先鋭的に活躍しておられるということは、設計手法での否定の論理というのがあると思いますが、いかがでしょう。

遠藤　私の経験では、否定というよりはむしろ「禁じ手」という言い方が適当ではないかと思います。それは、見慣れた安心のできる手法というのが、経験豊かな石井先生の事務所には確立されているわけで、「わざ」とか「もの」など設計上習得したことが多くあります。しかし、それは自分自身が生み出したものでないという意味で、安易に使うのはとりあえず一時留保しておこうと考えました。自分の中での一つの「禁じ手」としてとっておくことで、その次にじゃあ自分は何が出来るのかが始まっていくと考えたわけです。なぜ「禁じ手」にするのかという理由なんですが、私が事務所に入った時点で、石井先生の活動が非常に長く、30年以上活躍されているわけで、石や丸太・緑を生かした環境づくりへの高い評価が出来上がっていました。そうしたものを自分が受け継ぐことは重要であるけれど、それを自分の武器にして建築を実現したとしても、それは遠藤個人のものでないと考えました。もちろんその影響を受けた延

長上で自分がなにを出来るのか、どういった可能性があるのかを自分で掘り下げることが重要だと思っています。結果として似ていないなどと言われますが問題であるとは思っていません。

それと「禁じ手」という言葉を使う意識と近いのですが、日本の伝統的建築を考えると、材料とか、あるいは「わざ」――わざというのは誰のわざかというと、設計者のわざもあるのですが、多分に技術者であったり、職人のわざであったりする――評価されるのはどうもそちら側であって、設計者がそれを使ったからといって、あるいは素晴らしいコーディネートをしたからといって、本当にそれが評価に値するんだろうかという疑問がありました。

そうしたところから一線を引いて、自分個人の中で設計行為にどういう可能性を見つけられるかというところが、今「禁じ手」といった言葉使いの意味に近いかなと思います。

本多　「禁じ手」を自分の中に設定するということは、その部分について判断停止しているということになりはしないのだろうか。それでは作家性は何であり、それを追求することは本当に有効だったのか、あるいは正しい道だったといえるのでしょうか。

遠藤　自分で何が出来るのかといって自問自答し、少し見えた鉄による板構造の可能性を自分の中で試みていますが、まだ十分結果を得られたと思っていません。また、正しいかどうかも不明ですが、もう少し追求するつもりでおります。しかし、いずれ新たな必然性が生じ、留保し判断停止したことに向き合うことになると思います。

「わざ、もの、こころ」

本多　石井さんにしても、瀧さんにしても、やっておられることはかなり挑戦的なことをされていますが、そのベースはかなり保守的なのではないか。そうしたことは実は、建築の本来のあり方を心得ておられるからだと思いますが、伝統を引き継いでいくということから言いますと、「わざ」や「もの」、「こころ」とかは、作家の側にだけあるのではなく、むしろ外部の素材であるとか、職人のわざに多くを依存しており、作家がやるべきことは少し違うのではないかということですね。

遠藤　左官職人の技術とか左官材料といった熟練度を要する部分の方に評価される価値がある場合がありますね。それを選択したからといって、その価値が我々に付加されるわけではないと思います。伝統技術という世界では、結果的に、それが設計者なり建築家に付加してしまう場合があると思います。それは非常に気をつけなければいけないことで、明確に分け、それを切り離したときに、何が残るかということが重要になります。

髙砂　例えば、遠藤さんであればコルゲートを使って建築をつくられていますが、あれはコルゲートというあまり建築には用いないが魅力的な素材を駆使した作家の「わざ」だと思っています。私の場合は木とか土などの身近な素材を使いますので、大工や左官職人のわざに隠れて見えなくなりがちですが、同じように受け継いだ「わざ」を使って建築をつくっています。

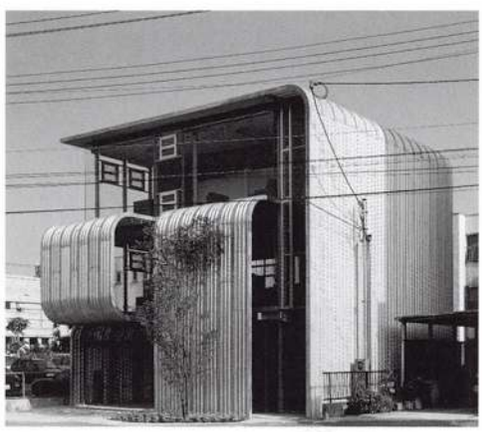
それから否定の論理でなく「禁じ手」という言葉がでましたが、私はそのように大上段に振りかざして教わったことを意識するのではなく、一緒に仕事をさせていただいていた時と同じ気持ちで設計するように心掛けています。先生と私とは生まれも育ちも違いますから、当然どこかで自ずと個性というものが出てくるのではないかと思っています。だから自ら手足を縛る「禁じ手」などというタガをはめずに、教わってきた中から生み出される建築をつくってゆこうというのが私の姿勢です。

長坂　髙砂さんのお話の中で、瀧先生と一緒に働いていたという表現が僕の場合とは大きく異なっていて面白いと思いました。アトリエ・ファイでは全く違っていて、スタッフは原さんの理念、彼の作品を実現するお手伝いをする、というスタンスです。スタッフが彼の考えていることを全部理解しているわけではないですが、それに興味がある人間が集まっていて、彼の考え方が実践されていく過程を背負うことでそれを学ぼうとする、という組織だといえるでしょう。大半の人は最終的に独立を望んでいますから、建築の方法を刷り込まれていく濃密な修行期間ということになります。もう十分だと思えば、仕事のタイミングをみて事務所を辞めさせてもらえばいいわけです。

僕の場合、独立当初は具体的なデザインも含めて、継承型の設計活動でスタートしました。たとえば、プランニング、開口部の考え

遠藤秀平（えんどう　しゅうへい）
1960年　滋賀県生まれ
1986年　京都市立芸術大学大学院修了
　　石井修／美建設計事務所
1988年　遠藤秀平建築研究所
　　近畿大学非常勤講師他
主な作品　志野陶石第３工場、京福電気鉄道大閤駅、兵庫県播磨科学公園都市公園管理施設、びわ町農水産物直売所産直びわ水辺の里、AWEオフィス他
主な受賞　グッドデザイン賞、関西建築家大賞、ベネツィア・ビエンナーレ、サードミレニアム建築賞他
主な著書　「建築デザイン基礎」京都造形芸術大学刊（共著）他


遠藤秀平氏


R11W（AWEオフィス）　設計　遠藤秀平

方、材料、コストバランスなどもそうです。現在独立後10年になりますが、やっと自分のオリジナリティーが多くなってきました。本来の意味での独立ということなのかもしれません。

本多　事務所ではいろんなことをやりながら、指示されたことだけでなく、自分の中での課題を膨らませながら、原さんの世界を探っていくと、そこにおそらくギャップが出てくる。そうしたギャップが出てくること自体が、自分の世界を広げることでもあると思うのですが、そのへんはどうでしたか。

長坂　原さんの場合は、設計活動上の多くの判断を彼自身が行います。基本的にはプランも本人が描きますので、スタッフは、法規や面積やコストやクライアントの要請などさまざまな現実の条件を適切に伝達しアドバイスする役割を担うわけですが、そうしたやりとりの過程で、彼の美意識やその実現された建築物と言説との関係などが見えてくるわけです。

例えば、スタッフが示した法規制内容について、彼の、本当か？なぜだ？といった問い返しから再検討が始まるケースでは、法の主旨について再確認することになります。設計主旨と法規とのすり合わせ作業は、法律の限界に腹が立ちながらも、予想に反して面白い作業だったりするのです。スタッフはスタッフなりに、自分だったらどうするかという質問をなげかけながらやっていますし、自分なりの解決策も提案します。確実に解答が得られるという意味では、貴重な学習の機会だといえるでしょう。

具体的な形について、例えば、スタッフ個人としては雲型屋根の形は好まないというような例もあります。このような場合、どちらの形のセンスがいいかという視点は不毛ですから、なぜそこで彼が雲の形を使おうとしたのか、ということを考える。

直接的な例しかあげられませんでしたが、このような経験を通じて自分の世界を考える用意をしていくということでしょうか。

本多　あの人ならこうするだろうが、自分はこうしたいというのがどれだけはっきり見えているかは、自分自身の設計活動におけるスプリングボードになると思います。そういう意味から、「禁じ手」というような意識は、作家として独立しようというときには、気概に満ちた非常に重要なことだろうと思いますが、一方では、その道をみずから閉ざしてしまうのは、非常に気になることです。そのへんはものづくりのうえで、どのくらい意識しますか。

遠藤　「わざ」ということに関して、単純化するのは誤解を招くおそれがありますが、一つは熟練による価値の生産じゃないかと思います。そして、価値の生産が再生産に陥った時に、ジレンマといいますか、一つの保守になる危険性があります。そのことに注意し、自覚的でないといけないということが、「禁じ手」につながります。価値というのは、出来れば自ら創っていきたいと考えます。自分のための価値を求め、歴史的な価値を再利用することによって安心することは避けたいという気持ちがありました。そうした意味での自戒が、自分の価値を生産するために、有効だろうと位置づけています。

建築の価値

本多　いわゆる近代には、個性的であらねばならないという強迫観念のようなものや、才能のあり方におけるダンディズムとか、さまざまなものが新しく現れてきました。しかしそれが、次の世紀にどれだけ有効性を持っているのだろうかということが問われる時代が、そろそろ来ているのではないかという気がしています。建築というのは、基本的には再生産をしていくというような構造を持っているわけですが、その時に個のあり方をどのように捉えるかに関連してくると思います。語弊のある表現をあえてすれば、建築というのは自分のための価値を追求することによって成り立っていくものなのでしょうか。

遠藤　自分自身が出来ているかは別にして、共有可能な価値を求める立場でありたいと思います。例えば石井先生が石積みでいいんじゃないか、あるいは煉瓦積みでいいでしょうといわれた時に、その背景には多くの説得力があるわけです。しかし、同じことを私が選択した時には、本当にいいのかという質問を想定してしまうわけです。そこに本当の価値づけを自分が出来るのかどうかを自問自答してしまいます。近代以降の個のあり方を考えるベースに、価値の多様化がありますが、この後の世紀の中でどのように価値を我々が共有し、そして個人が確立できるのかどうか危うい状況ではないで

高砂正弘（たかさご　まさひろ）
1956年　大阪府生まれ
1979年　大阪工業大学建築学科卒業
1979年　瀧光夫建築・都市設計事務所
1986年　早稲田大学大学院修了
1990年　高砂建築事務所
主な作品　高槻市出灰集会所、城南町の家、農家のアトリエ、摂津峡木橋、森のトイレ、ライスセンター水車小屋他
主な受賞　大阪建築コンクール渡辺節賞、日本建築士会連合会賞優秀賞、日本住宅・木材技術センター理事長賞



高砂正弘氏



ライスセンター水車小屋　設計　高砂正弘

しょうか。そして、その危うさの反動が非個性へ向かわせるネガティブな側面であると考えます。大切なのは個からの発生であると確信しています。

本多　価値を創造するというあり方をどこに置くかというのが、多分、作家としてのスタンスのとり方だと思います。言い換えるとオリジナリティーに自覚的であるということを非常に強く意識して、自身の建築にも投影されていると思うんですね。それでほかの方々がある感動を覚えているというところがあると思いますが、髙砂さんのものづくりにおける最初にいわれた立脚点から言うと、少し対照的なような気がするのですが。

髙砂　もちろん私の個性を建築のなかに投影してゆきたいという気持ちはいつも持っています。だからといって、その操作を意識的にするつもりはありません。頭の隅っこの方にはありますが、それに縛られないようにしています。自らの作家性やオリジナリティーは自覚しなくとも今までの経験してきた中から自ずと建築にも空間にもあらわれてくると思っています。あえていえば、形にこだわることなく、僅かなその場の雰囲気を増幅させ、新たな環境を感じさせる建築をつくりたいと思っています。

遠藤　髙砂さんがいわれたイメージでいうと、僕がもう少し気楽に活動したとすれば石井先生の仕事に非常に近づいてしまう、あるいは一緒になってしまうのではないかという恐怖感がありました。アトリエ事務所に入る場合には、ある程度同様の好みを持ち、主宰する建築家の作品や考え方に共感しているわけです。私の場合、その魅力の虜になり、そのまま再生産してしまう畏れが大きかったように思います。

髙砂　自分で仕事を始めたころには、私にも瀧作品のコピーをつくってしまうのではなかろうかという心配はありました。でも実際やってみると、そうしようとしても中々そうはなりません。それは私がまだまだ力不足だからです。自分で仕事を始めてから10年になります。最初にいいましたように建築を考える基準や支えになっていますが、徐々に自分のカラーができつつあることも感じています。

瀧先生は作品を発表される時には、事務所名でなく個人名で発表されています。スタッフは作品づくりに協力したかたちになっています。これは私の勝手な推測ですが、ある建築に対して一人の建築家が責任を持ってつくりあげた証しと、スタッフにはその設計に対して個人として携わったという自覚を持ちなさいという意味が込められているのではなかろうかと思っています。とするとスタッフもひとりの建築家の卵として、それまでの手馴れた手法でそのまま再生産するのではなく、新しい何かを生み出していかないといけなくなります。そのなかで建築家としての建築との接し方を学んだような気がします。

本多　瀧さんの人となりや仕事の仕方を想像するに、非常に物事をよく聞く方で、その中で一番正当な答えは何かと探そうとされる方のように思えます。そこは非常にいいところであると同時に、限界も同時に存在していると思いますがいかがでしょうか。

髙砂　物事をよく聞いて、それを判断基準にはされますが、その中から適当な答えを探ろうとするのではなく、常により良い答えを模索されています。例えば建築をつくる時に「ＡｏｒＢ」という判断を迫られることがよくあります。というかその連続です。その場合の思考としては、まずＡとＢ両方の内容をよく聞き、それ以外に別のＣという答えがないかどうかを模索します。そこに答えが見つからない場合は、ＡまたはＢという答えを出す。否、実際には別のＣという答えかＡ’やＢ’という少しアレンジされた答えが返ってくることが多いと思います。これはすこぶる健全な思考方法であって、限界に達することもマンネリになることもありません。

本多　原さんの場合、ものを決められる時に、よく迷うということを聞いたことがありますが、どうでしょうか。物事を決めていくときに、論理化して進めていくと、その中で迷ってくれるというのは、はたから見るとありがたいことで、どの経路で迷っているかというのは読みやすいのではないかと思いますが、どうでしょうか。

長坂　ものの決定にも、壁紙の色を決める時やプランの方針を決める時など、いろいろなレベルがあると思います。前者については確かに迷っているところが見えることもありますが、後者についてはそう機会はないと思います。彼は自分で天井の模様まで描く、というように、とにかく自分で手を動かす人ですから、プランが渡された時には、頭の中で迷った後、決定がなされています。迷いはス

長坂　大（ながさか　だい）
1960年　生まれ
1982年　京都工芸繊維大学住環境学科卒業、松永巌都市建築研究所、アトリエ・ファイ建築研究所を経て
1989年　京都工芸繊維大学助手
1997年　集落を題材とした都市空間に関する研究により工学博士
主な作品　南山城学園榛寮・デイサービスセンター（知的障害者施設）、ステップ・オフィス、桂の家、下鴨の家、長崎市斜面住宅地再生計画他
主な受賞　「SD Review」鹿島賞、環境芸術大賞、建設大臣賞
1993年、1996年第１回、第２回建築アンデパンダン展主催


長坂　大氏


南山城学園榛寮　設計　長坂　大

タッフには見えません。ただ、幸いなことに、それがクライアントや現場との打ち合わせ等の過程で変更されていく時、何を優先していたのか、何が重要だったのかが見えてくるのです。

建築家としての方法論

本多　皆さんはそれぞれに先生方の方法論を見てきておられますが、自分が立っていこうとする時に、とくに意識化していることは何かお聞かせ下さい。

遠藤　最近、40歳代になりましたが、まだまだ試行錯誤の連続で、それほど明確なことはいえませんが、私自身は極力開放系でありたいと思います。例えば、ある価値以外は排除してしまうという非常に極端な閉鎖系、排除構造がファッショに通じるのではないかと思います。そうしたものが有効であったあるいはそうせざるを得ない時代状況はこれまであったかも知れませんが、これから世界がグローバル化し価値が多様化する中で、建築を考える時に出来るだけ開放系でありたい。コルゲートばかり使っていて、どこが開放系なんだといわれるかもしれませんが、一つの可能性としてコルゲートという素材を選択しているだけで、どのような状況に対しても開放系の建築を追求することが自分にとっての一つの方向性だと思っています。

本多　師から受け継いだものから離れようとする思考は、一方で判断停止という危険性をかかえている反面、もっと新しい可能性を探っていこうとする方法として非常に有効でないかと思います。そこで、髙砂さんにお聞きしたいのですが、敷かれた路線の中で一緒に仲良くやっていることから、何かを見つけ出していくことは、少しオプティミスティックすぎないかと思うのですが。

髙砂　今おっしゃったような見方も確かにあるかもしれません。ただ私は「禁じ手」のようなものを持っていませんので、極端にいえば明日からコルゲートを使った建築や緑を取り入れた建築をつくっても、そのことにまったく抵抗がありません。実際にはしないと思いますが。今まで私が蓄積してきた「わざ、もの、こころ」をバネにして、作家としてのポリシーが許す範囲であれば、どの方向にでも進むことができます。すなわち最大限の自由度を持っていると秘かに思っています。これは楽観している訳ではなく、変に自らの意に反した形だけの建築をつくるより、はるかに良いと思っています。

長坂　原さんは、優秀で不可解な世界の解析装置のような人だといえるかも知れません。そこで学んでいるスタッフは同感しにくい指示に遭遇することもあれば、理解しやすい結論を経験することもあります。設計には、インプットとしての与件の解釈、分析といった過程があり、これと同時並行的にアウトプットの過程があります。現実の世界にはお金や時間の制約がありますから、分析と提案がスムーズに連続しているとは限りませんが、少なくともアウトプットの部分は実務のノウハウとして刷り込まれていきます。独立すれば、当然アウトプットのオリジナリティーを問われるわけですが、すぐにレベルが高くしかもオリジナルな解答を出すのは凡人にとって難しいので、徐々に取り組んでいくということになりました。例えば部屋の繋げ方についてプランニング上の様々な手法があります。以前誰かが書いていましたが、ヤマトインターナショナルまでの原さんのプランは大まかにいうと２通りのタイプしかないんじゃないか、自邸をはじめとする左右対称形のタイプと、片方がオープンスペースで片方に部屋が並ぶというタイプの2つではないか、という意見があります。これの真偽はともかく、彼のプランにそのくらい単純で強烈な形式があるとすれば、その事例の積み重ねは、我々にとって実践的知識と渾然一体となって強く浸透しているでしょう。したがって独立後、はっきりとした意志をもっていないとついつい似てしまう結果となるわけです。

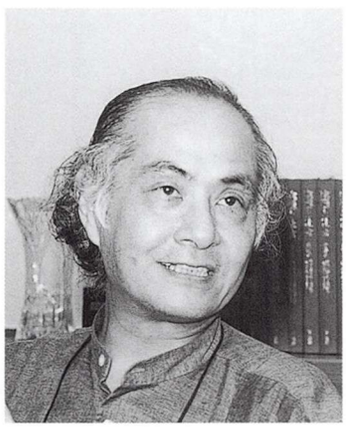
さっきの遠藤さんの言葉を拝借するなら、このような状況を打開するために「禁じ手」を設定するということになるでしょう。

21世紀と建築の方向性

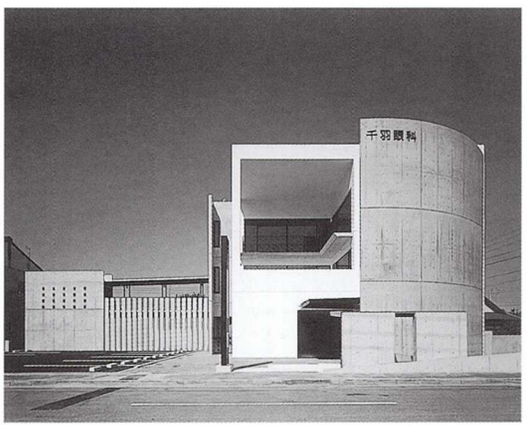
本多　建築の世界において、これからの時代がどう変わっていくと読んでおられるか、あるいは世の中をどうやってリードしていこうかとしているのか、その際、自分の方法論に有効性があるのかどうか、そのあたりはどうでしょう。

遠藤　世界はますます均質化が進むと思われます。その中で固有

本多友常（ほんだ　ともつね）
1948年　東京生まれ
1972年　早稲田大学理工学部建築学科修士課程修了
㈱竹中工務店設計部を経て
1998年　和歌山大学システム工学部環境システム学科教授
主な作品　木村歯科医院、吉田眼科医院、クリスタルタワー、アップウェル船場、千羽眼科医院他
主な受賞　大阪建築コンクール知事賞、建築業協会賞、日本建築士会連合会賞優秀賞、大阪都市景観建築賞大阪市長賞他
主な著書　「ゆらぐ住まいの原形」学芸出版社刊、「建築ノート」新建築社刊（共著）



本多友常氏



千羽邸＋眼科医院　設計　本多友常

性をもつものを残さないといけない、あるいはつくっていかないといけないと思っています。小さな建築であろうと、無から有をつくり出す場に立ち合う人間として、均質化に対し固有性であるとか特異点をつくることをしていきたいと考えます。その時に、今の自分の方法論が有効であるかどうかというのは大きな問題ですが、そのことは今後もテーマにしたいので、あえて答えとして触れませんが、問題意識としては今後も持ちつづけたいと思います。

本多　グローバルな意味で、価値の多様化が叫ばれてきましたが、個性を求め新たな価値をもう一つ付加していかなければならないということは、実は価値の不定型化や均質化に加担することになっているという疑問は感じませんか。つまり価値観が多様化しているというのはよくいわれますが、一人の人間の価値観というか、基本的に生きる原理はそんなに変わらないように思います。その中で遠藤さんが作家として固有性を求めるということが、真に価値をつくることに結びついているのですか。

遠藤　自分としては、均質化している価値、不定型化する価値に異質なものを介入させることでは、新たな価値の創造にはならないと考えます。建築は多くの場合、公共性を有し、部分として共有される可能性を有しています。そういったところに着眼し、排除構造を持たない開放系の建築を提案していければ、建築を体験する人、見る人に価値づけを再検討し、多様性を生み出す動機となることが可能であると判断しています。そのことが多様化、個性化の一つの手がかりであって、つくった建築自体が個性化の一つではなく、出来たことによって個性化が結果として派生してくれればと思っています。個性的な建築が個性化とは考えていません。

髙砂　社会全体が均質化する傾向にあるというのは私も感じています。それなら逆に忘れ去られるつつあるものを拾い集めて建築をつくってやろうと思っています。いくら社会が変化しても変わらないものがあります。それが人の価値基準になっているのであれば、その忘れかけた価値観を掘り起こして、そこに時代の変化にともなう考えや機能を付加した建築をつくれば、多くの人にコンセンサスを得やすい多様化した建築につながるのではないかと考えます。さらにいえば、たいへん難しいことですが、ローテクで曖昧、そして不均質なものをつくってゆくこと、またはつくってゆく体制づくりをすすめることが、人らしさを取り戻す方向ではないでしょうか。

長坂　20世紀末に一番はっきり出てきたテーマは環境問題だと思います。対比的に考えるとわかりやすいのは、19世紀末の産業革命以降の流れでしょう。当時、工業化が日常生活に浸透することによって人は幸せになれると皆が信じていました。ウィリアムモリスのようにそれを心配した人もいましたが、一方で、未来派のようにそれを賛美する側も出て、結果的に現代からみれば、産業、文化いずれの側面でも技術の進歩は人類の進歩だということになっていました。

これに対して、現在、同じように人類が共有しているものが環境問題でしょう。ポジティブな産業革命に比べてひどくネガティブな規範ですが、人類の未来がかかっているという点では共通しています。都市や建築もこの流れの中に取り込まれているといっていいでしょう。

省エネタイプのエアコンを開発するといった話は引き続き存在する一方で、エアコンを使う生活そのものを考え直す必要もあるのではないかということになっています。エネルギー浪費型の生活は意外にカッコ悪イと、多くの一般市民が思いはじめています。

それなら、ものをつくる人間はひたすら静かにしていた方がいいのかというと、そうではないと思います。特に、建築家の職能は、ただ新しいものを既存環境に付け加えるというだけでなく、今ある環境について考察することをも含まれているわけですから、その現状分析能力の比重が高くなったと考えるべきでしょう。やれることはたくさんあると思います。

例えば都市について、これから新しい街をつくる方法も必要ではありますが、今現在、街がどうなっているかということの分析や理解について日本は怠慢すぎました。都市計画法は、日本の都市が「どのようにあるべきか」ばかり考えていて、現在「どうなっているか」についての理解はあまりに稚拙です。経済発展という観点では優れていた様々な法律や制度も、一般国民の生活環境という観点ではろくに考えられていなかったのです。

このような感覚は、小さな木造住宅の増改築といったような事例でも同じです。現状を保存するか、改変するか、一新するか、得意不得意はあるにしても、大小の規模の都市や建築、ランドスケープに対して広く考察していきたいと思います。

金持ちの文化後進国だといわれ、やっと何とかした方がいいのではないかということになってきたわけですが、建築家は、少なくとも人々が生涯を過ごす物理的環境に対して、最も有能であるべき職種だと思っています。

本多　私達日本人は、明日どうなるかということに終始してきたように思いますが、世紀末を迎えてようやく最近その言葉が少なくなりました。つまり、いつも未来をどうすると言っていて、今を考えない。今は過去の未来だから、そこを見るのは非常に重要であるという視点ですね。そうした足元を見つめる視点が問われる時代において、先人達の仕事を正確に判断しつつ、自分達のなすべきことを考え続けていきたいと思います。

本日は、どうもありがとうございました。　（了）

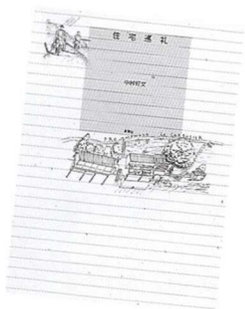


座談会風景

BOOK STATION
ブックステーション

住宅巡礼
中村好文 著

新潮社
2000.2.25刊
B5判　160頁　本体2,800円



世界各地に現存する20世紀の住宅の名作を、著者自身がその家の中に身を置く事で、そこで見たもの、感じた事を思いのままに書き綴り紹介したものである。作品はル・コルビュジェの「小さな家」、「休暇小屋」、フィリップ・ジョンソンの「タウンハウス」、アルヴァ・アアルトの「コエタロ」等、8人の建築家の9品に絞られている。平面図とパースが著者自らのスケッチ風イラスト（1/150の縮尺）で描かれ、そこに著者自身が計測したと思われる様々な部分の寸法が記される事で、作品のディテールが詳細に見て取れる様になっている。文面には、著者の彼らに対する尊敬と憧憬の念が強く感じられる。
図面を見るだけでも、そこに訪れた気にさせる、いや、同時に絶対に訪れなくては、という気にもさせる、実に面白い本である。それは、著者の素直な驚きや感動がそのままの言葉で表されている為かもしれない。最後に、本の帯に建築家達の似顔絵と図版を見るに便利な1/150の物差しが描かれている点が実に心憎い。　（H.T）

農と食文化のあるまちづくり
宮崎　猛 編著

学芸出版社
2000.3.25刊
A5判　208頁　本体2,300円



「都市の中に農地が存在する先進国は日本だけと言って過言ではない。」そのような環境を楽しんできた私たちにとって、今後ともその環境を維持するためには、有効な政策と意識改革が求められる時代になった。農地が何のマスタープランもないままに宅地化されて行く状況を見、また仕事としてかかわっている私たちにとって、この本はいくつかのテーマのもとにその方向性を示してくれる。都市農業の役割として筆者は以下の6点をあげている。自治体の食料自給率の確保。多様な農業関係事業者の存在。緑環境の維持。まちづくりの担い手としての農家。青少年への教育機能。都市生ゴミリサイクル機能。（外食産業や大型ホテルにも広がっている）
「農業」という視点からのまちづくりが今後のキーワードになる可能性を示している。　（A.T）

フランク・ロイド・ライト全作品
William Allin Storrer 著
岸田省吾 監訳

丸善
2000.3.25刊
254×254㎜　524頁　本体28,000円



「この本は、ライトの2万以上もの図面から実際に建設された500近い作品について、取り壊された約100作品を含め、平面図、写真、ドローイング、解説を載せたものである」、ライト研究の第一人者である著者は冒頭であっさりと本書をこう要約するが、ここに込められた歳月と労力は並大抵のものではない。ライトが非常に多作であったことはよく知られているが、その500近い実作全ての敷地を訪れ、必要があれば自ら撮影、実測し、竣工後の変更を丹念に追跡する。実際どう建ったかを記録するために、多くの掲載図面は実状に合わせて修正、新たに書き起こされている。このような偉業を地道に成し遂げた著者にはただ驚くほかないが、20世紀を代表する建築家であるライトに関して、このような基礎資料がこれまで十分に整備されていなかったことは意外だった。本書を端緒として、より多くのライト研究が実ることを著者は何より望んでいる。　（S.T）

30代建築家30人による30の住宅地
30×100architects実行委員会 監修

ギャップ出版
2000.8.1刊
A5判　143頁　本体1,800円



30代の若手建築家30組が取り組む30の住宅プロジェクトを通じて、住宅自体よりはその敷地、また周辺環境により重点をおき、「住宅地」について考える契機となればと企画された展覧会、それに併せて出版された本書。まえがきにもあるように、人口が集中する都心部においてなお戸建に住もうとする日本人の潜在的な執着、当然一戸当たりの敷地面積は極端に小さくなる。また若手建築家が請け負う住宅プロジェクトは、何故か奇妙な敷地が多い。不定形だったり傾斜してたり接道がなかったり…。非常に厳しい条件のなか、それを逆手に取って既製の手法によらない個別の解決法を見いだそうとする彼ら。そんなギリギリのせめぎ合いの中から「住宅地」という問題、その関係の取り結び方の可能性がみえてくる。本書に紹介されている30組の若手建築家達、いわゆるユニット派、「男性十女性」の組合せが目立つのがとても今日的。　（S.T）

担当：会員企画小委員会／髙岡伸一・辻川ひとみ・塚口明洋

[建築家おすすめデートスポット]

Walking

天神橋筋商店街

歩く、立ち止まる、待つ、我慢する



登場者　竹原 義二（建築家）
と　き　2000年2月18日・7月26日
ところ　天神橋筋商店街（1・2・3丁目）
最寄駅　大阪市営地下鉄「南森町」駅下車

デートとは２人が出会って歩いて何処かへ行くのでしょう。

このあいだと言っても、もう半年も前になる。２月の寒い日、コーヒーの香り漂う店で出会う。店の中は薄暗く落ち着きのあるインテリアだが、食器の触れ合う音や床に響く靴音が絶え間なく聞こえ、ときおり柱時計は鈍い響きで時を知らせる。彼は深々と帽子をかぶりパッチワークのコートに身を包み現れた。そのままの姿で椅子に腰を下ろし、コーヒーを注文するとすぐに煙草に火を付けた。

あいさつを交わし会話がスタートする。彼の言葉は自問自答スタイル、自分自身に問いかけ、思い浮かべ、言葉をかみ締めながら話す。こちらの話には頭を傾け、視線は時折しか合わせない。間合いを計るように煙草に手が伸びる。店にいたのは一時間ぐらいだったが、その間に何本の煙草が煙となったのだろうか。

彼は長年住み慣れたこの界隈から先日引っ越したばかり。今回のテーマにこの周辺の天神橋筋商店街を選んだ訳を尋ねてみた。デートした場所、土地への愛着、人々への愛着、それとも建築家としてのテーマがここに存在しているのでしょうか。その返答は、時間と距離をあけた事でこの界隈、特に商店街を再認識して考えてみようと思ったとのことでした。彼とは今回のデートスポットの案内人、無有建築工房の竹原義二氏です。

外に出て歩く事にした。何処へ行くというのではなく、商店街をぶらぶら歩く。顔見知りに出会うと軽く会釈をしたり、言葉を交わしたり。気に入った店があるとウィンドーを覗きこみサーと入っていって商品の品定め。店の人と少しやり取りをし、何も買わずに出てきて又歩き出す。素朴な織物や染布に興味があるらしい。その店での滞在時間は長い。御家族の御贔屓の店にも立ち寄った。ほんの先日まで履き物屋（下駄屋）でそれも100年以上続いた老舗で、いまはケーキ屋（正式にはフランス菓子工房）にも立ち寄りケーキを買った。店の扉を開けると甘く香ばしい香りがした。オープンキッチンのようにケーキ作りの厨房が見え、その中で手際よく働いている若い職人さんたちの姿を垣間見る事ができる。この店のインテリアは竹原氏の設計によるものである。（甘いものと竹原氏の組み合わせはイメージとして結びつき難いような気もする。）

「てんさん」

私と無縁に思えるこの店との関わり合いは、この商店街の外れに10年近く事務所を構え共に過ごしてきた事にあります。その間言うまでもなく、昼夜をとわずお世話をかけた店がたくさんあり、そして余り知られていないが私が手がけたインテリアや店舗、構造物もあります。

「てんさん」と呼ばれている天神橋３丁目商店街のアーケードも作品の一つです。「てんさん」の長さは500m程あって、北から天満宮に向かい15基の鳥居。萌黄、浅葱、桔梗、真珠と色も変化していく。アーケードを作るとき随分店の人たちと話を重ねた。アーケードは基本的には道路ですから、道路は大阪市が持っていて大阪市と話をしていくのだが、実際は店を構えている人たちは間口寸法によって自分の持ち分のアーケードという意識が強くあった。アーケードの高さも消防車が通れる高さが必要。ではアーケード（屋根）が本当に必要かどうかという話になると、あったほうが良い派と無いほうが良い派に二つに分かれてしまう。結果として今のような形、鳥居をくぐって天満宮へ向かうという参道、天満宮と共に栄根づいた商いの街を表現しています。

先ほどの洋菓子屋の事ですが、100年以上続いた下駄屋さんをしていた店が、誰も下駄を履かなくなったから靴を取り扱うようになる。しかし靴屋も安売りの店とかたくさん増えてきた。店を息子に継がせようと思ったら、息子にはフランスでケーキ職人の修業をしていた一流の腕がある。代替わりするとき、現況や先の事を考えそれじゃーという事でケーキ屋をする事にして100年続いた店をぱっと切り替えた。ぱっと一瞬にして場面が変わる。しかし場面が変わってもここで商売をしようと思っている。対人商売をしようと思っている。その店が新しく変わっても、扱う商品は異なっても、対人商売を続けていく、もう一度ここで新しい時代を作っていくという姿勢が見える。

現実にはそのような店ばかりではない。代替わりをしても商売が成り立たないから店を閉める。店にはシャッターが下りていて、奥や２階で生活はしている。人が暮らしている。ところがそれもあわゆくなってきた。北区で交通の便も良く、最近住民は増えているにもかかわらず、小売りの商売は成り立たなくなっている。便利がいいからマンションが売れ出す。それなら今まで商売をしていた人たちは１階を店にして上に住宅（マンション）を作ればいいじゃないかという話になる。ところが個々には資本が無い。売ってしまう。買手側は居住空間の提供で商売は完結し、長い間培って来た商売や商店街との関わり合いなどは無視してしまう。実際商店街の中にマンションのファサードが面している。ファサードはお店をしていないからセットバックして建っている。アーケードを歩いていたら、



急にそこだけが明るくなっている。明るくなってそこがポケットパークみたいに使われればいいのだが、そこはマンションの私有地。他者と共有し共存していた商店街というものが共有しなくなる。

10年余り商店街にいて、街が変わっていった様子が私の中にある。長い間かかって作ってきた界隈が、単純な動機で崩れていく事が残念でならない。街というのは一つの経済の中でそんなに簡単に変わっていくのだろうか。作り手側は場所性を考えない、特に建築を担っている建築家のほうは言われた仕事をそのまましてしまう。私もどうすればいいのか解らないが、少なくともこの商店街の人は危機感を持っている。

「商店街」

商店街とは何だろうかと考えてみると、多種多様なものが寄り集まって群れを成し商売（小売り一対面商売）をしている。

天満天神付近にはドラマがある。仁徳天皇時代まで溯り、それ以降色々な場面で歴史に登場してくる。この天神橋筋商店街の成り立ちも350年程前に青物市場ができ、大川を利用して商品が集まり人が集まってきた。道端で売っていたものがテントを張って売るようになり、そこに店を構え住み着いて商いをするようになった。明治になると大阪天満宮の裏門付近に繁華街ができて栄えてきた。

時代と共に、人と共に商店街は変わってきた。しかし戦後55年、特にこの10年から20年のめまぐるしい変化変貌には目を見張るものがある。大型店舗化や宅配、インターネットなどの物流システムの変化により小売業の有無や商店街の有り様にも影響を及ぼしている。

商店街は物を売るという顔の部分と共に、それぞれの生活や暮らしが存在し見え隠れしていた。一つ一つの異なる顔の集まりでありながら「自己のもの」と「他人のもの」の接点で、互いに補い合い高めあって共存してきた。ところが商売が成り立たない故に、経済の流れに対応できなくなった故に、商店街というものが衰退していくのは仕方が無い事なのか、果たして其れでいいのか考えてしまう。

ここは毎年天神祭りがある。祭りという一つの起爆剤で人が集まってきて街が活気付くが、一夜の夢物語のように終わってしまう。しかし商店街の人たちはそうじゃなくて、ずっと持続していける事を考え求めている。まだまだみんな一夜で爆発するだけの大きなエネルギーを持っている。その力を使って何か出来るのではないだろうかと考えている。商店街が空き店舗を借りてイベントなどを仕掛けている。最初は面白くて人は集まってくるが、時間が経つと目新しさが無くなり人が集まらない。人を集める為に目新しくて先取りした事ばかり良くて、持続してやっていく、我慢してやっていくという事が無くなっている。

それを考えるとこの2000年というのは持続していくことがないと3000年のことが考えられない。18世紀に英国で起こった産業革命も、19世紀20世紀と100年の単位で変わっていたが日本は戦後50年ほどで生活が変わってしまった。20世紀と21世紀の境目とはいったい何かと言うことを今までは余り考えなかった。こういう商店街も今まで考えなくても良かった。それがすごく考えなくてはいけない時期にさしかかっている。持続するとはどういうことか。

「美学（モラル）」

商店街は多種多様な集まりであり、異なる顔（物、人間、暮らし）の集まりである。故に物を探し選び、人と交わり言葉を交わす。ここを歩くことで色々な出会いが生まれる。プライバシーも含め商店街という連なりによってコミュニティーの接点となり自然に人々との間に暖かな交流が生まれる。人が見える、色々な人の生活や働いている姿が見える、それぞれに価値観や人生観がある。人生における暮らしにおける喜怒哀楽と接している事も大切ではないだろうか。

私もそうだが歩かなくなった。歩く時間が無くなった。時間的余裕も無くなっている。自分で手にとって、見て、歩いて、探してという事をしなくなって来た。出向かなくてもてもキーボードを押すだけで物がすぐに手にも入り、コンビニのように待たなくても物が買える事が当たり前にまかり通る。物を創っている人間にすればこれで良い訳無いと感じている。

歩く、立ち止まる、待つという行為。距離であったり時間であったりするが、それぞれに喜びや楽しみを感じないのだろうか。建築では必然的に立ち止まる空間を作っている。わざとではなく、アプローチや人を招きいれる為のしつらえ、それぞれに出会いを、視覚的だけでなく心理的にも相応の美学を伝える事が出来ればと思う。

竹原氏の話からは、人生には歩く楽しみ、立ち止まるときめき、待つ喜び、我慢をするルールというキーワードがあり、そこにはいつも人との関わりが存在するという事に気づかされた。

竹原氏と天神橋筋商店街を歩いた日は白い粉雪が空から舞い落ちていた。再度お会いした今日は天神祭り、天神界隈は大勢の人で賑わい、打ち上げ花火が夜空を飾り大川には太鼓中を先陣とする講社の人々の船が祭りを一層盛り上げる。

企画／会員企画小委員会　文：高橋麗子

地方分権と都市計画法の改正

浜野幸雄
京都府土木建築部都市計画課主幹

都市計画法は、昭和43年に制定されて以来30年ぶりに大改正された。都市計画決定権限が市町村に大幅に委譲されるとともに、国や都道府県の関与が限定され、市町村都市計画マスタープランを軸にして地域づくり、まちづくりを名実ともに市町村の手で進めることが可能になった。今、まさに地方の頑張りが試されている。建築士には、建築・地域計画の専門家としての立場から、市町村や住民とのかかわりを一層密にされることを期待する。

背景及び経過

高度経済成長に伴う急速な都市化の時代が終わり、少子高齢化、既成市街地の空洞化、地球環境問題等の新たな課題を抱えるようになった時代背景のもとで、「個性豊かな活力に満ちた地域社会の実現」を図るためには、地方公共団体の自主性及び自立性を高めることが必要であるとして、地方分権とその仕組みづくりが推進された。

- 平成7年7月
建設大臣から都市計画中央審議会に諮問「今後の都市政策はいかにあるべきか」
- 平成10年1月
第1次答申「都市計画における役割分担のあり方について」
- 平成10年5月
都市計画法改正（H10.11.20施行）
- 平成11年7月
地方分権一括法の成立（H12.4.1施行）
- 平成12年2月
第2次答申「経済社会の変化を踏まえた新たな都市計画制度のあり方について」
- 平成12年5月19日
都市計画法及び建築基準法の一部改正（1年以内の施行）

都市計画法改正の特徴

一連の法改正は、現在の都市における中心課題を、中心市街地の活性化と都市周辺部での居住環境の確保において、その解決を目指すため、権限を地方に委ねるとともに、抜本的に制度を見直したものである。

①「都市計画は国の責務」という体系から「地方自治体の責務」へ、「市町村が自主的に決定し、執行する」方向へ一挙に進めることになった。

→権限の大幅な地方への委譲、市町村都市計画審議会の法定化、国の関与の縮減

②地域の特性を生かした都市計画のための手法の充実が図られた。

→地方自治体の条例への委任、事業メニューの多様化、特別用途地区類型の撤廃

③都市計画区域外にも適用範囲を拡大した。

→準都市計画区域の創設、都市計画区域外における開発許可制度の適用

④都市空間の将来像づくり及び住民参加の推進が図られた。

→すべての都市計画区域でのマスタープランの義務付け（平成4年改正による「市町村都市計画マスタープラン」と併せた運用が期待される）、住民参加手続きの充実

平成10年改正（平成10年11月20日施行）

(1)市町村の都市計画決定権限の拡大（表1）

都道府県の都市計画決定は、広域的・根幹的な都市計画に限定された。

(2)特別用途地区制度の改善（表2）

特別用途地区の種別が撤廃され、当該地域の用途地域の目的の範囲内で、目指すべき地区の目標に沿って市町村が自由に設定できることとなった。

表1　主な都道府県決定の都市計画

●都道府県決定のものは広域的・根幹的な都市計画に限定された。また、政令市の決定権限が都道府県並みに拡充された。（市町村決定は都道府県決定以外の都市計画）

種別		改正前	改正後	
		都道府県決定	都道府県決定	政令市決定
線引き*		全ての都市計画区域	全ての都市計画区域	−
地域地区	用途地域	法令で規定する区域（広範囲に規定）	三大都市圏既成都市区域・近郊整備区域等	基本的に政令市が決定 ○政令市の区域を超える都市計画を除く ・線引き ・一般国道 ・高速自動車国道 ・国設置の公園 ・流域下水道等
地域地区	臨港地区	全ての港湾	重要港湾	
都市施設	道路	一般国道・都道府県道・幅員が16m以上の市町村道等	一般国道・都道府県道・車線数が4以上の市町村道等	
都市施設	公園	面積4ha以上	面積10ha以上	
事業	区画整理	面積20ha超	面積50ha超	
事業	再開発	面積1ha超	面積3ha超	

＊線引き：市街化区域と市街化調整区域の区分

表2　特別用途地区制度の概要及び改正点

●特別用途地区は、用途地域制度を補完し、地域特性に応じた指定目的の実現のため、建築規制を強化しまたは緩和することができる。（建築確認制度と連動）

制度	内容
都市計画(市町村決定)	指定の目的、地区の種別、位置、区域及び面積
建築条例(市町村条例) (建築基準法第49、50条に基づく条例)	①建築できる用途種別、規模(床面積)の規制または緩和 （緩和の場合は建設大臣の承認が必要） ②建築物の構造制限、壁面位置、高さ等の制限

●特別用途地区の種類と制定年

①特別工業地区 s25
②文教地区 s25
③小売店舗地区 s34
④事務所地区 s34
⑤厚生地区 s34
⑥娯楽地区 s34 → 娯楽・レクリエーション地区 s45（改正）
⑦観光地区 s34
⑧特別業務地区 s45
⑨中高層階住居専用地区 H4
⑩商業専用地区 H4
⑪研究開発地区 H4

［平成10年改正］

11種類の類型は撤廃され、地区の特性にふさわしい特別用途地区の種類を自由に定めることができることとなった。（既に決められたものは有効）

(3)市街化調整区域の地区計画の適用拡大

市街化調整区域における地区計画の規模要件がなくなるとともに、「地区計画が定められていること」が開発許可要件として追加された。（第34条）

平成11年改正（平成12年４月１日施行）

⑴機関委任事務の廃止（表３）

都市計画は自治事務となるとともに、都市計画決定に当たって国の「認可」、都道府県の「承認」が必要であったものが、「同意を要する協議」に変更された。

また、「同意を要する協議」に当たって国、府の観点が明確に規定された。

表３　「認可、承認」手続きの廃止

●機関委任事務の廃止に伴い、都市計画決定に当たり、大臣認可、知事承認を、同意を要する協議に変更。また、協議の観点を法定化。

改正前	改正後
（都道府県決定の場合） 建設大臣の認可を得る	国に協議し同意を得る （協議の観点）　国の利害との調整の観点
（市町村決定の場合） 都道府県知事の承認を得る	都道府県知事に協議し同意を得る （協議の観点） ①市町村の区域を超える広域の見地 ②都道府県決定の都市計画との適合の観点

⑵市町村都市計画審議会の法定化（表４）

今までは、市町村決定の都市計画であっても都道府県の審議会に付議が必要であったが、都市計画法に基づき設置された市町村都市計画審議会で審議されたものは、都道府県審議会に付議することを要しないこととなった。

表４　市町村都市計画審議会の法定化に伴う手続きフロー（市町村決定）

●市町村が都市計画法に基づく審議会（法定審議会）を設置した場合、府の審議会に付議することは不要。

改正前	改正後	
市町村決定の場合	通常の市町村決定の場合	政令市が、都道府県権限の都市計画を決定する場合
縦覧 ↓ 市町村審議会(任意) ↓ 承認申請 ↓ 都道府県地方審議会 ↓ 知事承認 ↓ 市町村決定	縦覧 ↓ 市町村審議会(法定) ↓ 知事協議 知事同意 ↓ 市町村決定	縦覧 ↓ 政令市審議会(法定) ↓ 知事意見(協議書に添付) ↓ 大臣協議 大臣同意 ↓ 政令市決定

＊市町村に法定審議会が設置されていない場合は、都道府県審議会に付議が必要。

⑶政令指定市の権限の拡充（表１）

政令指定市の権限は都道府県並みとされた。

平成12年改正（平成12年5月19日公布。公布後１年以内に施行）

⑴線引き制度及び開発許可基準

①従来、線引きすべき都市計画区域を法令で規定していたが、線引きするか否かを、原則として都道府県が判断することになった。（第７条）

②すべての都市計画区域において「整備、開発及び保全の方針」（都道府県決定）を定めることとされた。（第６条の２）

③市街化調整区域における開発許可の立地基準を見直し、市街化区域に近接・隣接する一定の区域内で住宅等の開発や建築を認めることとし、「既存宅地確認制度」は廃止された。（第34条）

④また、開発許可の技術基準（強化または緩和）、最低敷地規模の基準を地方公共団体の条例で定めることができるようになった。（第33条）

⑵良好な環境の確保のための制度の充実

①小規模な風致地区（10ha未満が市町村権限となる模様）の決定権限及び風致地区内の制限条例の制定権限が市町村に委譲された。（第58条）

②非線引き都市計画区域のうち用途地域未指定区域で「特定用途制限地域」制度が創設された。（第８条）

→都市計画区域内または準都市計画区域内の用途地域が定められていない区域（市街化区域調整区域を除く）において、制限すべき特定の建築物等の用途の概要を定められることとし、具体的な制限内容は市町村条例で規定する。

③用途地域が定められていない区域の容積率について400%～50%、建ぺい率について70%～30%の範囲で定めることになった。（建基法第52、53条）

⑶既成市街地の再整備のための新たな制度

①都市施設の範囲を立体的（地上及び地下）に定めることができる。（第11条）

②大都市の商業地域で複数の敷地間で容積率の移転が可能となった。（第８条）

③地区計画が、非線引きで用途地域が未指定の区域でも決定できることになった。（第12条の5）

⑷都市計画区域外における開発行為及び建築行為に対する規制の創設

①準都市計画区域（市町村指定）制度が創設され、用途地域、用途制限及び景観の維持等に係る地域地区を定めることが可能となり、併せて開発許可制度（政令で3000㎡以上となる模様）及び建築基準法の集団規定が適用されることとなった。（第５条の２）

②都市計画区域、準都市計画区域外において、大規模な開発行為（政令で１ha以上となる模様）に開発許可制度が適用されることとなった。（第29条）

⑸都市計画の決定システムの合理化

①市町村は都道府県決定の都市計画案の内容となる事項を申し出る。一方、都道府県は市町村に資料提供の協力を求めることができる。（第15条の２）

②地権者等からの地区計画の案の申し出ができるように、市町村条例で申し出の要件、時期を定めることができることになった。（第16条）

③都市計画案の縦覧の際に「理由書」を添付することを義務付け、都市計画決定権者の説明責任を規定した。（第17条）

④縦覧、公聴会など住民または利害関係人に係る手続きの充実の規定を地方公共団体の条例で定めることができるとされた。（第17条の２）

⑤国及び地方公共団体の責務として、都市の住民に対する知識の普及、情報提供が規定された。（第３条）

（はまの　ゆきお）

石にプレストレスを導入する

大氏正嗣
デザイン・構造研究所

先日、建築家の森下修氏が「淡路夢舞台国際石彫コンクール」の1次審査を通過したことを受けて、彫刻の構造設計を実施する機会を得た。模型審査を通過し、実物の制作にかかる段階である。内容は、石でできた小さな人形を組み合わせて樹木の形にするというもの。規模は、高さ約3m。

樹木というからには、枝が張っている。すなわち、オーバーハングが存在する。一つの大きな石から彫り出せば製作可能かもしれないが、コスト的にも作業量的にも容易なものではない。そこで、建築に携わる者の特徴を前面に押し出し、構築的な彫刻を目指すこととなった（図1）。

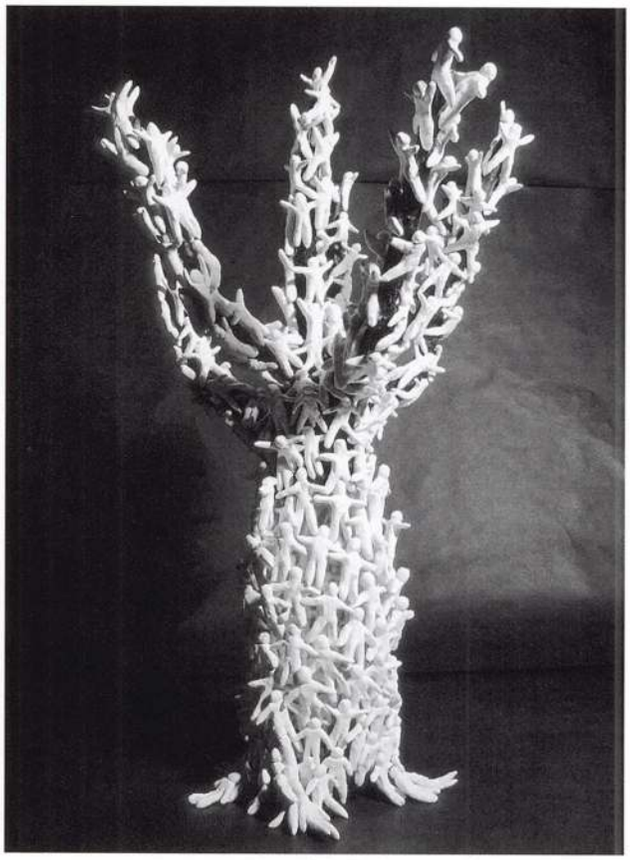


図1　当初模型　　提供：森下建築総研

石の特性

まず、石の基本物理量を確認する必要がある。石といっても、様々な種類がある。なお、今回使用する石は御影石（花崗岩）である。石の基本的性質を表1に示す。

表1　石の強度　　単位：N/mm²

石の種類	圧縮強度	引張強度	曲げ強度	せん断強度	比　重
安山岩	100	4.5	8.5	28	2.50
花崗岩	150	5.5	14	18～21	2.65
凝灰岩	9	0.8	3.5	—	1.50
石灰岩	50	—	—	—	2.70
砂　岩	45	2.5	7	—	2.00
大理石	120	5.5	11	—	2.70
粘板岩	70	—	70	0.7～3	2.70

注）あくまで標準値であり、実際にはばらつきがかなり大きい。

石のトラスの検討

最初に考えたのは石には圧縮力しかかけないということ。当たり前のことだが、自重のみならいざ知らず、屋外展示を想定して地震時の安定性を考えた場合、すべての石を圧縮状態に保つことは容易ではない。

人形を組み合わせて樹木を造り上げるために、人形の構築方法をトラス形式にすることが考えつく。トラスを用いることで、石に働く力が基本的に軸力に集約される。そして、部材の構築方法に配慮することで、引張の生じる部分を集約して最小限の補強で架構を構成しようというものだ。

荷重としては、自重が考えられる。石の比重は上記のとおり、2.6～2.7程度。水の吸収は表面のみであり、一般的に比重が3.0を超えることはない。

石の強度は、圧縮が卓越しており、せん断、引張の順である。引張強度も通常のコンクリートよりは大きいが、ＲＣと異なり補強筋を配することができないことから、結果としては最大の弱点となる。

当初想定モデルとしていくつかあったが、そのうちの一つを図2に示す。人形を用いて立体的なトラスを構成し、外周部分に引張力を集中させようというもの。引張力の生じる部分にスチール（テンションリング）を配して架構を保持しようという考えだ。また、ウエイトを設けて枝間のバランスを取るとともに、地震時の安定性確保を図ることとした。

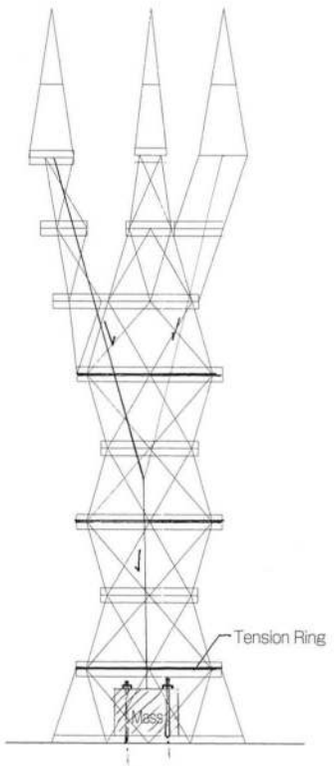


図2　　提供：森下建築総研

ところが、実施工を検討しようという段階で、複数の専門家から安全性を保証できないのではないかと言われるケースがあった。理由としては、石には目があること、施工時の欠けなどを考慮すると断面が小さすぎるというものである。

断面等の問題は人形を大きくすれば対処可能かもしれないが、「石は塊で使う」という考えを覆すには至らない。線材として使用可能であることを実証するためには、資金も時間も足りないだろう。今回は、あきらめて石を塊として用いることに路線変更。

基本形態の確定

石による樹木の幹と枝部分を芯材として石で製作し、その表面に人形を取り付けていく方法を採用することに決まった。石を塊で用いるので、問題点は枝の保持方法と、全体の転倒問題に集約される。

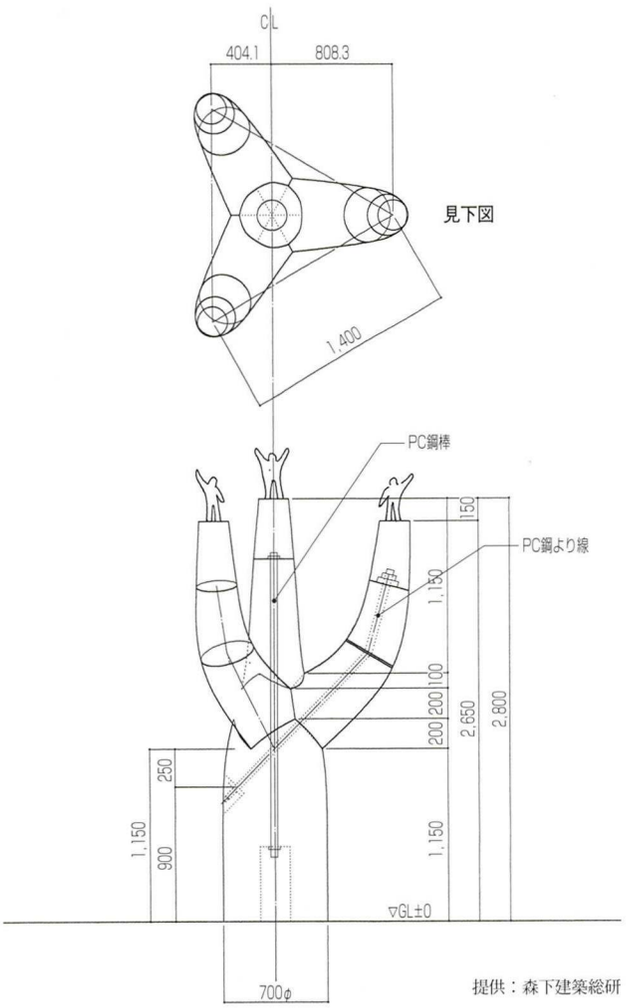


図3

枝の保持方法としては、プレストレスを導入する方法と、芯材として鉄骨を石の中央に配する方法が考えられる。ただ、石の自重がかなり大きく、それなりの鉄骨芯材が必要である。また、骨組みを鉄骨に頼ってしまえば、石彫のイメージから外れるのではないかという危惧もある。結局、プレストレス方式を採用する。

実施形の架構形態は、**図3**に示す。考えられる外力は、自重と地震時の外力である。コンクールに入賞すれば、基本的に継続展示となる。そのため、仮設工作物という扱いではなく、恒久工作物として考える。

ところで、私は石にプレストレスを導入した例を一つしか知らない（川口先生のイナコスの橋）。実際にはそれ以外にもいくつか存在するのだろうが、なにゆえ石にプレストレスを導入するケースが少ないのかは、すぐに理解できた。石には補強筋を配することができないのだ。プレストレスを導入する場合、導入軸力が大きいほど割裂に対する補強が重要となる。コンクリートの場合、打設前に必要な補強筋を配すれば、私たちは割裂の問題を気にせずに設計可能である。しかし石という既製の材料にプレストレスを導入する場合には、そうはいかない。

石の強度試験

中国における石の加工と並行して、石材の強度試験を実施した。試験は、圧縮強度と割裂（引張）強度。試験結果は**表2**に示すが、おおむね当初想定通りの結果を得ることができた。正直なところ、少し「ほっと」する。試験数が少なく断言はできないが、強度のばらつきも予想より小さく、思っていた以上に緻密な組成のようである。

表2　試験結果　単位：N/mm²

供試体番号	圧縮強度	引張強度
S－1	143	
S－2	131	
S－3		4.30
S－4		5.10
S－5		3.76

PCの導入

中国において削り出された部品が送られてきた。いよいよ、組立作業がスタートだ。プレストレスの導入は、諸般の理由によりプレストレスの専門業者ではなく、鉄工所と私たちの手作り作業である。

プレストレス導入は、15.2㎜PC鋼より線を用いて行う枝と幹の緊張作業。枝は3本あり、それぞれ3分割されている。枝を分割しているのは、枝が湾曲しているにもかかわらず、PC鋼より線挿入用の穴は直線加工しかできないことによる。

枝の部品同士は、鉄筋をだぼとして位置決め用に用いて、接着剤により接合する。最終的にはプレストレスを導入するが、仮組み段階ではそのまま。当初は、枝を一時的にプレストレスで緊張することを想定していたが（二度締めを行う）、枝の重量が小さなことなどから接着剤での仮組みが可能と考えた。

3本の枝が組み上がると、次は幹（下部）部分との接合。プレストレスの導入である。枝の重量が1本当たり約300kg（3,000Nと言うべきか？）あるため、3本の枝を同時に3台のクレーン等を用いて幹上に吊り上げる。さらに、その上に幹（上部）を設置し、幹（下部）と幹（上部）を3本の枝をはさみ込むように、PC鋼棒で締め付ける。もっとも、このPC鋼棒で枝を保持するわけではなく、あくまで形状安定のために使用している。

接合部分のずれを調整して、形状が確定した段階でPC鋼より線の緊張を行う。緊張作業自体は至って一般的なもので、特にここで取り上げるような内容ではない。ただ、クレーンで枝を吊り上げた状況では、枝の重量が幹に十分伝わっていないため、単純に緊張を行えば枝全体が横に滑り出してしまった。これは、接合面の不陸調整も含めて接着剤を塗布していたために、枝と幹の間の摩擦係数が0に近くなっていたことによる。

結局、接着剤の固化を1日待ってから、PC鋼より線の緊張を再度実施することとした。締め付け方法は、3本の枝を個々に緊張するのではなく、それぞれを非常に弱い力で仮締めした後に本締めを行っている。

＊

ここに示した内容以外にも、組立作業は試行錯誤の連続であった。より線の挿入方法、R部分の処理、接着剤の選択、石加工のミスの吸収、等々。

どちらにしても、石というこれまで用いたことのない構造材料を取り扱ったことは、貴重な経験となった。　（おおうじ　まさつぐ）

SI集合住宅における設備

高橋紀行
㈱竹中工務店技術研究所

現在、地球温暖化などの環境問題、エネルギー資源枯渇問題などにより資源循環型社会の構築、省エネルギーなどが強く求められている。このような社会的観点から、住宅の社会ストック価値が強く求められており、将来とも安心して住み続けられる資産価値の高い集合住宅が必要となるが、この視点から建設された集合住宅はほとんどなく、住戸の拡張ができない、プラン変更に伴う水場回りの変更ができないなど、空間利用に関するフレキシビリティに制約があるのが現状である。そのため、集合住宅を長期にわたって使用する場合、無理をして住み続ける必要があるなどの問題がある。

竹中工務店ではこのような社会ニーズに対応するものとして、スケルトン・インフィル型集合住宅（以下、SI住宅）の開発を進めてきた。このSI住宅は、住まい手のニーズの多様化、家族構成の変化などのフリープラン対応に答えるものである。スケルトンの構造躯体は100年以上の耐久性を有し、設備のインフラ部分は将来の設備容量増設に対応できる設計となっている。一方、インフィルの機能として、居住中の家族構成やライフスタイルの変化に応じて間取り、内装および設備を可変できることが重要となる。

今回、SI住宅に適した設備について、通産省次世代構造住宅モデル実験棟（図1）で試行している事例を述べる。

設備計画

このSI住宅では、省エネルギー性能に大きな影響を及ぼす断熱性能、日射遮蔽性能および気密性能のスケルトン・インフィルの分担を明確化した（表1）。さらに設備システムには、高気密・高断熱対応の24時間小風量換気モードに加え、①除熱換気モード、②ホットエアサイクルモード、③天井裏夜間換気モードを組み合わせた省エネルギーシステムを採用し、負荷低減を図っている。

表1　省エネルギー性能の分担

			スケルトン	インフィル	備考
暖冷房負荷	（1）年間冷暖房負荷		—	○	設備システムによる負荷低減
	（2）断熱性能	熱損失係数	—	○	
		夏期日射取得係数	—	○	
気密性能			○	—	

パイプシャフトの位置については、各スパンの両側に配置した共用部ツインシャフト方式（図2）を採用し、躯体と設備の完全分離を図っている。また、住戸プランの自由性や更新性を確保するには水場回り位置に拘束されないことが必要条件であり、都市基盤整備公団がKSI住宅で開発した緩勾配でも排水可能な排水ヘッダー方式を、ユニット化して適用している。

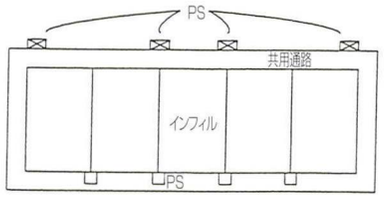


図2　共用部ツインパイプシャフト配置

電気設備

住戸幅木ケースウェイ（図3）や扉脇ケースウェイ（図4）によりSI対応している。幅木カバーなどを取り替えることにより入居時のアウトレット、スイッチの位置移動が可能となる。また、電気工事士法で定められた軽微な電気接続工事と認められるブレーカー

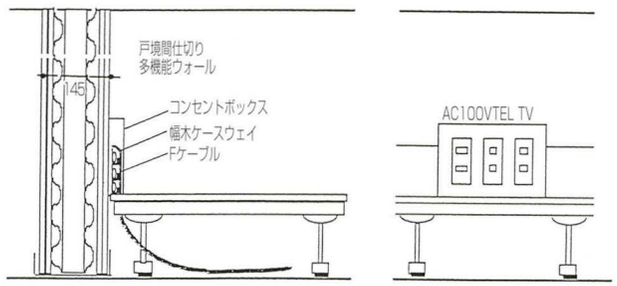


図3　住戸幅木ケースウェイ

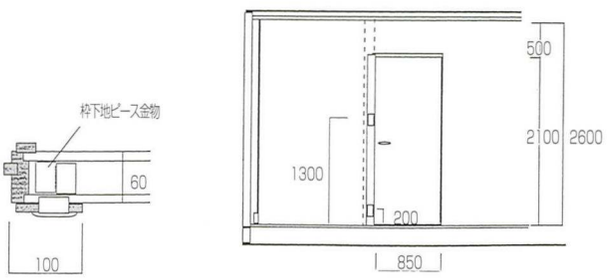


図4　扉脇ケースウェイ

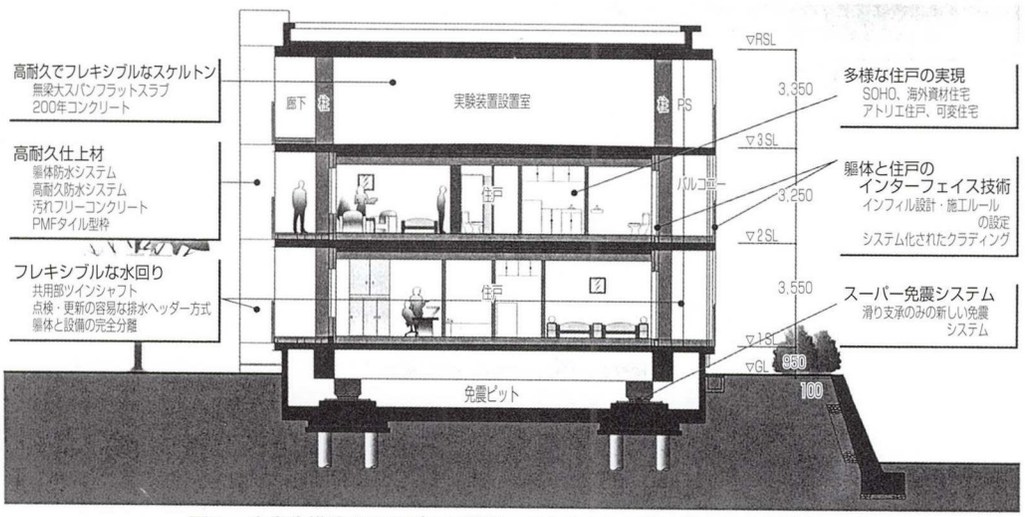


図1　次世代構造住宅モデル実験棟ースケルトンに組み込まれる各技術ー

を前提として、分電盤に直接プラグインで施工できる方式とした。分電盤自体の機能としては、感震機能付きデマンド制御形分電盤として設計を行った。

スケルトンにおいては、増設に対応した電力幹線、通信幹線の設計をすることが重要である。住戸ごとに必要容量が一律ではないので、全体の需要に応じた電力幹線計画が求められるが、住戸電力容量アップの余裕を持ったケーブル選定を行うことは経済的でないことがある。そのため、容量アップが必要であれば、ケーブルの増設などの工事が必要になってくる。したがって、コンパクトバスダクト（図5）のように1幹線で各フロア3～5住戸以上の供給ができ分岐容量も自由にとれるという大容量幹線計画（集中竪幹線方式）がSI住宅には適している。

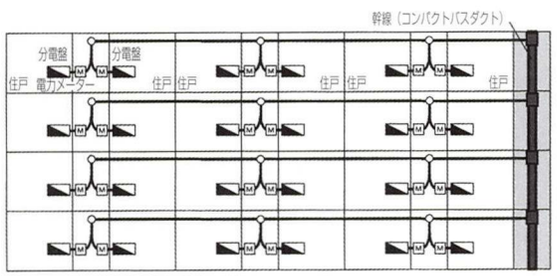


図5　SI対応型電力幹線方式（集中竪幹線）

さらに、超高層住宅では、中間または最上部に電力会社の電力供給変電所（借室）を設け、合理的な配電計画とする事例があり、この時には、将来の容量変更に柔軟に対応できるように、トランス容量の設定や、増設設置スペース、幹線からインフィルまでのルート確保などを考慮しておく必要がある。

排水設備

SI住宅では、居住者のニーズに合わせ、水場回りを含めた間取りの変更に対応するため、二重床が設置される。このフリープランの場合、二重床高さによっては、水場回り、特に排水設備がネックとなる。この対応策として、排水の勾配を軽減するために器具と立て管の近傍に設置したヘッダーを接続する排水ヘッダー方式がある。

今回のSI住宅では、間取り変更に一層フレキシブルに対応できる継手方向可変型排水ヘッダー（図6）を採用した。この排水性能については、実験により1／100勾配はもとより、1／150勾配まで排水性能が確保できることを確認した。また、パイプシャフトが共用通路部の外側にあるため、排水ヘッダーの設置位置は共用通路部二重床下とした。これにより、排水ヘッダーからの排水管清掃を共用通路から行うことができ、清掃作業が効率的となる。

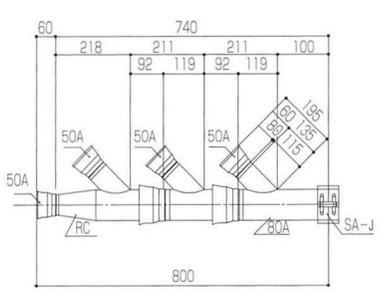


図6　継手方向可変型排水ヘッダー

一方、排水ヘッダーを共用通路部に設置すると、住戸と共用部での配管貫通本数が多くなる。そのため、住戸の気密性を確保するための貫通部の仕舞いが多くなり、施工上注意を要する。

換気システム

集合住宅においては、高気密・高断熱仕様が最近の傾向である。その場合、24時間小風量換気など効率的な換気システムが必要となる。今回は、SI住宅に特有な二重床・天井を利用した換気システム（図7）を1台のファンにより構築した。

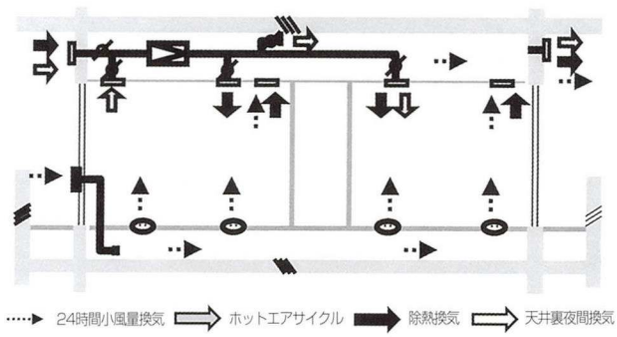


図7　省エネルギー換気システム

この換気システムは、下記の3つのモードを持っている。

①除熱換気モード

中間期、夜間などに外気を直接室内に導入し、室内発生熱などの除去により冷房負荷を低減する。

②ホットエアサイクルモード

冬期の省エネルギー対策として昼間の太陽エネルギーを回収し、北側居室に暖気を送風する。

③天井裏夜間換気モード

夏期、中間期の省エネルギー対策として、夜間の冷気を取り入れコンクリートスラブに蓄熱し、昼間の日射負荷を軽減する。

これらの3つのモード切り替えにより、中間期の冷房負荷において約30%、年間冷暖房負荷の約7%削減を計画した。

太陽熱利用蓄熱システム

今回は、SI住宅の二重床を利用して屋内にPCM（潜熱蓄熱材）を設置し、昼間太陽熱を蓄熱するシステムを採用した。その蓄熱と外気を熱交換することにより、冬期における夜間の暖房負荷の軽減を図っている。

次世代構造住宅モデル実験棟には、集合住宅の永住指向の高まりに対応し、家族構成の変化やライフスタイルの変化に合わせた間取りの変更やリフォームが容易で、建物の長寿命化を実現する住宅システムの開発を目的として、さまざまな設備を導入した。このSI住宅は、2000年3月に竣工し、現在これら設備の性能確認を行っており、結果については今後、学会などで発表予定である。

[参考文献]

1）忍裕司、矢部誠、土井章弘：未来へのストック型住宅を目指して、建築設備と配管工事、1999. 9

2）山岡正洋、高橋紀行、樋口祥明、小西弘高、桂川佳祐：SI住宅の省エネルギー性能に関する研究、空気調和・衛生工学会　学術講演会講演論文集、2000. 9（予定）

（たかはし　のりゆき）

実例その5・はがきを読む

山田　修
修　建築事務所

1）新入社員のお礼のはがき

礼状は，社交上とりかわす儀礼的な文書である．堅ぐるしい形式的な面をもつ．これはいたし方がない．

形式は，真似すればお互いに楽だ．が，書き手の真心が読み手に伝わらない．書き手は形式を少しでも変えるような個性的な表現を何とか入れるよう工夫をする．これで，新鮮さが少しは出せる．

そのためには，読み手の顔を浮かべ，相手に話すつもりで書く．しかし，音声言語と文字言語の違いがあるから，話すよりも丁寧に書くと自然体の文章ができあがる．その上で品位を保っているか，どうかを点検してみよう，礼状は，素直な気持ちを伝えると共に，早く出す行動力が求められる．

写1は，あえて，〔起〕・〔承〕・〔転〕・〔結〕の4部分に分けた．通常は，前文（頭語，時候，安否の挨拶）・主文（用件・依頼）・末文（結びの挨拶，結語）の3部分からなりたっている．

礼状の挨拶文の最後の方に「いずれ，ご挨拶にお伺いするつもりですが……」（時間に対する心づかいがない）は，ときとして口先だけのきれいごとになる例が多い．この言葉を入れるときは，近いうちに訪問する覚悟をしっかりと決めておこう．

これに似た通知に「近くにお越しの節は，ぜひお立ちより下さい」がある．わたしがあるとき出張の帰途，当はがきの主宅に電話すると，いい返事が返ってこず戸惑ったから，形式的な言葉遊びは，なるだけ書かないことだ．

はがき・手紙は真心の通知である．書いた言葉を実行してこそ「通じて人の心を知る」が生きてくる．

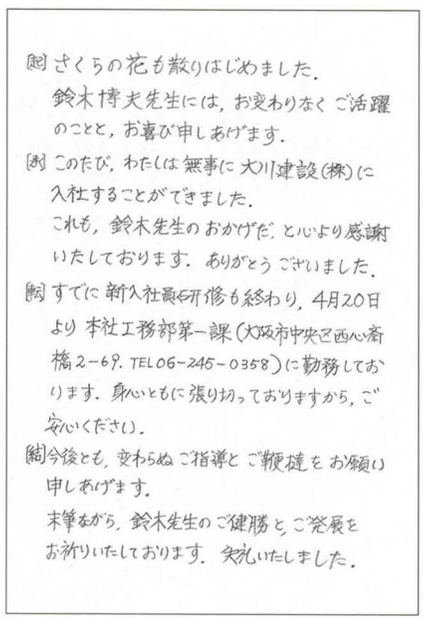
2）お礼のはがき

はがきは，記録証拠品である．たった一枚のはがきと侮らず「はがき一枚でもこわい」と肝に銘じて書こう．

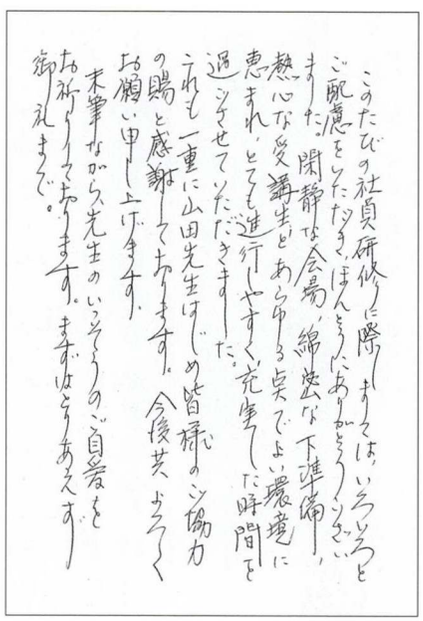
「文は人なり」「文は書き手の気持ちと知識をさらけ出す」から，はがきは“一筆入魂”の気合を入れて，書いてほしい．

つぎに，実例のはがき2種（いずれもわたしが受取人）を示し，私流の解説を試みた．

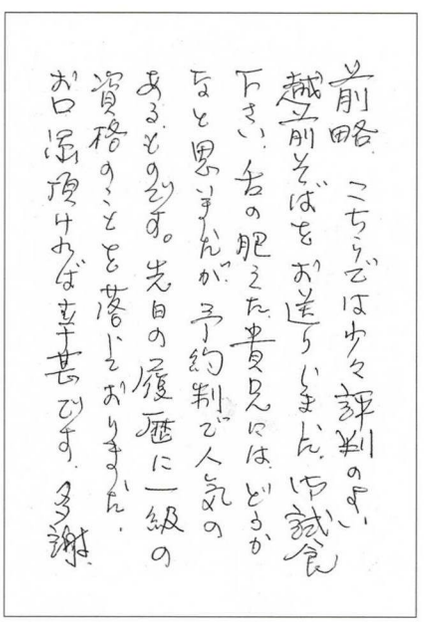
（やまだ　おさむ）


[前]さくらの花も散りはじめました．
鈴木博夫先生には，お変わりなくご活躍のことと，お喜び申しあげます．
[承]このたび，わたしは無事に大川建設(株)に入社することができました．
これも，鈴木先生のおかげだ，と心より感謝いたしております．ありがとうございました．
[転]すでに新入社員研修も終わり，4月20日より本社工務部第一課（大阪市中央区西心斎橋2-69．TEL06-245-0358）に勤務しております．身心ともに張り切っておりますから，ご安心ください．
[結]今後とも，変わらぬご指導とご鞭撻をお願い申しあげます．
末筆ながら，鈴木先生のご健勝とご発展をお祈りいたしております．失礼いたしました．

写1


このたびの社員研修に際しましては，いろいろとご配慮をいただきありがとうございました．閑静な会場，綿密な下準備，熱心な受講生とあらゆる点でよい環境に恵まれ，とても進行しやすく充実した時間を過ごさせていただきました．
これも一重に山田先生はじめ皆様のご協力の賜と感謝しております．今後共，よろしくお願い申し上げます．
末筆ながら先生のいっそうのご自愛をお祈りしております．まずはとりあえず御礼まで．

写2


前略　こちらでは少々評判のよい越前そばをお送りいたしました．口に合うか試食下さい．舌の肥えた貴兄にはどうかなと思いますが，予約制で人気のあるものです．先日の履歴に一級の資格のことを落としておりました．お口添え頂ければ幸甚です．多謝

写3

〈写1の注意点〉

① 「拝啓・敬具」は，形式化をさけるため省略する．その代わりに，始めと終わりは「～ました」で形を揃えた．

② 季語文の「さくらの花」は，ほかに桜・サクラ（植物名）の記述があるがさくら（柔らかく導入）」とした．

「花が（未知情報→相手に急に話す）「花は（既知情報→さくらの花を見続けていて散りはじめたことを相手に知らせる」「花も（物事を並列的・添加的にとり扱う．あなたもわたしもと連帯感が出る）」の助詞の使い方は，「も」→「が」→「は」の順序がいいだろう．

③ 現在形と過去形を交互に入れ，文章に変化をあたえた．

④ 「，」「．」を用いた（技術文章風）．

⑤ ひら仮名を多用した．漢字：ひら仮名＝78：155≒30：70（カッコ内の住所・TELは字数より除く）である．

⑥ 一文章ことに改行した．余白をとり読みやすくしている．

⑦ 勤務先の住所・TELを情報として提供した．

⑧ 〔起〕・〔承〕・〔転〕・〔結〕は，参考用に記した．〔転〕が書き手の特徴を出す部分．他の部分は形式的な文章で，他のはがきにも転用できる．

〈写2のはがき〉

① 「閑静な会場，綿密な下準備，熱心な受講生……」と全体を語りながら焦点をしぼったリズムある連句は，読み手に対する配慮が出ている．

② 結語の「まずは……」は，改行の方がよい．この人は一気に書かれたので余白がなくなり「続けられた」と思う．これでも，おかしくはない．

〈写3のはがき〉

① 個性のにじみ出た礼状で，相手の好意が汲みとられた．履歴書の資格にもふれ口添えを依頼している．簡潔ですべてを述べ，好印象を受けた．

② 字の大きさも適当である．「多謝」の結語は，この人ならではの使い方で決まっている．

相手を眼中に入れた自信のある“はがき”だ．

あえて欠点をいうならば，少々は「少しょう」落しては「落として」，口添は「口添え」とする．

しかし，前略・多謝を大き目に書き，起・結が決まっているので，欠点は「帳消し」とした．

③ レイアウトがよい．文字の特徴以前に全体のバランスが大切だ．そのコツは，文章を簡潔に書く．

そのなかには個性を生かした一言を入れる，はがきの天地・左右は空白部をとる，ことだ．

自動火災報知設備－3－

西尾　勇
松下電工㈱電材分社

受信機の種類と大きさ

受信機は設置される建築物の規模と種類、あるいは設備内容によって異なります。現在よく使用される火災受信機の種類を図1に示しましょう。

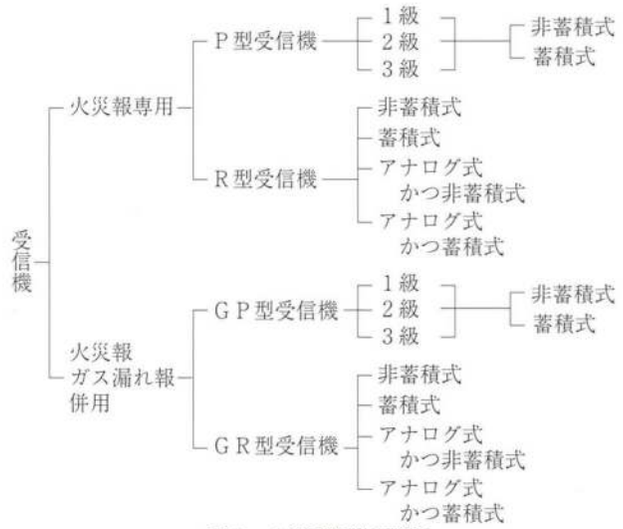


図1　火災受信機の種類



図2　P型1級受信機
－壁掛け型－

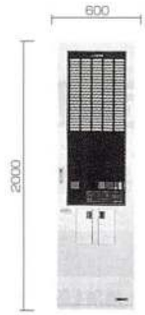


図3　P型1級受信機
－自立型－

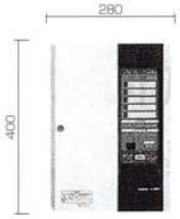


図4　P型2級受信機

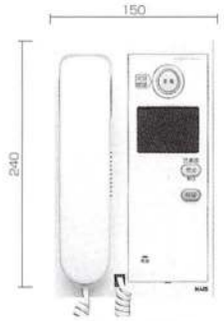


図5　P型3級受信機



図6　R型受信機
－壁掛け型－



図7　R型受信機
－自立型－

P型とR型の違いは本誌7月号に述べたので省略しますが、回線数の大きさが受信機の選択要素に大きくかかわってきます。法律では1回線（警戒区域面積）は600㎡以内と定められており、一般的には400㎡～500㎡にまとめられています。

P型1級受信機は回線数（警戒区域数）に制限がなく、多くの建築物に広く採用されており、おおむね50回線までは壁掛け型（図2）に納まり、それを超えると自立型（図3）になります。

P型2級受信機は接続回線数が5以下のものに限定されており、一般的には小規模の建物に採用されています（図4）。

P型3級受信機は接続できる回線数が一つに限られたものをいい、延べ面積が150㎡以下の防火対象物にのみ設置することが許され、一般的には、マンションの各住戸内受信機として採用されています（図5）。

R型（あるいはGR型）は、一つの火災情報を一対の電線で送るP型受信機と異なり、固有信号による電送方式なので信号線を大幅に削減することができる特長をもっており、高価ではありますが大規模建築物に主として採用されており、最近では安価で簡易なR型システムが壁掛け型で開発されました（図6）。

R型受信機は各警戒区域の番号が二つまで表示（デジタル表示）され（一般的には液晶表示部を追加で設け、分かりやすい読み替え名称で表示する）、それ以降の表示は手動操作によって行われます（図7）。

非蓄積式受信機というのは感知器や受信機からの火災信号を受信してからおおむね5秒以内に、主音響装置や地区音響装置の鳴動、火災表示が行われるものをいいます。蓄積式受信機は蓄積機能により、5秒を超え60秒以内に火災表示が行われる受信機をいいます。

アナログ式受信機というのは非火災報対策のため、アナログ感知器の感度を変更できるようにしたものです。

以上、受信機について簡単に紹介してまいりましたが、受信機は一般的に、ごく小さな物件以外は単独で使われることは少なく、防排煙設備の制御盤や消火設備の警報盤などと複合で採用される場合が多く、盤の大きさとしては火災の回線数と合わせた合計回線数でみますが、単独よりは大きくなるのが普通ですので、注意が必要です。

受信機設置における注意事項

(1) 受信機の周りには点検上、使用上の妨げにならないよう、必要な空間を設ける（図8）。

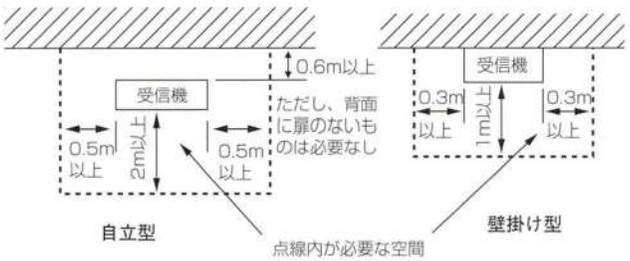


図8　点検上及び使用上必要な空間の例

(2) 防災センター、守衛室など、常時人がいる場所に設置する。
(3) 夜間や休日には無人になり施錠された管理人室などに受信機を設置する場合、火災連動で錠が解錠されるよう処置する。
(4) やむをえず受信機を設置する部屋がない場合は、受信機にいたずら防止策を施す。

（にしお　いさむ）

ドコモモ20選in高崎

20世紀に世界的なスケールで展開されたモダニズム建築を再検証し、再評価する試みが始まろうとしている。オランダに本部を置く国際組織DOCOMOMOが各国に呼びかけた“現存するモダニズム建築20選”を受けて、日本でも、日本建築学会内に発足したワーキンググループが、1920年～1960年代に建設されたモダニズム建築を20件選定した。

群馬県高崎市においても群馬音楽センターがこの一つに選ばれたことから、高崎市美術館で20のモダニズム建築展が開かれることとなった。

会期　2000年8月27日(日)～10月8日（日）
10：00～18：00(金曜日は～20：00)月曜日休館
会場　高崎市美術館　TEL/FAX 027-324-6125
群馬県高崎市八島町110-27
入場　一般100円、大高生80円、小中生50円
展示　ドコモモ20選の建築の写真、図面、模型、資料

※ドコモモ20選の建築とは
一連の同潤会アパートメントハウス／住友ビルディング／聴竹居／小菅刑務所・管理棟／東京中央郵便局／土浦亀城自邸／慶應義塾幼稚舎／宇部市民館／八勝館御幸の間／神奈川県立近代美術館／広島ピースセンター／コアのあるH氏のすまい／神奈川県立図書館・音楽堂／秩父セメント第２工場／日土小学校／香川県庁舎／群馬音楽センター／国立屋内総合競技場／大学セミナー・ハウス／パレスサイド・ビル

第16回睡眠環境シンポジウム

日本睡眠環境学会（横浜国立大学工学研究科人工環境システム学科内、TEL 045-339-3892）は大阪で、睡眠環境をめぐる招待講演と公募研究論文の発表を行う。

期日　2000年9月21日(木)～22日(金)9：00～17：30
会場　大阪ガーデンパレス　TEL 06-6396-6211
大阪市淀川区西宮原1-3-35 新大阪駅徒歩10分
協賛　日本建築協会、日本建築学会、人類働態学会他
内容（講演の抜すい）
・老人介護と睡眠へのまなざし－その社会史的理解－／京都府立医科大学・新村拓氏
・生体リズムを狂わせる24時間社会－夜間就業者のための睡眠環境改善－／サーカディアンテクノロジーズジャパン㈲・森国功氏
・昼夜の光環境が夜間の睡眠生理に持つ意義／奈良女子大学・登倉尋實氏
申込　Eメール（r9kajii @ cced.kindai.ac.jp）、郵送or FAX（06-6326-0214）で、氏名（ふりがな）、勤務先、連絡先、懇親会参加の有無を記入して下記へ申込みのうえ、参加費等を振り込む。
第16回睡眠環境シンポジウム実行委員会
（近畿大学理工学部建築学科人間環境工学研究室内、〒581-0811 八尾市新家8-23-1）
・郵便振替口座00910-1-7534
費用　睡眠環境学会会員8000円、非会員12000円、学生4000円、懇親会費7000円

『知っておきたい今注目のPFI！』

PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）は、公共事業の分野に、民間事業者のもつ経営力・資金調達力・技術力等を導入する新しい事業方法で、昨年９月に「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」（PFI法）が施行されて以来、PFI導入に向けた具体的な動きが始まっている。

今回のセミナーでは、関西初の泉大津市のPFI事業を具体例に、建築家が今後どうかかわっていけるのかを探る。

日時　2000年9月21日(木)14：00～17：00
会場　大阪府健保会館６階ホール TEL 06-6942-3621
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員　200名（先着順）
会費　㈳日本建築家協会（JIA）会員2000円
一般3000円
申込　氏名・勤務先・住所・電話番号を記入のうえ、JIA近畿支部（〒541-0051　大阪市中央区備後町2-5-8、FAX 06-6229-3374）へ、FAXまたはハガキで。

●『知っておきたい今注目のPFI！』
基調講演：植田和男氏（日本PFI協会専務理事）
シンポジウム：大久保富夫氏（泉大津市都市整備部市街地整備室室長代理）十宮川正博氏（鹿島建設プロジェクト推進部部長）十井上浩一氏（地域経済研究所課長）、コーディネーター大西久晴氏（オーク建築研究所）

子どもがかがやく21世紀の都市－自然をつなぐ、心をつなぐ－

㈶日本生態系協会は、自然と共生した、子どもたちが生き生きと輝く都市、まちづくりをめざして、国際シンポジウム「子どもがかがやく21世紀の都市－自然をつなぐ、心をつなぐ－」を開催する。参加無料。

と　き　2000年10月17日(火)10：00～16：15
ところ　イイノホール（飯野ビル７F）
地下鉄・銀座線「虎の門」下車
定　員　600名（申し込み順）
申込先　氏名（ひらがな）、所属、住所、電話・FAX、懇親会参加の有無を記入して、FAXかハガキで㈶日本生態系協会国際シンポジウム係（〒171-0021　東京都豊島区西池袋2-30-20 RJプラザ、TEL 03-5951-0244）へ。
プログラム（同時通訳つき）
・子どもがかがやく21世紀の都市／㈶日本生態系協会会長・池谷奉文氏
・エコロジカルな都市空間の思想／建築家・黒川紀章氏
・アメリカの新しい都市－コロラド州ボールダーにおける取り組み／米コロラド州ボールダー市都市計画部部長・ピーター・ボラック氏
・自然との共生を目指すドイツの都市計画／独連邦交通・建設・住宅省建設関係法規部部長・リューディガー・クラッツェンベルク氏
・パネルディスカッション「自然をつなぐ都市、心をつなぐまち」／加藤利男（建設省都市計画課課長）、黒川紀章、池谷奉文、ピーター・ボラック、リューディガー・クラッツェンベルクの５氏＋コーディネーター西村幸夫氏（東京大学教授）

医療福祉建築フォーラム

㈳日本医療福祉建築協会（JIHA）は、企画・設計者と他分野の人々が「ともに学び、ともに考える」場として、討論を重視したフォーラムを開催する。

会　期　2000年9月13日(水)、14日(木)9：30～16：30
会　場　建築会館ホール（東京港区芝5-26-20）
定　員　150名（先着順）
参加費　一般40000円、JIHA会員28000円
申込先　JIHA（〒108-0014東京都港区芝5-26-20、TEL 03-3453-9904、FAX 03-3453-7573）へ郵送またはFAXで。
プログラム（抜すい）
講演「平成12年診療報酬改定について」
――加藤隆正
討論「これからの浴室計画－在宅から施設まで－」
――中祐一郎／橋本美芽／佐伯博章
講演「PFI（Private Finance Initiative）導入の現状と課題」
――小山秀夫
報告「フィンランドの高齢者施設を調べて」
――居内章夫／手塚昌宏／登張絵夢／筧淳夫
討論「21世紀の急性期病院像」
――武藤正樹／井部俊子／中村恵子／長澤泰

「建築・設備総合管理技術者」講習会

㈳建築・設備維持保全推進協会（BELCA）は、総合的な観点から建物の維持保全計画をまとめ、実施に責任をもつ専門家を育成するため、「建築・設備総合管理技術者」の講習会を実施しており、平成12年度は東京・大阪の２会場で実施する。受講資格に条件あり。

●東京会場　2000年11月7日(火)～10日(金) 80名
会場：家の光会館（新宿区市谷船河原町11）
●大阪会場　2000年11月14日(火)～17日(金) 40名
会場：千里ライフサイエンスセンター（豊中市新千里）
申込受付　８月21日～10月６日（定員に達し次第締切）
受講料　77700円（テキスト代・消費税含む）
講習概要　16カリキュラム（延べ24.5時間）
受講資格その他詳細問い合わせは、BELCA（TEL 03-5252-3873）へ。

●投稿

昭和の名建築、駅前再開発の中で保全・活用を！

柴田正己（56歳、公務員）

新聞に大きく昭和戦前の名建築・JR奈良駅舎（昭和９年完成）が撤去される方向との記事が出ていて、驚いた。数年前から地元を中心に保存か撤去かで熱心に議論され、市民、建築の専門家などの意見を入れて保全・活用される方向で進んでいると思っていたからだ。それは、歴史的・文化的・景観的にみても重要な価値を持つ近代建築であると専門家から評価されていた。それを奈良県は、駅前再開発のためにJR奈良駅の景観やデザインのための検討委員会にかけて、撤去の提言を引き出したのである。最近各地でこの種のやり方が増えてきているのはよくない。一度決めたことが自治体にとって都合が悪くなると学識経験者・文化人などの名を借りて新しい提言を出して、従来の計画を白紙にもどすのである。

公平・公正に進めなければならない公共事業が、学識経験者の提言という一見、民主的なポーズをとりながら、実は自治体の都合のよい結論を導くというやり方は絶対に許してはいけない。

後世に悔いを残さぬためにも、外国人観光客の古都の景観を残しての声を入れて、この寺院風の駅舎は保全・活用すべきである。関係当局に再検討を強くおねがいしたい。



『近代建築畫譜』より

奈良駅
設　計　鐵道省
施　工　大林組
工　期　昭和８年12月～昭和９年６月
工　費　107,000円
構　造　SRC造
規　模　建坪636㎡、高さ10.95m
様　式　和風を加味した近世式

「福祉住環境コーディネーター試験対策講座」９月開講

大阪ガスインテリアデザインスクールは、商工会議所認定の「福祉住環境コーディネーター検定試験」対策２級、３級向け講座を開講する。講師は、いずれも、摂南大学教授・田中直人氏。

申込は、大阪ガスインテリアデザインスクール（〒541-0051大阪市中央区備後町3-6-14、FAX 06-6262-7202、TEL 06-6262-4089）へ資料請求し、送られてきた申込書付リーフレットによりFAXまたは郵送で行う。

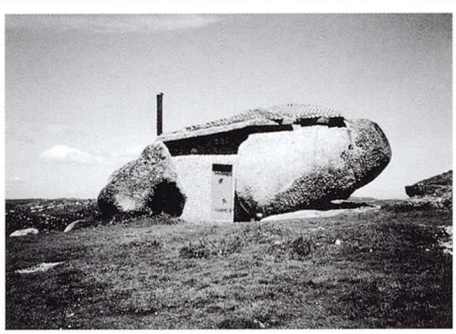
●〈３級〉試験対策講座　定員32名（先着順）
開講日　①９月14日②９月21日③９月28日④10月５日⑤10月12日⑥10月19日⑦10月26日（テスト）
毎週木曜日　18：45～21：05
受講料　45000円（税込み）
テキスト　4600円（税別）

●〈２級〉試験対策講座　定員32名（先着順）
開講日　①９月19日②９月26日③10月３日④10月10日⑤10月17日⑥10月24日⑦10月31日（テスト）
毎週火曜日　18：45～21：05
受講料　45000円（税込み）
テキスト　3800円（税別）

ecobuild－すまい・建築・都市の環境展－

セミナー「ecobuild」が、エコビルド実行委員会（委員長・内田祥哉）と㈱デルファイ研究所（TEL 03-3222-3780）の主催により企業内で環境保護・環境貢献に取り組んでいる人々を対象に開かれる。

会期　2000年９月20日(水)～22日(金)10：00～17：00
会場　池袋サンシャインシティ文化会館３階
入場　一般1000円、学生500円
出展　自然エネルギーの活用（太陽光発電、風力発電）、資源の有効利用（屋上・壁面緑化等）、廃棄の負荷の軽減（雨水利用システム、土壌浄化システム、コンポストトイレ）、再生システム（修復技術、修復工法、古材のリユース）、エコマテリアル（内外装材、塗料、外装材、断熱材、設備）、安心な住まい（有害性ゼロの素材）



ポルトガルの岩山に建つ岩の建物　写真／藤森照信

この建築は、放牧をする羊飼いたちの小屋だという。この小屋のありようからは、自然と建築が「共生」と「寄生」という関係のなかでせめぎあっているように見える。

環境共生住宅に係る技術講習会

「建設工事に係る資材の利用の促進に関する法律」の成立、「再生資源の利用の促進に関する法律」の改正等により、建設廃棄物の減量化やリサイクル促進が大きく前進することになった。もはや、わが国の住宅建築は環境に視点を置いた「環境共生住宅」への取り組みを抜きには考えられない状況になってきた。

そこで、環境共生住宅推進協議会と㈶建築環境・省エネルギー機構（IBEC）は、より具体的に住宅建築分野の新地平を展望する技術講習会を開催する。

期日　2000年10月18日(水) ９：30～16：40(前半)
2000年11月22日(水) ９：30～16：40(後半)
会場　住宅金融公庫東京本店１階　すまい・るホール
東京都文京区後楽1-4-10
講師　岩村和夫氏（岩村アトリエ）、中林由行氏（綜建築研究所）、須永修通氏（東京都立大学）、村上泰司氏（イオリナ）、豊田幸夫氏（ランドスケープデザイン）、忌部正博氏（雨水貯留浸透技術協会）、岩村公良氏（エコ・グリーン）
定員　各回150名
受講　一般20000円、主催団体会員15000円
（いずれもテキスト代・消費税含む）
申込　IBEC企画・環境部（〒102-0084東京都千代田区二番町4-5、TEL 03-3222-6737、FAX 03-3222-6696）へ。受講料振り込み後、振込金受領書写しを申込書に貼付して郵送かFAXにて。
振込口座：さくら銀行麹町支店、口座番号：8087164、口座名：環境共生住宅推進協議会

日本建築協会

月間の動き

【平成12年 6 月分】

評議員会

第１回定時評議員会
28日　５時16分～６時35分・於本会会議室
出席者　鶴田議長ほか46名（委任状共）
議　案（1）理事の補欠選任に関する件
（2）平成11年度事業報告書（案）承認の件
（3）平成11年度決算報告書（案）承認の件
（4）定款変更（案）について承認の件

総会

第５回日本建築協会賞表彰式
28日　６時30分～７時・於本会会議室
第１回通常総会
28日　７時10分～７時40分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか1513名（委任状共）
議　案（1）平成11年度事業報告書について承認を求める件
（2）平成11年度収支決算報告書について承認を求める件

理事会

第１回常任理事会
28日　４時～５時10分・於本会会議室
出席者　市川会長ほか12名
議　事（1）定款変更（案）の報告および承認の件
（2）理事の補欠選任に関する件
（3）各支部の平成11年度決算報告等の承認の件
（4）特別委員会の設置について
（5）入・退会者承認の件
（6）後援・協賛名義の使用承認の件
（7）事業報告
総務担当理事会
13日　３時～５時・於本会会議室
出席者　市川会長ほか６名
議　事　日本建築協会定款の改正に関する件

編集委員会

第３回編集委員会
７日　６時～８時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか８名
議　事（1）７月号「改正建築基準法パートⅡ」特集経過報告
（2）８月号「100年後へのメッセージ」特集・「日建設計創業100周年」特集経過報告
（3）９月号「来世紀に引き継ぐもの」特集経過報告
（4）10月号構造特集経過報告
（5）13年１月号「建築教育」特集検討
（6）作品作風小委員会報告
（7）読者と織りなす“たて糸よこ糸”について
（8）収支状況報告
第３回広告企画小委員会
７日　５時～６時・於本会会議室
出席者　宮田委員長ほか５名
議　事（1）「安田生命大阪ビル」広告経過報告
（2）８月号「100年後へのメッセージ」特集・「日建設計創業100周年」特集広告経過報告
（3）９月号「来世紀に引き継ぐもの」特集広告経過報告
（4）11月号「高齢者福祉施設」特集広告経過報告
（5）作品作風小委員会報告
（6）独自特集経過報告
（7）収支状況報告
第３回構造分科会
２日　６時～９時30分・於本会会議室
出席者　大氏幹事ほか５名
議　事（1）10月号構造特集「時間」の企画
（2）「構造の頁」の企画
第３回設備分科会
６日　６時30分～９時・於本会会議室
出席者　近藤幹事ほか４名
議　事（1）編集委員会の報告
（2）８月号「100年後へのメッセージ」特集の報告
（3）基礎講座シリーズの企画
（4）「設備の頁」の企画
第２回会員企画小委員会
６日　７時～８時30分・於本会会議室
出席者　高岡副委員長ほか３名
議　事　シリーズものの報告と掲載予定
第４回計画分科会ー建築系ー
14日　７時～９時・於本会会議室
出席者　笹村幹事ほか７名
議　事　「来世紀に引き継ぐーわざ、もの、こころー」特集について
第２回法令分科会
19日　４時～６時30分・於本会会議室
出席者　椎名幹事ほか５名
議　事（1）７月号「改正建築基準法」特集の報告
（2）「法令コーナー」の企画
（3）編集委員会の報告
第３回作品作風小委員会
22日　７時～８時30分・於本会会議室
出席者　赤木副委員長ほか４名
議　事（1）作品の選定
（2）作品の掲載状況並びに掲載予定の報告
（3）「gallery」掲載報告・予定
（4）「Sketch Book」の掲載予定
（5）会員作品特集号“私の空間作法”
（6）独自企画経過報告
第２回「高齢者福祉施設」特集会議
28日　７時～９時・於本会会議室
出席者　田中委員ほか２名
議　事「21世紀の高齢者居住環境」（仮称）について検討
会員企画小委員会「新企画案」検討分科会
30日　６時30分～８時・アークスコーベ
出席者　高岡副委員長ほか３名
議　事「新企画案」について検討

出版委員会

第３回出版委員会
15日　５時30分～６時50分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか８名
議　事（1）〈プロのノウハウ〉と特装本の経過報告
（2）今後のテーマと執筆者選定
第１回建築工事と式典小委員会
８日　６時～７時45分・於本会会議室
出席者　山田委員長ほか８名
議　事（1）企画の趣旨等についての説明
（2）建築工事と式典に関して意見交換

建築クラブ

第338回朝食会
13日　８時～９時30分・於大阪全日空ホテル
演　題「内観による自己探求と自己治療」
講　師　三木善彦氏（大阪大学人間科学部教授）
参加者　46名

入会者（敬称略）

［団体会員１社］
㈱上本組
［個人会員10名］

後藤幸満（鹿島建設）	中村一美（Studio S. E. A）	野村峰生（日建野村興産）
杉　恭介（塩見設計）	尾上　收（尾上建築設計事務所）	川口正晴（大亜建設工業）
川嶋平和（川嶋組）	村山好男（丸山組）	山崎泰人（淺川組）
林　毅（鹿島建設）		

◀会員の訃報
名誉正会員　山田一義氏（元　山田建築設計事務所）
平成12年７月30日逝去

大地の美を世界の街角に

建築用石材製品の加工・施工・販売

Sekigahara Stone Co., Ltd.

関ヶ原石材株式会社

代表取締役社長　矢橋達郎

本　　社／岐阜県不破郡関ヶ原町２６８２番地　TEL.(0584)43-1234
大阪支店／大阪市都島区都島本通り4丁目20番26号　TEL.(06)6922-7661

竣工：安田生命大阪ビル 協賛

SINCE 1901

YABASHI

日本の近代建築史とともに

際立つ技術

際立つ美しさ

石工事

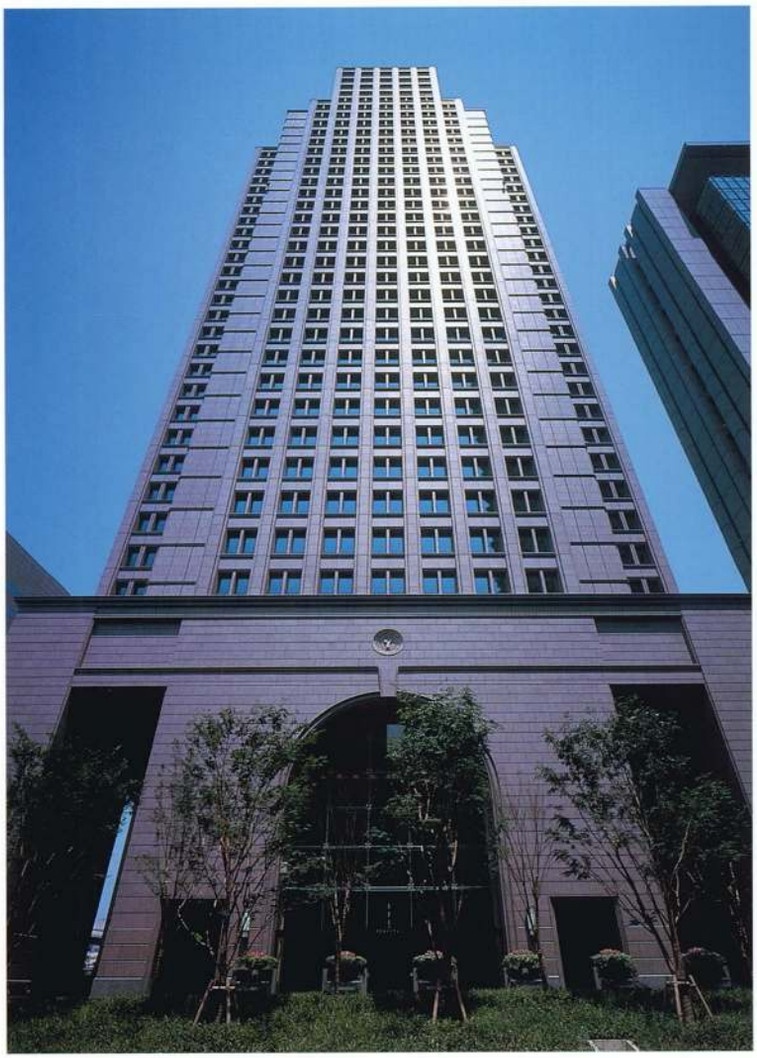
大理石・花崗岩・YMストーンパネル

矢橋大理石株式会社

代表取締役　　矢橋　修太郎

本　　社　　岐阜県大垣市赤坂町２７３

東京・大阪・名古屋・福岡・広島・イタリア



安田生命大阪ビル

建　築　主――レールシティ西開発株式会社
投　資　家――安田生命保険相互会社・大成建設株式会社
設計・監理――日建設計
施　　工――大成建設・西松建設・前田建設工業・フジタ・
五洋建設・東亜建設工業・大木建設・鴻池組・
森本組　JV

撮　影：島　修一・名執一雄



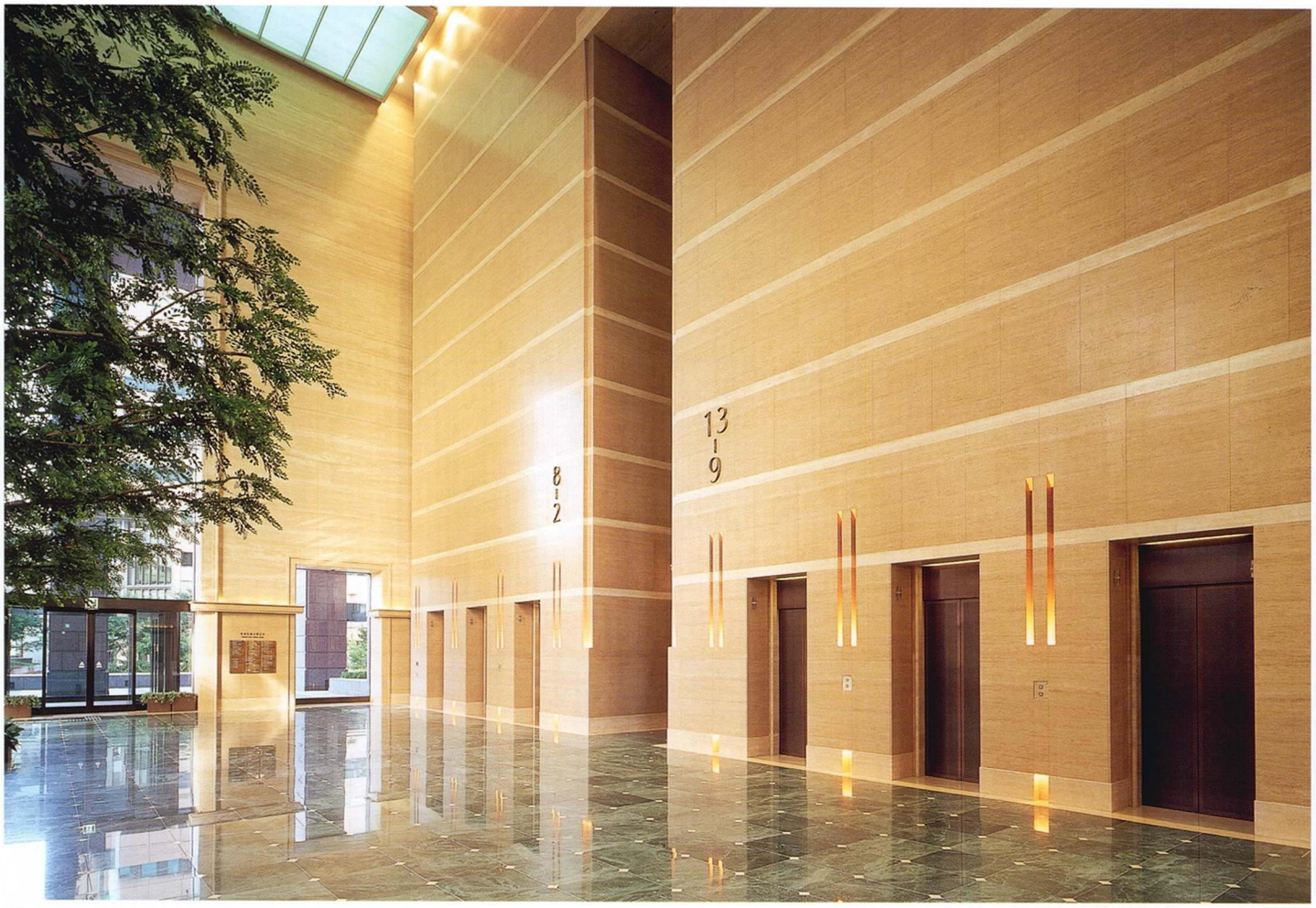


正面低層基壇

◀ 全景



エントランスホール　正面アーチを見る



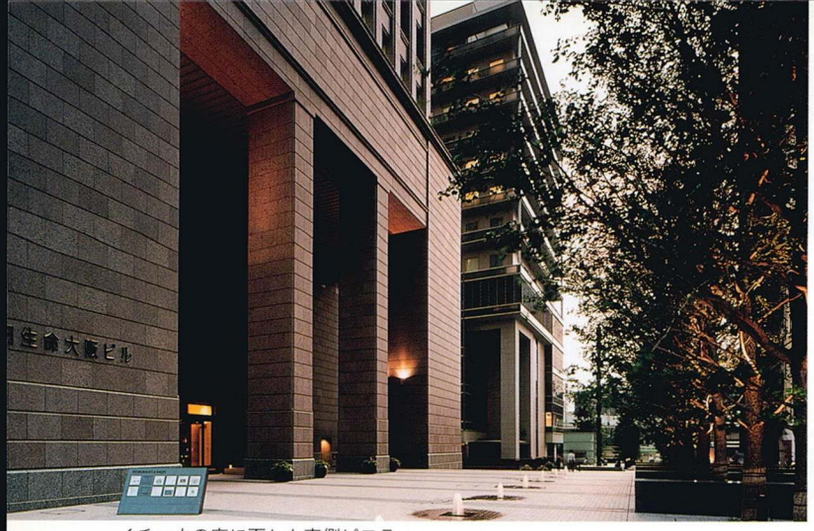
エントランスホール　エレベーターロビーを見る



地下１階　サンクンガーデン霧の滝



１階　コーヒーショップのあるパティオ



イチョウの庭に面した東側ピロティー



地下１階共用通路

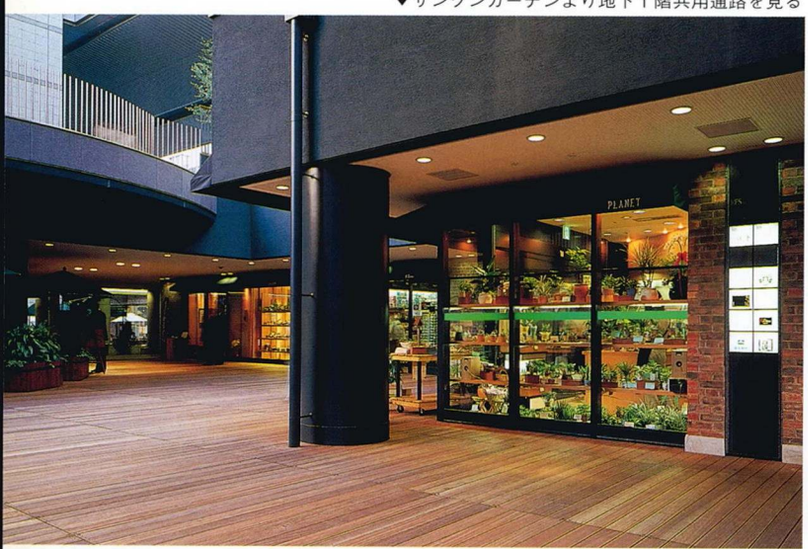


光のステージ



地下１階からのビルエントランス

▼サンクンガーデンより地下１階共用通路を見る



▼地下１階エントランスホール



▼サンクンガーデンに向かって張り出したコーヒーテラス



▼地下１階エントランスホールモニュメント（“IIfe”片山利弘作）



竣工にあたって

菅原　淳
安田生命保険相互会社 建設グループ

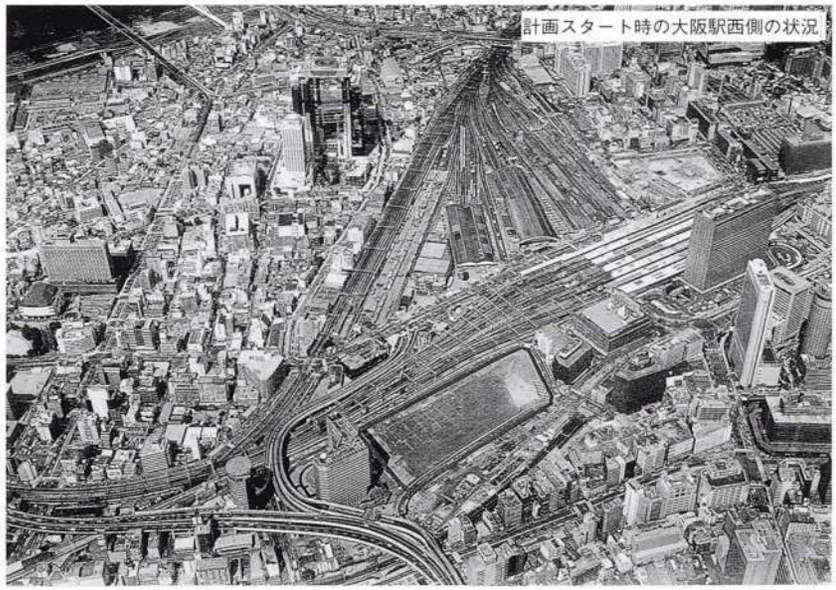
バブル最盛期に情報を入手し、紆余曲折はあったものの、共同投資家の大成建設との二人三脚で他共同提案者と協議を重ね、平成８年２月、数多くの苦難を乗り越えて「国鉄清算事業団梅田駅（南）西側」土地の「建物提案方式」による売却への入札に参加し、当ビルの計画がスタートした。

テナントビルとしての収益性・効率性に加え、超高層ビルとして都市景観も考慮しなければならなかったが、計画当初はハービスオオサカを含め、付近に出来るであろう７棟のビルが工事中または計画中の状態で、大阪駅前のこの広大な土地がどのように変わっていくのかは、現地で何時間見ていても想像がつかなかった。

設計提案を数多く受けながら、同時にいろいろな条件を決定していくという、提案側の日建設計にとっては非常にやりにくい相手ではなかったかと思うが、いろいろな角度からのCGと、平面計画を同時に何種類も比較しながら計画の絞り込みを行った。「高さは環境アセスの必要がなく視認性のある150m」「重厚感、存在感のある外観」「１フロアの有効面積が無柱の300坪」「地下１階及び最上階にビル入居者の昼食を提供する飲食店を配置する」という現在のコンセプトに最終的に基本設計が落ち着いたときには、ほっと胸をなで下ろしたことが思い起こされる。

大阪のテナント市況が悪化している中での竣工となったが、今回のこのプロジェクトの成功は、上記の設計を含め、施工、テナント誘致、飲食テナント誘致と、素晴らしいメンバーが集まり、それぞれの立場で「いいものをつくり上げる」という執念を持って取り組んだ成果であると思う。

皆さんの熱い思いに心より感謝したい。


計画スタート時の大阪駅西側の状況

▌建築計画▐

■コンセプト

まるで昔からそこにあったかのように：

「最古かつ最新」を標傍する安田生命の企業イメージを大切に、外観は、歴史と風格を感じさせる存在感のある、まるで昔からそこにあったかのような建物を目指した。落ち着きのある姿をつくり出している彫りの深い石貼りの外装は、ペアガラスの採用やルーバー効果による日射対策によって省エネルギーとロングライフをねらったものでもある。

マンハッタン状態：

これまで私たちのなじんできたOBPや新宿西口の風景は、広い空間の中に超高層ビルが立ち上がるものであったが、この地区では超高層ビル群がまさに肩を寄せ合うように立ち並んでいる。これを私たちは「マンハッタン状態」と呼んだ。この高密さを否定的にとらえずに積極的に演出して、類例のないドラマチックでにぎわいのある風景をつくり出そうとした。超高層ビルの間を人々が歩き回り、足元の広場でくつろぐ姿が新しい高密度都市空間を感じさせてくれるのを期待している。

クオリティ　オブ　ライフ：

クオリティ　オブ　ライフの概念は、オフィスに生活の場としての充実を見いだそうとするものである。オフィスライフを単に執務空間の中だけでとらえずに、このビルで働く人々の生活が豊かになるようなしつらえを積極的につくり込んでいこうとした。都市の華やかさを感じさせる1階の広場、滝の流れがまるで別世界をつくり出す地下のサンクンガーデンの周りに様々なレストランやショップを配して、ミニリゾート「エスタポート（命の港）」ができあがった。オフィスの格調を保ちながらオフタイムの楽しさを演出することで、都会生活の楽しみを演出する場になったと思う。

■外装計画

外装は花崗岩（南アフリカ産アフリカンライラック）による総石張りで、基壇部は乾式工法、それより上の高層部はPCパネルに打ち込みとした。厚みのある彫りの深い外観をつくり出すために、複雑な形状を無理なくつくり出せるPCカーテンウォールを採用した。PCパネルのジョイントは、柱の中央から外すことで、意匠上パネルジョイントの目立たないディテールとしている。

■エントランス周りのデザイン

足元4層分の高さを持ち上げて大スケールの基壇を構成し、大きくシンボリックなアーチにより西梅田プロムナード側に建物の正面性を確保した。4層分の基壇、大アーチと開放感のあるピロティは、高密度な都市空間をダイナミックに演出している。

高さ18mの天井を持つ総石貼りのエントランスホールは、ビルの玄関としてふさわしい、格調のある空間を創出する。また、地下1階には、ガーデンアベニューからのアプローチと車寄せ用のエントランスホールを設け、1階のエントランスと立体的に接続している。

■オフィス計画

1フロアは約300坪で、基本モジュールを3.6m×2.7m（和室の6畳）としている。貸室内は、低層階で約18.5m、高層階で約22mの奥行きの無柱空間を実現している。

床はOAフロア（H=100㎜）の上にタイルカーペット敷き、積載荷重は500kg／㎡まで対応可能としている。

天井高は2.8m、ペリメータ部分はファンコイルをなくすことで、高さ2.3mの気持ちのよい縦長窓を確保している。

■ペリメータ計画

日射や外気温度の影響を受けやすい窓際の温熱環境を、建築・設備の調和した計画・手法により、従来の問題点を解消し、安定した快適な温熱環境を提供している。具体的には、断熱性能の高い複層ガラス、庇効果の大きい彫りの深い外壁デザイン、冷房時のペリメータ熱排気システム、暖房時の窓面下部ベースボードヒーターの採用によっている。





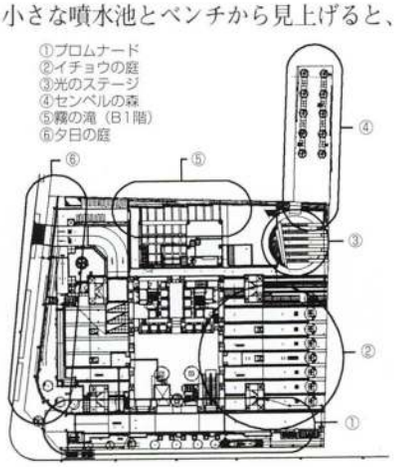
■ランドスケープ計画

6つの庭で構成されるランドスケープデザインは、超高層ビルと対応しつつ、その足元にヒューマンスケールをつくり、多様な自然の気配を体感する場所として計画した。

①プロムナード：ケヤキとフイリヤブランの植栽帯は、都心の雑木林である。バッハのゴルドベルク変奏曲のリズムをレンガ舗装のパターンに置き換え、歩行に快適なリズムを与えた。

②イチョウの庭：東面の前庭。列植された大径木のイチョウは、プロムナードより人々の視線を奥に引き込む、パースペクティブ効果を果たす。床に7つのキャンドル噴水を持つ。

③光のステージ：地下と地上、ビルを繋ぐ、インターフェースの場。小さな噴水池とベンチから見上げると、高層ビルで切り取られた大阪の空が見える。



④センペルの森：グリッド状に植栽されたセンペルセコイアは奥行きのある通路を形成し、光のステージの緑の壁ともなる。

⑤霧の滝：黒御影石を積層した地層状の滝。ウェーブする水、伝い落ちる水。様々な水の表情を光と影のスト

ライプパターンで演出。

⑥夕日の庭：西面のエントランス・テラス周りを、オカメナンテンが埋め尽くす庭。年間を通じた緑から赤の色変容が美しい。

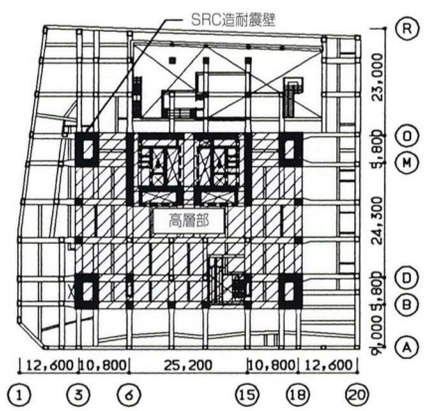
▌構造計画▐

■高層基準階の構造

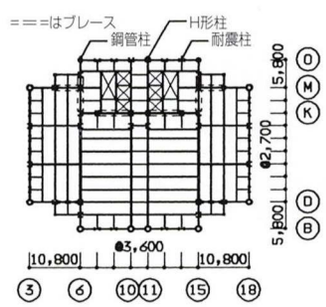
3階より上は鉄骨造（S造）とし、基準階は四隅のコア部および北側のエレベーターシャフト回りにS造ブレースを配置し、それらブレース付架構と外周架構により各階の耐力と剛性を確保した。すなわち、東西方向は3.6mスパンを基本とする南面および北面の外周部の純ラーメン架構と、四隅のコアに配したブレース付架構（D, K, M通）から構成した。また、南北方向は2.7mスパンを基本とする東面および西面の外周部・純ラーメン架構と内部・ブレース付架構（6、15通）および22mのロングスパンを有する純ラーメン架構（10、11通）から構成した。両方向ともに外周部・純ラーメン架構には、水平力のみを負担するH形鋼の耐震柱を配置し、長期軸力を支持する柱は、極厚500シリーズH形鋼柱および鋼管柱とした。鋼管柱は14階まではコンクリート充填のCFT柱とし、15階以上は鋼管柱とした。

■1・2階、大吹抜部の構造

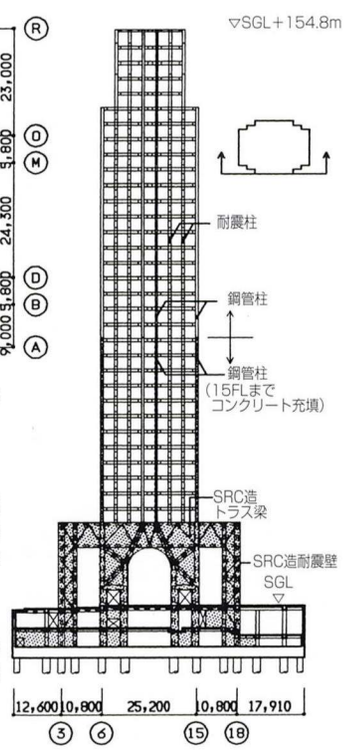
階高 17.3 mの1階と階高 5.3 mの2階を鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）とした。1階は、四隅のコアおよびエレベーター回りの鉄骨ブレース内蔵SRC造耐震壁と外周部のSRC柱とにより、長期軸力はもとより、高層部に生じる水平力を確実に地下部に伝達するのに十分な剛性と耐力を確保した。また、2階の外周部に成 6.6 mのS造トラス内蔵SRC大梁を設け、四隅のコア耐震壁の頂部を互いに結び、剛強なSRC造の大架構を構成し、この大架構が上部3階以上の外周鉄骨造架構を支持するように計画した。



1階床梁伏図



基準階伏図



外周部架構

▌設備計画▐

■基準階の基本モジュールと照明計画

空調の吹き出し・吸い込みを内蔵した600角の照明器具を開発し、基本最小モジュール3.6m×2.7mの中に、2個配置した。建物が四方に対して正面の形状をしているため、照明器具は、外から見て方向性のないように角型とし、システム天井もライン型ではなく、和やかで親しみのある在来天井に近い雰囲気のものとした。FPL55W×2灯下面ルーバー付の器具は、下面開放形器具並みの効率を達成し、省エネルギー・グレアレスと平均照度700ルクスを実現している。照明器具は、点検口としても使用可能な構造となっている。また、テナントの入居に伴う工事費を削減し、工事期間を短縮する目的で、ソフトの変更によって、モジュールごとに照明点滅区分を換えられるシステムを採用した。

■貸室の個別空調と快適な窓際環境

約250㎡に1台の各階空調機（4台／階）を設置し、VAV（可変風量ユニット）により約60㎡ごとの個別空調区画とした。窓回りのペリメータゾーンは、実寸大のモデルを使った工場での評価実験を繰り返し、窓面日射量、窓回り温度、ベースボードヒーターON／OFF状況を総合判断して、最適な排熱処理を行う排気ファン制御を装備した。建築計画と合わせたペリメータ環境の向上と、省エネルギーの両立を図ることが期待される。

■地域冷暖房利用と蓄熱システム

空調熱源は、北隣の大阪エネルギーサービスより、冷水・温水の地域熱供給を受けている。西梅田ガーデンシティにおける4棟の配置計画から生じた北側の人工地盤ピットを活用して、冷温水蓄熱槽を設けたことにより、地域冷暖房の基本料金の削減、省ランニングコストを図っている。また熱源機械室や屋外機スペースが不要、塔屋デザインの自由度やレンタブル比の向上、ライフサイクルコスト上のメリットも得ている。

■貸室を24時間利用できる無人化システム

貸室利用者が、守衛室の対応なしに24時間利用でき、省エネルギーになるよう、あらゆる機械化を行った。それらは、鍵管理ボックス、不在貸室照明・空調の自動停止及び無人機械警備への自動移行、不在階の昇降機不停止制御・共用照明空調の自動停止などで、貸室内の空調は、ユーザーオペレーションにより、入切制御、温度設定が可能で、空調料金も自動計量できるシステムとした。

■情報化対応

時代のニーズを先取りして、NTT、OMP、JTの光ケーブル幹線を共用シャフトに先行配線した。また、貸室では、各貸室専用EPSのパッチパネルとOAフロア下を、CAT. 5ケーブルで先行配線することで、8㎡当たり1人の割合で、電話2台とパソコン1台が使える情報ネットワークを安価で、容易に構築できるようにした。

日建設計——岡本　隆・大澤　智（建築）
阿波野昌幸（構造）
金　泰彦（空調・衛生）槍田延秀（電気）

▌工事工程▐

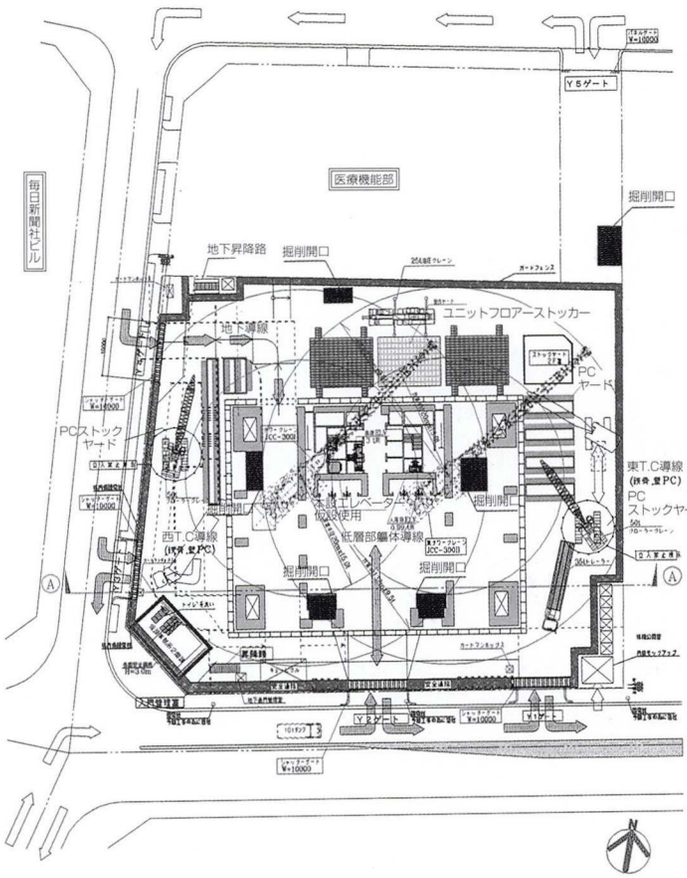
安田生命大阪ビルは、ガーデンシティ・タワーズの４棟のうち、地上30階と最も高層であり、床面積も最大である。しかしながら、与えられた工期は同時着工の他棟より１～３カ月長いのみで、かつ仕上資材搬入導線の中心となるＢ１階には複数の飲食店舗が、最上階にはトップレストランが計画されており、それらの同時オープンも視野に入れた工程計画が必要であった。また当プロジェクトは４棟が地下で繋がっており、異なる４JVによる４棟同時逆打工事という特殊条件も加わっていた。

そこで、既存地下道との接続階段工事も含め32カ月の工期内に完成させるために、以下をポイントとした工程計画を行った。

1）他工区との綿密な工事調整による、逆打工事マスター工程の厳守

2）S積層工法による高層躯体工事工程の短縮と仕上工事の早期着手

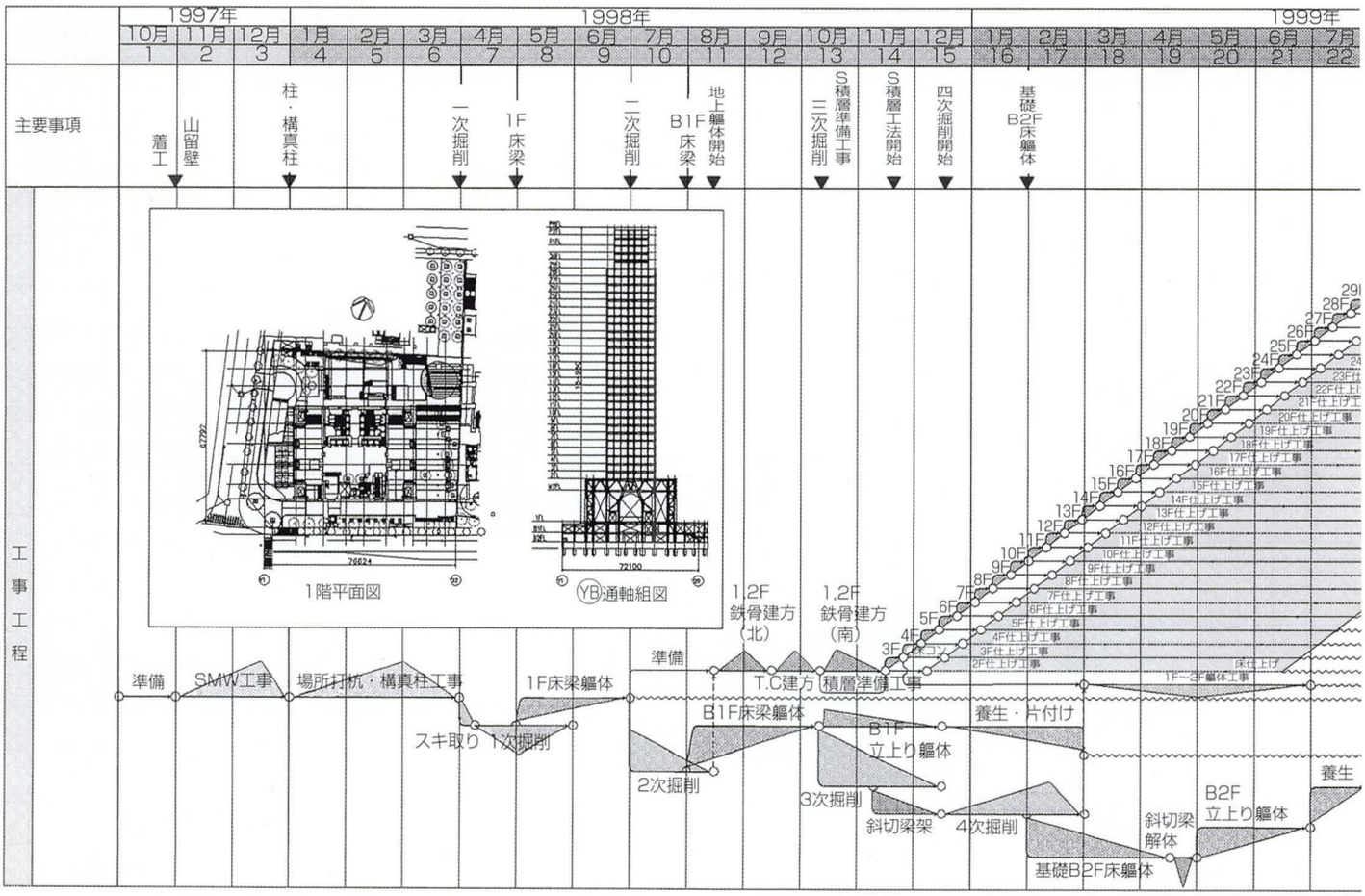
3）仕上材の先行揚重とタスコム手法による仕上工程管理



▌地下工事▐

敷地はJR大阪駅の西方約500mに位置している。敷地周辺の過去の地形図によれば、明治初期より現在まで市街化されておらず、敷地中央部には堂島川へ通ずる運河が存在していた。地盤は粘性土と砂質土の互層で、G.L.－５mまでが埋土、それ以深軟弱な沖積層がG.L.－20m付近まで堆積し、G.L.－24m～36m付近に被圧帯水層（天満層、被圧水頭はG.L.－2.5m付近）が存在している。

山留めは、ガーデンシティ・タワーズ４棟の地下部分を一体と考え、山留め壁設置後、１階およびＢ１階のスラブを逆打ちで構築し、



B1階を反力とした斜めばりを設置した後、最終掘削を行うことを基本計画とした。山留め壁は、ガーデンシティ・タワーズ全体の地下外周部にソイルセメント壁（壁厚：850～900㎜）を設置した。ソイル長は38mとし、天満層の被圧に対する掘削底面の安定を図るため、G.L.－36m以深にある洪積第一粘土層まで根入れし、被圧帯水層である天満層を遮水した。

B1階床梁の構築にはグランドフォーム工法を採用した。この工法は逆打工法における床付け面にコンパネを敷き、そのまま梁底型枠に利用するもので、型枠支保工と高所作業を減らすとともに、2次掘削レベルを浅くすることができ、山留めの変位を最小限に抑えることができた。

▌地上工事▐

高層躯体工事にはS積層工法を採用した。S積層工法とは、鉄骨と外壁PCa版を1フロアーずつ施工していくもので、以下のメリットがある。

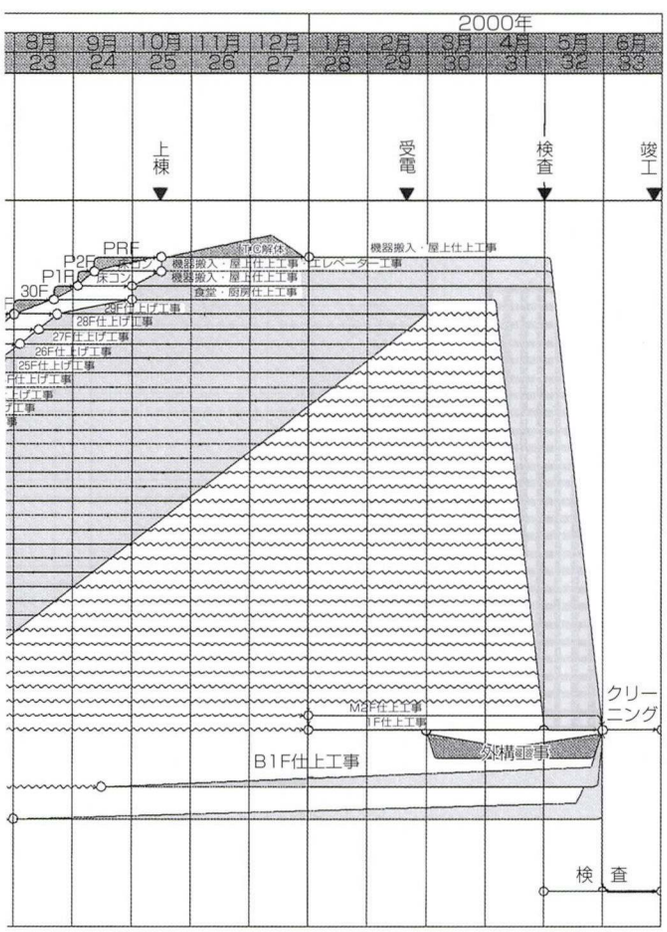
1）躯体工事が常に1フロアーの高さで行われるため、墜落災害の防止につながる。

2）外壁を含めたサイクル工程となるため、労務の平準化につながる。

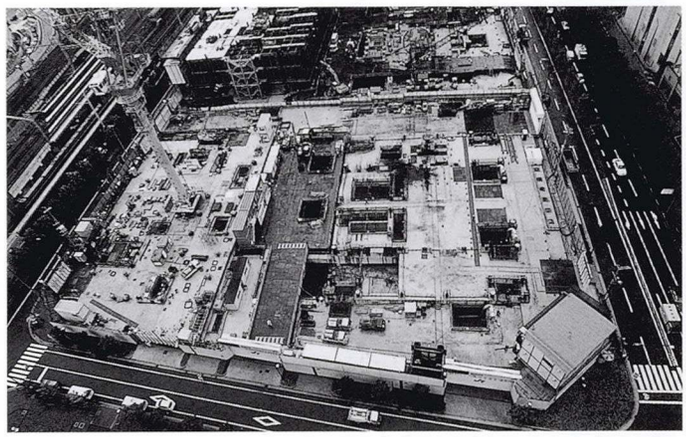
3）早期に外壁が取り付き、飛来落下災害が防止できる。

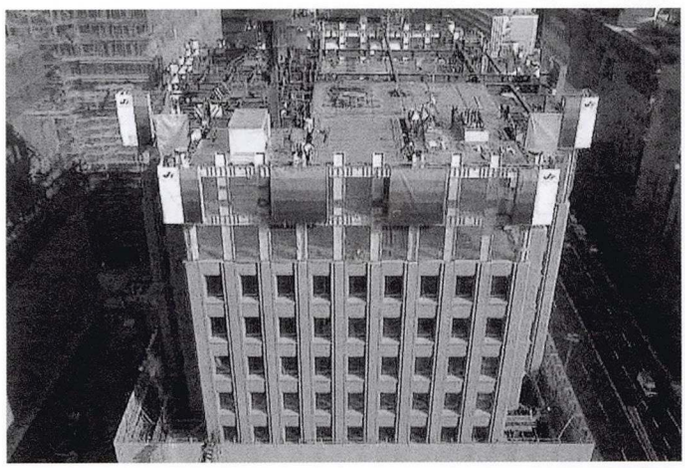
4）外壁を含めた止水ラインが在来工法より圧倒的に早く確立でき、仕上工事の早期着工が可能となる。

さらに、上記のS積層工法の効果をさらに高めるため、以下の各要素技術を採用し、安全で快適な作業環境を確保しながら、躯体工期の短縮と仕上の早期着工を行った。




着工時　1997年12月18日撮影


1階床完了　1998年7月16日撮影


S積層工法　1999年1月14日撮影

①本設鉄骨柱をマストに兼用したマストコラムクレーン(300tm 2基)

②外周部自昇式養生ネットフレーム

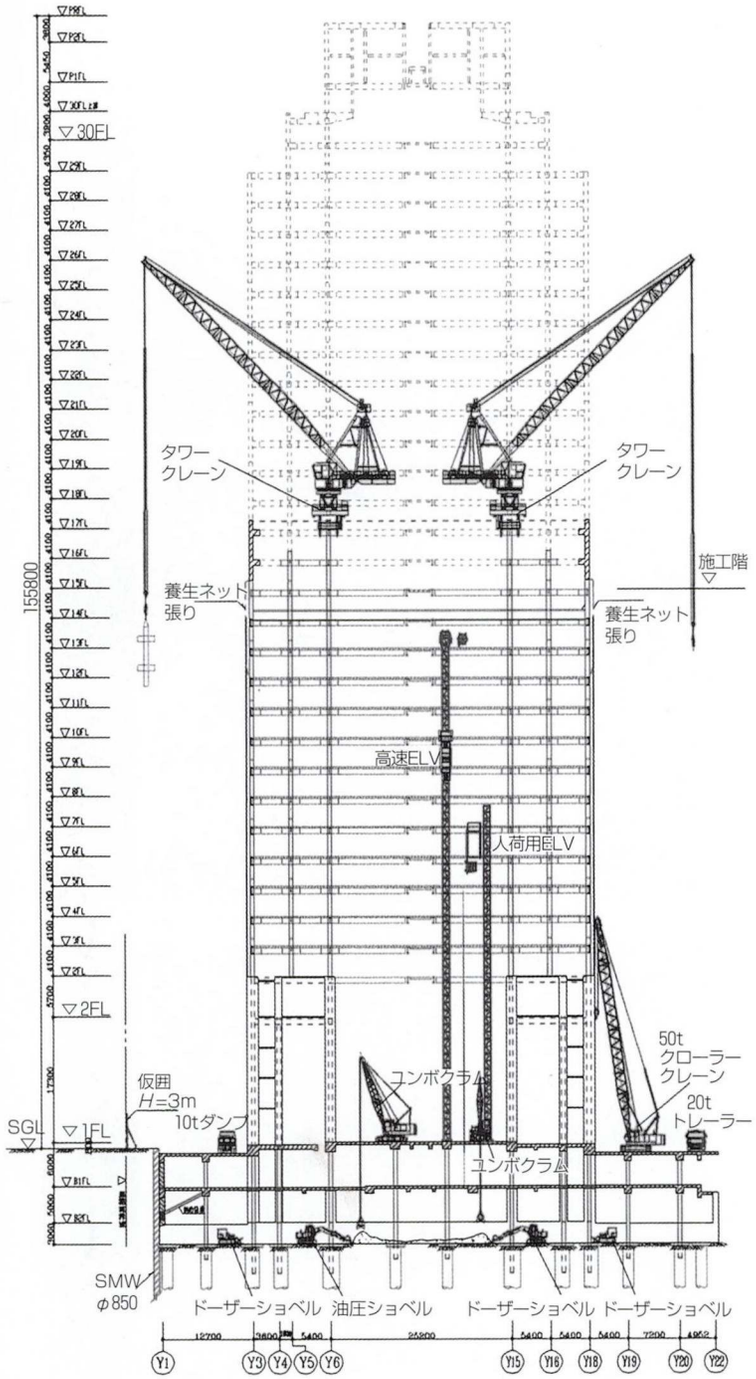
③床フルPCaの一部採用による空調機・仕上材料の先行揚重

④ユニットフロアー（鉄骨小梁＋デッキ＋設備ダクト・配管）

⑤設備ライザー配管

高層積層工事は平成10年11月にスタート、1フロアー6日サイクルで順調に進捗し、平成11年10月無事上棟した。仕上工事は11年1月に着手し、安全と品質管理をタクト工程に盛り込んだタスコム手法により、工程を計画・管理した。

5月には施工モデルルームが完成し、仕上工事の文字通り品質モデルとするとともに、入居テナントへのプレゼンテーションとすることができた。



▌安全管理▐

墜落災害の防止、安全通路の確保というスローガンのもと、上記の各施工計画の目的とする高所作業の削減・飛来落下の防止・仮設床開口の絶滅を実現することができた。

*

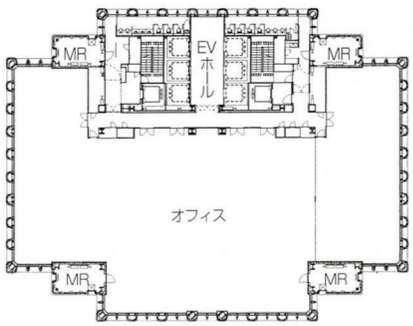
平成12年７月７日、各飲食店舗も含め、他棟とともに無事グランドオープンを迎えることができたことは、施主・投資家、及び設計監理事務所によるご指導と、各工法に対する絶大なご理解ご協力による結果であり、ここに厚く御礼を申し上げます。

安田生命大阪ビル新築工事共同企業体―― **林　　一彦**（統括所長）
守田　　進（所長）
奥畑浩一郎（担当所長）

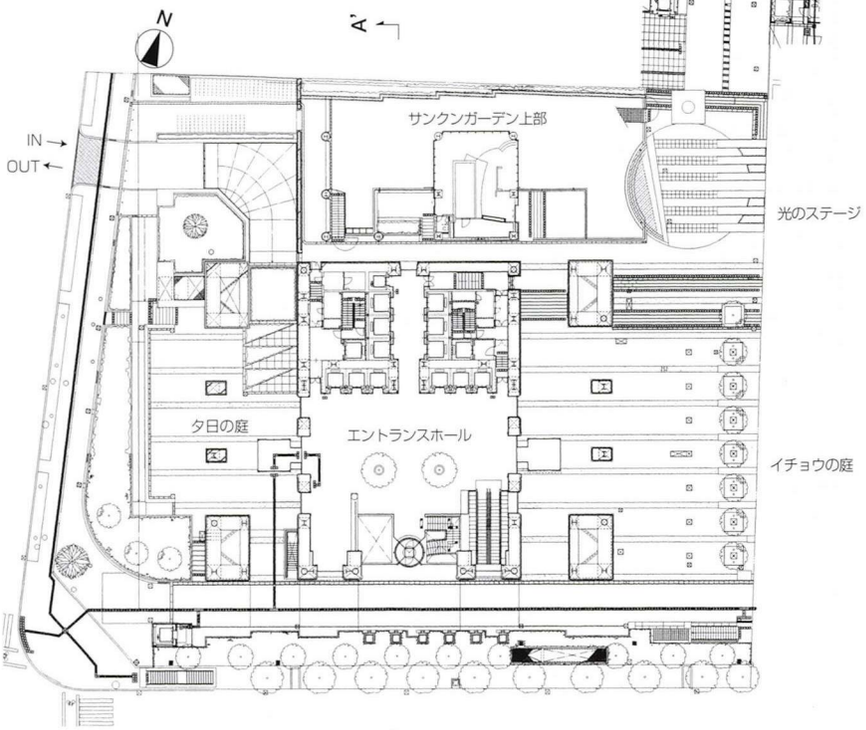
安田生命大阪ビル

建築主／レールシティ西開発株式会社
投資家／安田生命保険相互会社、大成建設株式会社
所在地／大阪市北区梅田3-3-20
敷地面積／5,999.33㎡
建築面積／1,946.99㎡
延べ面積／54,279.65㎡
構造／＋30、－2、SRC、RC、S
竣工／2000年6月
建築／大成建設・西松建設・前田建設工業・フジタ・五洋建設・東亜建設工業・大木建設・鴻池組・森本組JV
電気／きんでん・日本電設工業・沖電気工事・関西テック・栗原工業・住友電設・クリハラント・中央電設・野里電気工業JV
空調／大氣社・日立プラント建設・大成設備・ダイダン・高砂熱学工業・日光エンジニアリング・丸紅設備JV
衛生／トーヨコ理研・西原衛生工業・日立プラント建設・大成設備・五建工業JV
昇降機／日立・オーチス・東芝・フジテック
ランドスケープ設計協力／鳳コンサルタント環境デザイン研究所

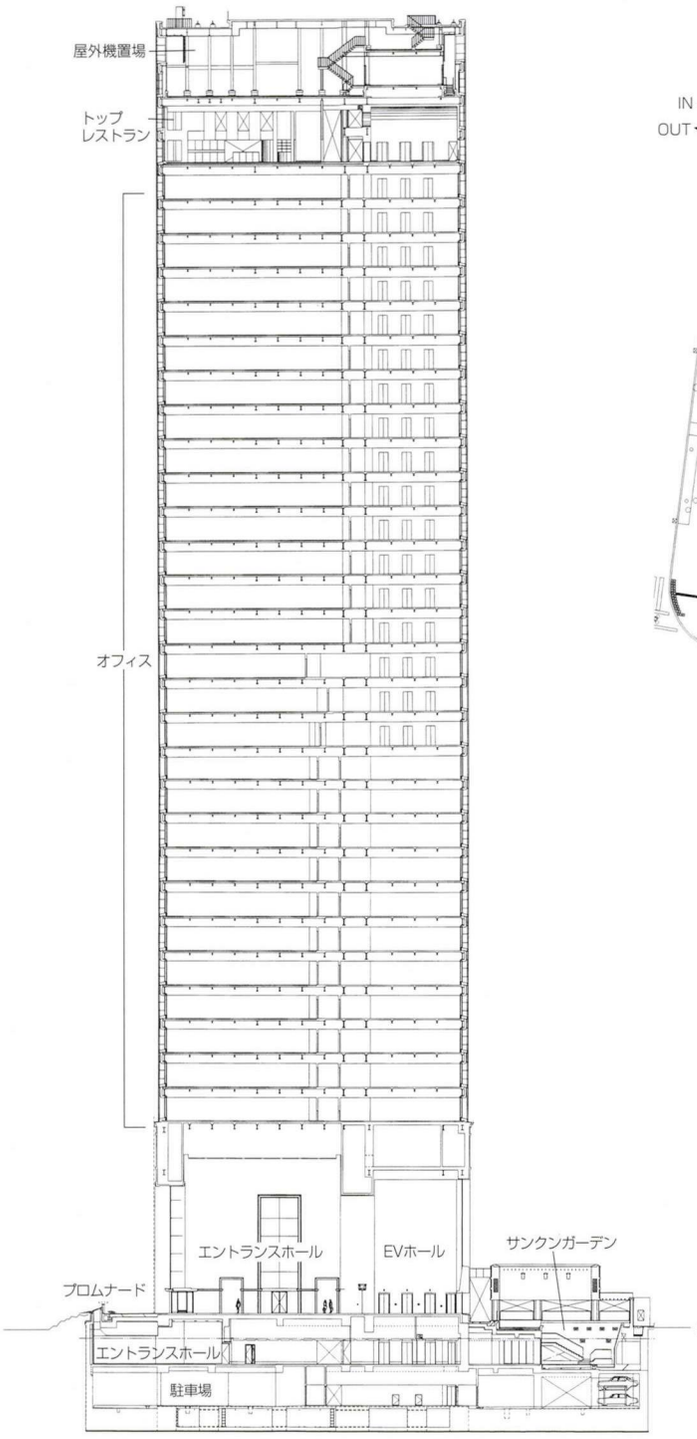
共同設計・監理／レールシティ西開発株式会社



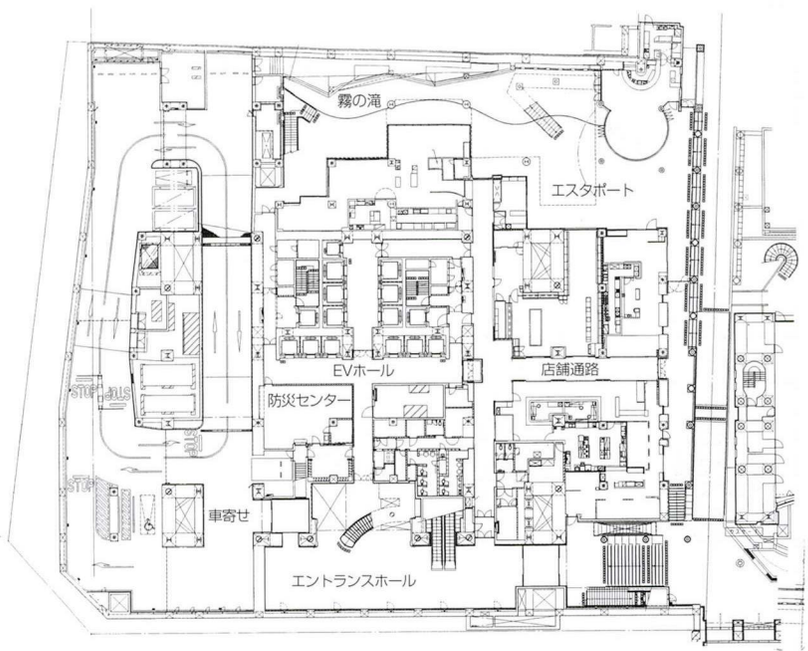
基準階（高層）



1階



A-A' 断面図



地下1階平面図

0 5 10 20m

空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話06(6302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。



熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03—3344—1851(大代)　大阪本社☎06—6448—3603(代)
大阪支社 ☎06—6448—5851(代)　名古屋支店 ☎052—211—1535(代)　中国支店 ☎082—247—5541
九州支店 ☎092—431—2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550-0002 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)6441-8231
東京本社　〒102-0071 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(6458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
給排水設備
電気設備
産業設備
水処理施設
環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役関西支店長　本木　満

関西支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話 06(6202)7554
本　　社　東京都千代田区有楽町1—4—1　電話 03(3502)6103
支　　店　北海道・東北・関東・千葉・横浜・北陸・名古屋・京都・神戸・四国・中国・九州

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある
「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530—0047
TEL(06)6312—4131　FAX(06)6312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・南九州・京都

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町3番5号　電話(6352)1131(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2—22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

Digital Pri-Press
AOBA PRINTING CO.,LTD.,

代表取締役社長 依藤孝行

青葉印刷株式会社
〒534-0027 大阪市都島区中野町2丁目10番11号
Phone.06-6351-5428 Fax.06-6351-5299

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1671
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-7911
大阪本店　大阪市北区西天満3丁目13番20号　電話06-6363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号(オートセンタービル1・2階)
〒542-0066 電話 大阪 (06) 6768—5031代表
メンテナンス　電話　大阪（06）6768—1651代表
東京支社　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル7階)
〒112-0002　電話 (03) 5689—2351代表

夢×技=∞ 無限大
何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木
栗原工業株式会社
本社/〒530-0017大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL06(6313)1101
創業1919

CHOYO
人がいる多彩なフィールドで、
新しい限界に挑戦しています。
電気設備設計施工
朝陽電気株式会社
代表取締役　山本貴士
本　社　〒530-0005 大阪市北区中之島三丁目 2-4(朝日ビル)
TEL 06(6385)1361(代)　FAX 06(6385)1050

電気設備設計施工
株式会社 三興社
代表取締役社長　上田正雄
本　社　大阪市中央区北浜3－6－13（日土地淀屋橋ビル）
電　話　06（6205）3671（代）
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03（3666）1478（代）
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

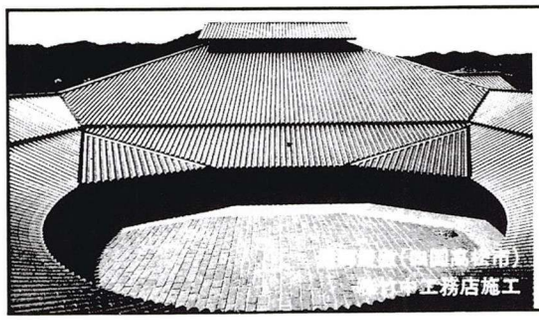
電気設備工事設計施工
東光電気工事株式会社
関西支社
取締役支社長　伊藤義信
大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話大阪(6202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・北関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります
営業種目 設計・施工・監理
●電気設備
受変電・幹線
動力・制御装置
電話、放送、インターホン
防犯、防災
中央監視制御
システム計装
●空調・給排水・衛生設備
空気調和
工場配管
水処理
コージェネレーション
クリーンルーム
●プラント
プラント計装
システムエンジニアリング
●情報通信設備
情報通信ネットワーク
情報処理
通信システム
放送システム
●電力流通設備
受変電
架空送配電
地中送配電
まちと暮らしにあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。
住友電設株式会社
大阪本社 〒550-0011 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06)6537-3400
東京本社 〒105-0014 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

学校建築のトータルアドバイザー
二葉工業株式会社
黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン
〒547-0001 大阪市平野区加美北3―4―5
TEL06(6792)5858　FAX06(6792)2810

＊奉仕感謝の店
タイル及び規格石一式施工
株式会社 川岸窯業商店
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06―6532―0641(代表)
FAX.06―6535―5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

●情報処理●企画・制作●編集●画像処理●印刷・製本
人と技術をクリエイティヴで結びます
日本データネット株式会社
本　社　〒530-0043　大阪市北区天満1-1-10　TEL.06-6352-7502　FAX.06-6355-2714
制作部　〒530-0043　大阪市北区天満1-9-19　TEL.06-6352-0943　FAX.06-6355-5533
印刷工場　〒530-0043　大阪市北区天満2-5-15　TEL./FAX.06-6352-1551



〒556-0024
ファックス　六五六一～七四五四
☎　六五六一～七四一六
大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
ナニワ瓦株式会社
あらゆる屋根工事の相談は、

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
株式会社 エヌエムビー
株式会社 ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木3－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-6202-3294
Master Builders Technologies

デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート躯体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・綱野（07727）2－2220
舞鶴（0773）76－0133

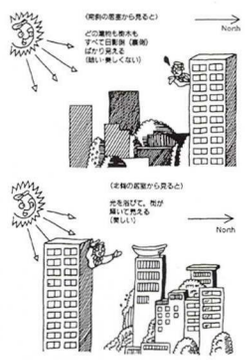
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（06）6332－6861
TEL 東京（03）3272－8501

小浦産業株式会社
TEL 大阪（06）6443－6181

光洋物産株式会社
TEL 大阪（06）6252－6000

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（0775）83－2381
TEL 大阪（06）6877－1581

〈初年度版〉
ISBN4-7615-2196-1
企画／日本建築協会



本書「住宅の居室の日照規定の削除」の項より

徹底解説 大改正 建築基準法

初年度版



民間建築主事
住宅の居室の日照規定の削除
身分証明証の携帯・提示
準防火地域内における、
木造３階建共同住宅の解禁
連担建築物設計制度
性能規定化
などをポイント解説

その中身はどう変わったか
どう対処していけばいいのか
大好評「読みこなすコツ」
シリーズの著者が
わかりやすく、具体的に、
改正法のねらいを徹底解説

高木任之著
A5・208頁・2000円＋税

学芸出版社
京都市下京区木津屋橋通
西洞院東入　〒600-8216
tel 075-343-0811
fax 075-343-0810

社団法人 日本建築協会定款の変更について

●定款変更理由

平成9年12月16日づけ閣議決定で、「公益法人の設立認可および指導監督基準」(以下「指導監督基準」という。)の一部が改正され、これに伴い、各公益法人は、それぞれの団体の現状を点検し、指導基準に適合するよう所要の措置を講じることとなった。

本会においては、新指導監督基準の趣旨に従い点検した結果、同基準で定められた事項と本会の現状に相違点が認められたため、定款を変更して指導基準および同指針に整合させるとともに定款の変更に当たっては、国のモデル定款例文に準拠し、現行条文を全面的に検討整備した。

具体的には、①実態に合わせ事業内容を明確化したこと。
②会員に関する規定の適正化を図ったこと。
③役員に関する規定を補充整備したこと。
④会議に関する規定を補充整備したこと。
⑤財務および会計に関する規定を補充整備したこと。
⑥事務局に関する規定を補充整備したこと。
⑦その他の規定を国のモデル例文に整合させたこと。

各条の変更内容は、下記「現行規定と変更規定の対照表」のとおりである。　　＿＿は、変更部分

現　行　規　定	変　更　案
第1章　総　則	**第1章　総　則**
	(名称)
第2条　本会は、社団法人日本建築協會と稱する。 英文では The Architectural Association of Japanとする。	第1条　本会は、社団法人日本建築協会と称する。 英文では The Architectural Association of Japanとする。
	(事務所)
第3条　本会の主たる事務所は、これを大阪市に置き、なお必要に応じ各地に支部を置くことができる。 主たる事務所の位置の変更、並びに支部の設置、変更若しくは廃止については評議員会の議決でこれを定める。	第2条　本会の主たる事務所は大阪府大阪市に置き、なお、本会の目的達成のため、必要な地に支部を置くことができる。 2．主たる事務所の位置の変更、並びに支部の設置、変更若しくは廃止については総会の議決でこれを定める。
第5条　本會の事業年度は毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。　※新39条	
第6条　本会の公告は会報又は官報若しくは総会の議決で指定した日刊新聞に掲げてこれをする。 第7条　本定款の施行に必要な事項は細則でこれを定める 細則は評議員会の議決でこれを定める。 ※削除	
	(目的)
第1条　本会は建築関係各部門の連繋協力によって建築に関する学術、技芸、事業の進歩発展を図ると共に、建築を通じ広く社会に貢献することを目的とする。	第3条　本会は建築関係各部門の連携協力によって、建築に関する学術、技術及び事業の進歩発展を図ると共に、建築を通じ広く社会に貢献することを目的とする。
	(事業)
第4条　本会は次の事業を行う。 1．建築関係各部門間並びに建築と社会との連繋　※削除 2．建築関係事業の改善発達に資する意見の決定並びに表明　※削除 3．建築に関する学術、技芸、施策の研究、調査及び社会指導並びに一般啓蒙　※削除 4．建築関係各部門の振興に資する施設並びに営造物の設置及び管理　※削除 5．建築に関する証明、鑑定、仲介、斡旋又は仲裁、検定試験の執行及び資格の認定　※削除 6．会員の向上及び相互の親睦に関する諸施設並びに会合　※削除 7．会報、雑誌、図書及び印刷物の刊行並びに発売 8．その他本会の目的を達するに必要な事業	第4条　本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。 （1）建築に関する学術、技術及び施策の調査研究 （2）講演会、講習会等の開催その他建築に関する知識の普及 （3）建築に関する技術教育の振興 （4）建築の振興発展に資する業績等の表彰 （5）会報、雑誌、図書及び印刷物の刊行 （6）その他本会の目的を達するに必要な事業
第2章　会　員	**第2章　会　員**
	(種別)
第8条　会員は、正会員及び準会員の2種とし、正会員を以て民法上の社員とする。	第5条　本会の会員は、次の3種とし、個人正会員及び団体正会員（以下「正会員」という。）をもって民法上の社員とする。
第9条　正会員は次の各号のいずれかに該当するものとする。	（1）個人正会員　建築又はこれに関係ある職務を有

現　行　規　定	変　更　案
1．建築又はこれに関係ある職務を有し、相当の学識又は経験を有する者 2．建築又はこれに関係ある業務を営む者又は団体	し、相当の学識又は経験を有する者 （2）団体正会員　建築又はこれに関係ある事業を営む法人又は団体 （3）準　会　員　本会の目的に賛同して入会した個人正会員以外の個人
第10条　準会員は建築に趣味を有する者、又は建築若しくはこれに関係のある学科を専攻する学生、生徒とする。	
第12条　会員となるには、細則の定めるところによって入会申込書に入会金を添えて本会に提出し、理事会の承認を経なければならない。 〔会員が退会するには、会費を完納して本会にその旨を届出なければならない。 ※　新第10条〕	（入会） 第6条　会員として入会しようとする者は、理事会の議決を経て会長が別に定める入会申込書により、会長に申し込まなければならない。 2．入会は、総会が別に定める基準により、理事会においてその可否を決定し、会長が申込者に通知するものとする。 3．法人又は団体たる会員にあっては、法人又は団体の代表者として本会に対してその権利を行使する者（1名に限る。以下「指定代表者」という。）を定め、会長に届け出なければならない。 4．指定代表者を変更した場合は、速やかに別に定める変更届を会長に提出しなければならない。
第14条　第9条第2号による正会員は、細則の定めるところに従って、本会の承認を経て会員を指名することができる。 前項により指名せられた会員は、これを正会員とみなす。	
第11条　正会員で次の各号のいずれかに該当する者は、総会の議決でこれを名誉正会員に推挙することができる。 1．学識名望ある者又は本会に対する功績顕著な者 2．30年以上正会員であって年齢65を超えた者	（名誉正会員） 第7条　個人正会員で次の各号のいずれかに該当する者は、理事会の推薦により総会の議決でこれを名誉正会員に指名することができる。 （1）学識経験者又は本会に対する功績が顕著な者 （2）30年以上正会員であって年齢65歳を超えた者
第15条　会員は細則の定めるところにより、会費1口以上を前納しなければならない。但し名誉正会員及び前条により指名せられたる会員はこの限りでない。	（会費） 第8条　会員は総会において別に定めるところにより、会費1口以上を納入しなければならない。 2．前条により指名された名誉正会員には会費の納入を免除することができる。
第18条　退会又は除名によって、会員資格を失った者は、如何なる理由によっても既納の会費又は物件の返還、その他本会の財産に対する一切の請求権を失う。但し、本会に対する債務はこれを免かれることができない。	（会員の資格喪失） 第9条　会員は、次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。 （1）退会したとき。 （2）後見開始又は保佐開始の審判を受けたとき。 （3）死亡し、又は会員である法人又は団体が解散したとき。 （4）2年以上会費を滞納したとき。 （5）除名されたとき。
第13条　会員の氏名は、これを会員名簿に登録し、会員の権利義務は、名簿登録をした日から生ずる。 会員の権利は一身に専属し、これを他人に移転することができない。但し、第9条第2号による正会員で、本会の承認を経た場合はこの限りでない。	（退会） 第10条　会員は、理事会の議決を経て会長が別に定める退会届を会長に提出して、退会することができる。 2．退会しようとする者は、会費の完納等所定の義務を履行しなければならない。
第16条　会員が会費を滞納した場合には、その期間中会員権の行使を停止されることがある。但し、この場合会員は既往の債務を免れることができない。	（除名） 第11条　会員が次の各号の一に該当するときは、総会において正会員の表決権総数の3分の2以上の議決に基づいて除名することができる。
第17条　会員で次の各号のいずれかに該当する者は、評議員会の議決でこれを除名することができる。　但し第3号の場合に限り理事会の議決を以てこれに代えることが出来る。 1．本会の秩序を乱し又は本定款若しくは細則に違反する行為があると認めた者 2．本会の名誉を汚損する行為があると認めた者 3．会費の滞納が4ケ月に及びなお督促に応じない者	（1）本会の定款、規則又は総会の議決に違反したとき （2）本会の名誉を傷つけ、又は本会の目的に違反する行為があったとき。 2．前項に該当し除名する場合には、その会員に対し、あらかじめ通知するとともに、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。
	（会費等の不返還） 第12条　会員が既に納付した会費、入会金その他の拠出金品は、これを返還しない。

現　行　規　定	変　更　案
第３章　　役員、名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与	**第３章　　役員、名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与**
第19条　本会に次の役員を置く 会　長　　１名 副会長　　５名以内 理　事　　40名以上50名以内（専務理事、常務理事を含む） 支部長　　若干名 監　事　　３名以内 評議員　　若干名 会長、副会長及び理事を以て民法上の理事とする。	（役員の種類及び定数） 第13条　本会に次の役員を置く。 理　事　50名以上55名以内 監　事　２名又は３名 ２．理事のうち、１名を会長、６名以内を副会長、１名を専務理事とし、１名を常務理事とすることができる。
第20条　監事及び評議員は総会で、会長、副会長及び理事は評議員会で正会員の中からこれを選任する。 支部長は支部規定により、支部所属正会員の互選によって選任する。	（役員の選任等） 第14条　理事及び監事は、総会において選任する。 ２．理事は正会員（法人又は団体にあっては指定代表者）の中から選任する。但し、理事のうち２名以内は会員外から選任することができる。
第21条　専務理事、常務理事は、第20条の規定にかかわらず、理事会の承認を得て、会長がこれを任命する。 理事のうち、若干名を常任理事に委嘱することができる。	３．会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事の互選とする。 ４．理事及び監事は、相互にこれを兼ねることができない。 ５．理事に異動があったときは、２週間以内に登記し、登記簿の謄本を添え、遅滞なくその旨を建設大臣に届け出なければならない。 ６．監事に異動があったときは、遅滞なくその旨を建設大臣に届け出なければならない。
第23条　会長は、会務を総理し、本会を代表し、総会及び理事会の議長となる。 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。 専務理事及び常務理事は、会長の指揮を受けて業務を処理する。	（職務） 第15条　会長は、本会を代表し、会務を総理する。 ２．副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、理事会があらかじめ指定した順序に従い、その職務を代行する。 ３．専務理事は、会長及び副会長を補佐し、本会の常務を統括する。
第24条　会長、副会長及び理事は理事会を組織し、会務を執行する。　※　新　第30条 理事会の議事は出席者の過半数でこれを決し、可否同数の場合には、議長の決するところによる。 理事会に出席できない者は、書面で議決に参加し又は他の出席者に委任して、議決権を行使することを妨げない。　※　新　第35条	４．常務理事は、理事会の議決に基づき、本会の常務を分担処理する。 ５．理事は、理事会を構成し、定款及び総会の議決に基づき、本会の業務を執行する。
第26条　監事は、常時会務及び財産の状況を監査し、特別の事由あるときは、総会又は評議員会を招集することができる。 監事は、理事会に出席して意見を述べることができる。但し、議決に加わることはできない。	６．監事は、次に掲げる職務を行う。 （１）財産及び会計を監査すること。 （２）理事の業務執行状況を監査すること。 （３）財産、会計及び業務の執行について、不整の事実を発見したときは、これを総会又は建設大臣に報告すること。 （４）前号の報告をするため必要があるときは、総会又は理事会の招集を請求し、若しくは総会を招集すること。
第27条　評議員は評議員会を組織し重要会務を議決する。	
第25条　支部長は、支部を代表し、支部の会務を執行する。 支部長は、理事会に出席して意見を述べることができる。但し、議決に加わることはできない。	（任期） 第16条　役員の任期は２年とする。 ２．補欠又は増員により選任された役員の任期は、それぞれ前任者又は現任者の残任期間とする。
第22条　役員の任期は２年とし、選任年度の次期の事業年度初からこれを起算する。　但し、評議員の任期は選任年度の３月からこれを起算する。 役員は同一の役員に重任することができない。 但し、特別の事情あるときは夫々の選任機関の承認を得て重任することができる。 会長、支部長、専務理事及び常務理事を除く役員は、毎年その半数を改選する。 役員に欠員を生じたときは、これを補選する。	３．役員は、再任されることができる。 ４．役員に欠員を生じたときはこれを補選する。 但し、第13条に掲げる最低数を欠かないときは補選しないことができる。 ５．役員は、辞任又は任期満了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければな

現　行　規　定	変　更　案
但し、第19条に掲げる最低数を欠かないときは次の評議員会において承認を得たうえ、次の改選期まで補選しないことができる。 補選に依る役員の任期は、前任者の残期間とする。	らない。 （解任） 第17条　役員が次の各号の一に該当する場合には、総会において正会員の表決権総数の3分の2以上の議決に基づいて解任することができる。この場合においては、その役員に対しあらかじめ通知するとともに、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。 （1）心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。 （2）職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。 （報酬等） 第18条　役員は無報酬とする。但し、常勤の役員には報酬を支払うことができる。 2．役員には費用を弁償することができる。 3．前2項に関する必要な事項は、理事会の議決を経て会長が別に定める。
第28条　本会に名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与若干名を置くことができる。 1．名誉会長は本会の会長の職にあった者で理事会の推薦により総会の議決を経た者。 2．名誉会長は会長の諮問に応じ、且つ各種の会議に出席して意見を述べることができる。 3．名誉顧問は本会の事業遂行にその協力を求めるため、理事会の推薦により総会の議決を経た者。 4．顧問は建築に関係ある学識経験者であって、理事会の推薦により総会の議決を経た者。顧問は会務の重要事項について、会長の諮問に応じ又は意見を提出する。 5．参与は会員の中から理事会で推薦委嘱した者。 参与は会務について、理事会の諮問に応じ又は意見を提出する。 参与の任期については第22条の規定を準用する。 顧問及び参与は役員に就任したときはその位置を退くものとする。	（名誉会長等） 第19条　本会に名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与若干名を置くことができる。 （1）名誉会長は、本会の会長の職にあった者で理事会の推薦により総会の議決で指名した者とする。 名誉会長は、会長の諮問に応じ、かつ、各種の会議に出席して意見を述べることができる。 （2）名誉顧問は、本会の役員として特に功労のあった者で理事会の推薦により総会の議決で指名した者とする。 名誉顧問は、本会の事業遂行に助言し、協力するものとする。 （3）顧問は、建築に関係ある学識経験者であって、理事会の推薦により総会の議決で指名した者とする。 顧問は、会務の重要事項について、会長の諮問に応じ又は意見を提出する。 （4）参与は、会員の中から理事会が推薦し、委嘱した者とする。 参与は、会務について、理事会の諮問に応じ又は意見を提出する。 2．顧問及び参与の任期は2年とし、再任を妨げない。 3．名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与については、第18条の規定を準用する。この場合において、規定中「役員」とあるのは、「名誉会長、名誉顧問、顧問及び参与」と読み替えるものとする。 4．顧問及び参与は、役員に就任したときはその位置を退くものとする。
第4章　会　議	**第4章　総　会**
第29条　会議は総会及び評議員会の2種とし、更に総会を通常総会及び臨時総会の2種に分ける。 会議は会長これを招集する。 会議の議事録は議事の経過の要領及び其の結果を記載し、総会の場合は議長及び出席正会員2名、評議員会の場合は議長及び出席評議員2名の署名を得て保存しなければならない。　但し、書面表決のときは会長の署名で足りる。　※　新第29条	（種別） 第20条　本会の総会は、通常総会及び臨時総会の2種とする。
第30条　総会は、正会員を以て組織する。総会における正	（構成） 第21条　総会は正会員をもって構成する。

現　行　規　定	変　更　案
会員の表決権は、会費１口につき１個とする。 但し、会員１名の口数が、総正会員の口数の20分の１を超えるときは、その超過分には表決権はない。	２．総会における正会員の表決権は会費１口につき１個とする。但し、一正会員の口数が、総正会員の口数の50分の１を超えるときは、その超過分には表決権はないものとする。
第35条　次の事項については総会の議決を経なければならない。 １．定款の変更 ２．重要な財産又は基金の処分 ３．本会の解散及び清算 ４．収支予算及び決算 前項第四号の予算で、評議員会の議決を経たものについては、理事会は総会の議決がないときでも原案を執行することができる。但し、この場合には次の総会に於いて承認を求めなければならない。 総会は、会議の延期又は続行を議決することができる。この場合には第32条の規定を適用しない。	（権能） 第22条　総会は、この定款で別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要事項を議決する。
第36条　前条第１項第１号乃至第３号に関する議事については、総正会員の20分の１以上が出席し、総表決権の20分の１以上を行使し、３分の２以上の多数による議決を必要とする。 出席者が前項の定足数に達しないときは、出席者の表決権の過半数で仮議決をすることができる。 この場合には、遅滞なく再度総会を招集して、出席者の表決権の過半数で、仮議決の認否を決する。	
第31条　通常総会は毎年２回、２月及び６月にこれを開く 臨時総会は、評議員会又は会長が必要と認めたとき、若しくは正会員100名以上から会議の目的事項を示して要求があったときこれを招集する。	（開催） 第23条　通常総会は毎年２回開催する。 ２．臨時総会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。 （１）理事会が必要と認め招集の請求をしたとき。 （２）正会員の５分の１以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。 （３）第15条第６項第４号の規定により、監事から招集の請求があったとき、又は監事が招集したとき。
	（招集） 第24条　総会は、第15条第６項第４号の規定により監事が招集する場合を除き、会長がこれを招集する。 ２．会長は、前条第２項の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。
第32条　総会を招集するには、会日から１週間前に、会議の目的事項、日時及び場所を示して、書面又は公告によって正会員に通知を発しなければならない。但し、緊急の必要ある場合、又は再度招集の場合はこの期間を短縮することができる。	３．総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも７日前までに通知しなければならない。
第33条　正会員は、正会員10名以上の賛成を得て、総会に議案を提出することができる。 総会で正会員が動議を提出するには、出席者の20分の１以上の賛成がなければならない。 前項の動議による議決事項は、次の総会で承認を得なければならない。	（議長） 第25条　総会の議長は、その総会において、出席正会員の中から選出する。
	（定足数） 第26条　総会は、正会員総数の２分の１以上の出席がなければ開会することができない。
第34条　総会の議事は、特別の場合を除き出席者の過半数でこれを決し、可否同数の場合には議長の決するところによる。 臨時総会は、会議によらないで書面表決によることができる。　この場合、会長はその結果を遅滞なく公告又は書面によって正会員に報告しなければならない。　書面表決は議決と同一の効力を有する。	（議決） 第27条　総会の議事は、この定款で別に定めるもののほか、出席正会員の表決権総数の過半数をもってこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

現　行　規　定	変　更　案
第37条　総会に出席しない正会員は、書面で表決をし、又は他の出席正会員をその代理人とすることができる。 第38条　評議員会は、毎年３月、６月及び11月に、定時会議を開き、なお、会長又は理事会が必要と認めたとき、若しくは評議員10名以上から会議の目的事項を示して要求のあったとき臨時会議を開く。 第39条　評議員会に議案を提出するには、正会員は評議員５名以上の、評議員は評議員２名以上の賛成を得て、これをすることができる。 第40条　評議員会の招集及び議決については、総会の規定を準用する。 　評議員会の議長及び副議長は、評議員の互選とし、その任期は１年とする。 　評議員会は総評議員の３分の１以上出席しなければ議決を行うことができない。	（書面表決） 第28条　やむを得ない理由のため、総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。 ２．前項の場合における前２条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。 （議事録） 第29条　総会の議事については、次に掲げる事項を記載した議事録を作成しなければならない。 （１）日時及び場所 （２）正会員の現在数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者及び表決委任者の場合にあっては、その人数を付記する。） （３）審議事項及び議決事項 （４）議事の経過の概要及びその結果 （５）議事録署名人の選任に関する事項 ２．議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人２名以上が、署名及び押印をしなければならない。 **第５章　理　事　会** （構成） 第30条　理事会は、理事をもって構成する。 （権能） 第31条　理事会は、この定款で別に定めるもののほか、次の事項を議決する。 （１）総会に付議すべき事項 （２）総会の議決した事項の執行に関する事項 （３）その他総会の議決を要しない会務の執行に関する事項 （種類及び開催） 第32条　理事会は、通常理事会及び臨時理事会の２種とする。 ２．通常理事会は、毎年２回開催する。 ３．臨時理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。 （１）会長が必要と認めたとき。 （２）理事現在数の３分の１以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。 （３）第15条第６項第４号の規定により監事から招集の請求があったとき。 （招集） 第33条　理事会は、会長がこれを招集する。 ２．会長は、前条第３項第２号又は第３号の規定による請求があったときは、その日から14日以内に臨時理事会を招集しなければならない。 ３．理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面をもって、少なくとも７日前までに通知しなければならない。 　但し、緊急の必要があるときは、あらかじめ理事会で定めた方法により通知することができる。 （議長） 第34条　理事会の議長は、会長がこれにあたる。 （定足数等） 第35条　理事会には、第26条から第29条までの規定を準

現　行　規　定	変　更　案
	用する。この場合において、これら規定中「総会」は「理事会」と、「正会員」及び「正会員の表決権」は「理事」と読み替えるものとする。
第５章　　資産及び会計	**第６章　　財産及び会計**
	(財産の構成)
第42条　本会に基金を置く。 　基金は、これに指定せられた寄附金その他評議員会でこれに編入の議決を行ったものをこれに当てる。	第36条　本会の財産は、次に掲げるものをもって構成する。 （１）入会金及び会費 （２）寄附金品 （３）財産から生ずる収入 （４）事業に伴う収入 （５）その他の収入
	(財産の管理)
第43条　本会の財産は会長がこれを管理する。 　但し、管理方法に就いて評議員会が議決したときはこれに従う。 　本会の財産又は収入は、これを会員に分配することができない。	第37条　本会の財産は、会長がこれを管理し、その方法は、総会の議決を経て、会長が別に定める。
	(費用の支弁)
第44条　本会の経費は、会費、基金収入又は事業収入、寄付金、補助金その他の収入でこれを支弁する。	第38条　本会の経費は、財産をもって支弁する。
	(事業年度)
	第39条　本会の事業年度は、毎年４月１日に始まり、翌年３月31日に終わる。
	(事業計画及び予算)
	第40条　本会の事業計画及びこれに伴う予算に関する書類は、会長が作成し、毎事業年度開始前に、総会において出席正会員の表決権総数の３分の２以上の議決を経て、建設大臣に届け出なければならない。 　これを変更しようとするときも、同様とする。
	(暫定予算)
	第41条　前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により事業年度開始前に予算が成立しないときは、会長は、理事会の議決を経て、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じて収入及び支出をすることができる。 ２．前項の収入及び支出は、新たに成立した予算の収入及び支出とみなす。
	(事業報告及び決算報告)
第45条　財産目録及び貸借対照表は、毎事業年度末現在によりこれを調整する。 　前年度の収支決算、財産目録、貸借対照表及び事業報告書は、毎年６月迄に専務理事又は常務理事がこれを調整し、理事会の議決を経て、監事に提出しなければならない。 　監事は、前項の書類を受理したときは、これを監査し、意見を附して総会及び評議員会に報告しなければならない。	第42条　本会の事業報告及び決算は、毎事業年度終了後、会長が事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録等として作成し、監事の監査を受け、総会において出席正会員の表決権総数の３分の２以上の議決を経て、その事業年度終了後３月以内に建設大臣に報告しなければならない。 　この場合において、資産の総額に変更があったときは、２週間以内に登記し、登記簿の謄本を添えるものとする。
	(長期借入金)
	第43条　本会が資金の借入をしようとするときは、その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、総会において正会員の表決権総数の３分の２以上の議決を経て、建設大臣に届け出なければならない。
	第７章　　事　務　局
	(設置等)
	第44条　本会の事務を処理するため、事務局を設置する。 ２．事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。 ３．事務局長及び職員は、会長が任免する。 ４．事務局の組織及び運営に関する必要な事項は、総会の議決を経て、会長が別に定める。

現　行　規　定	変　更　案
	（備付帳簿及び書類） 第45条　事務所には、常に次に掲げる帳簿及び書類を備えておかなければならない。 （1）定款 （2）会員名簿及び会員の異動に関する書類 （3）理事、監事及び職員の名簿及び履歴書 （4）許可、認可等及び登記に関する書類 （5）定款に定める機関の議事に関する書類 （6）収入及び支出に関する帳簿及び証拠書類 （7）資産、負債及び正味財産の状況を示す書類 （8）その他必要な帳簿及び書類
	第8章　委　員　会
第41条　本会は、その目的遂行のため、部会及び委員会を置くことができる。	（委員会） 第46条　本会は、事業計画の円滑な推進を図るため、委員会を設けることができる。 2．委員会の組織及び運営に関し必要な事項は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。
第6章　解散及び清算	**第9章　定款の変更及び解散**
第46条　本会の解散は、総会の議決による。	（定款の変更） 第47条　この定款は、総会において正会員の表決権総数の4分の3以上の議決を経、かつ、建設大臣の認可を得なければ変更することができない。 （解散） 第48条　本会は、民法第68条第1項第2号から第4号まで及び第2項第2号の規定によるもののほか、総会において正会員の表決権総数の4分の3以上の議決を経、かつ、建設大臣の認可を得て解散する。
第47条　清算人は、総会でこれを選任する。 清算人は、就任の日から6ケ月以内に清算及び財産処分の方法を定めて、総会に提出しなければならない。	（残余財産の処分） 第49条　本会が解散のときに有する残余財産は、総会において正会員の表決権総数の4分の3以上の議決を経、かつ、建設大臣の許可を得て、本会と類似の目的を有する他の公益法人に寄附するものとする。
	第10章　補　則
	（委任） 第50条　この定款に定めるもののほか、本会の運営に関する必要な事項は、総会の議決を経て、会長が別に定める。
附　則	付　則
本定款は、民法第38条による認可の日から、これを施行する。 従前の定款による終身賛助会員は、そのままとする。 本会の定款は、主務官庁の認可の日からこれを施行する。	1．この定款の変更は、建設大臣の認可があった日から施行する。 2．この定款の規定において、総会又は理事会の議決を要する事項中、この定款施行の際、現に実施されている事項については、この定款に基づき総会又は理事会の議決を経たものとみなす。

竣工：安田生命大阪ビル 協賛

ＰＣカーテンウォールは
ビルの顔をつくります。



ＰＣＳＡ正会員・ＩＳＯ９００１認証取得

株式会社 西日本ＰＣ

本　社　〒812-0018　福岡市博多区住吉３丁目９番20号
TEL.092-271-1717 FAX.092-271-0469

工　場　〒820-0705　福岡市嘉穂郡筑穂町大字元吉686
TEL.0948-72-0184 FAX.0948-72-3528

世紀を越える素材を求む者へ。

「デュフロン4Fシリーズ」

それは建築用高耐久塗料新時代突入へのプロローグです。

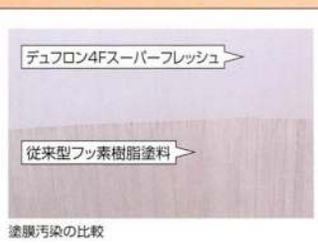


更に超低汚染はNo.1品質

バルーンセラミック技術が従来の低汚染技術の常識を覆します。

塗装直後から超低汚染機能を発揮

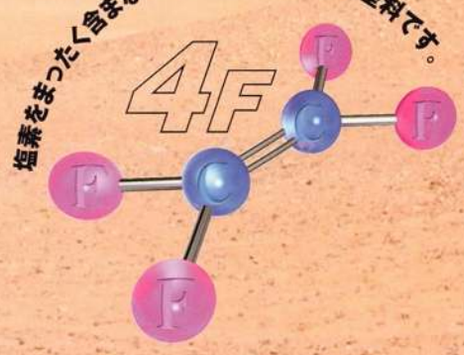
デュフロン4Fスーパーフレッシュの超低汚染性は建物の洗浄コストの低減を可能にし、ライフサイクルコストの削減と同時に環境負荷の軽減も実現します。



塗膜汚染の比較

4F神話創世記…

塩素をまったく含まない新時代のフッ素樹脂塗料です。



◎塩素を含まない超高耐久塗料◎

デュフロン4Fシリーズ

お問い合せは直接お電話でどうぞ。詳しい資料を差し上げます。下記宛までご請求ください。

日本ペイント Basic & New

建設塗料部 ☎06-6455-9123(大阪)／☎03-3740-1123(東京) 塗料相談室 ☎06-6455-9113(大阪)／☎03-3740-1120(東京)

http://www.nipponpaint.co.jp/

デュフロン4Fシリーズはダイキン工業(株)のフッ素塗料ワニス「ゼッフル」を使用しています。

雑誌 03379-9

定価1,200円(●本体1,143円●消費税57円●送料共) 正会員の購読料は会費に含めて徴収